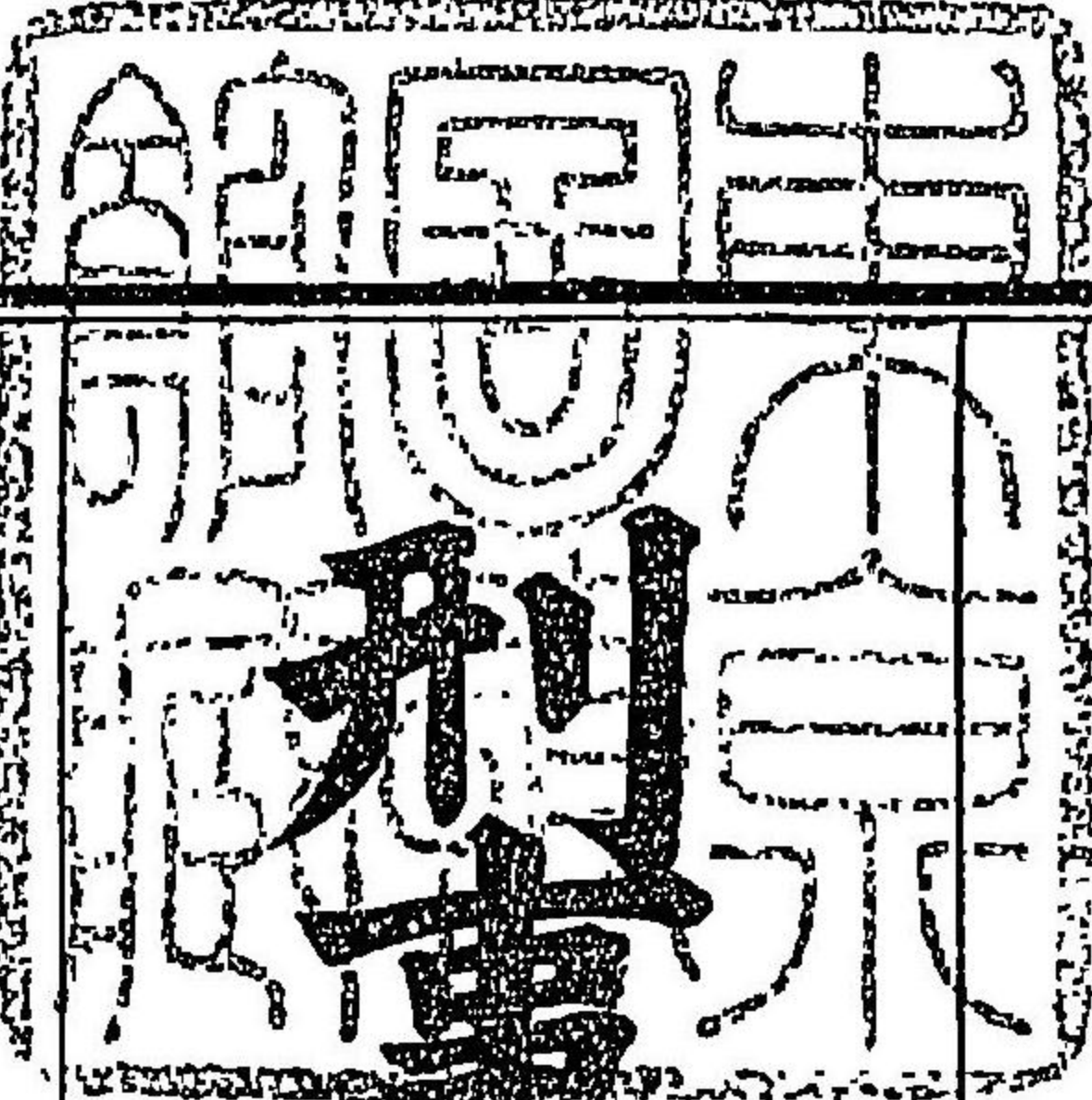


V<sup>o</sup> 72/13/XXIII

42-10



# 刑事訴訟法義解

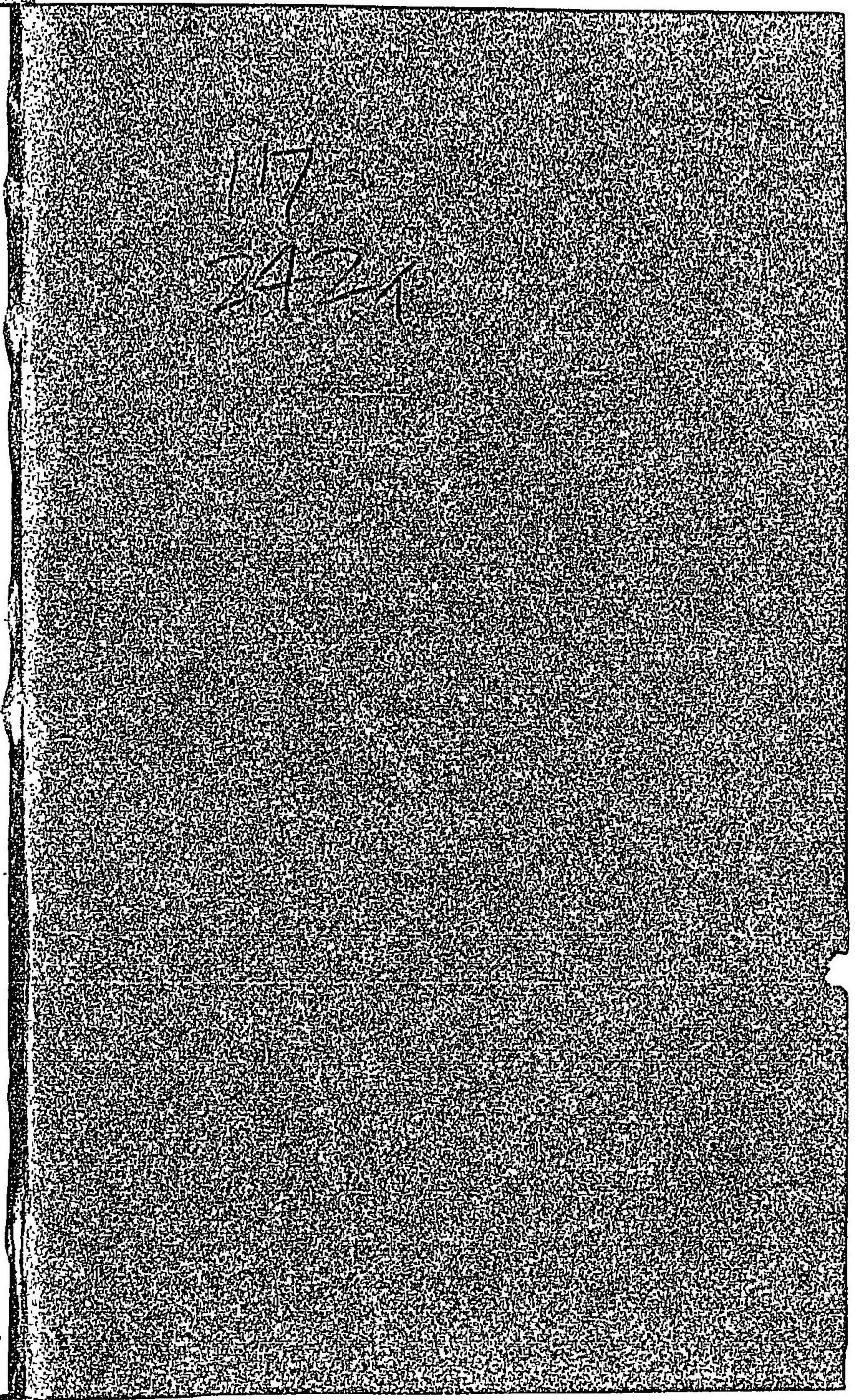
上卷

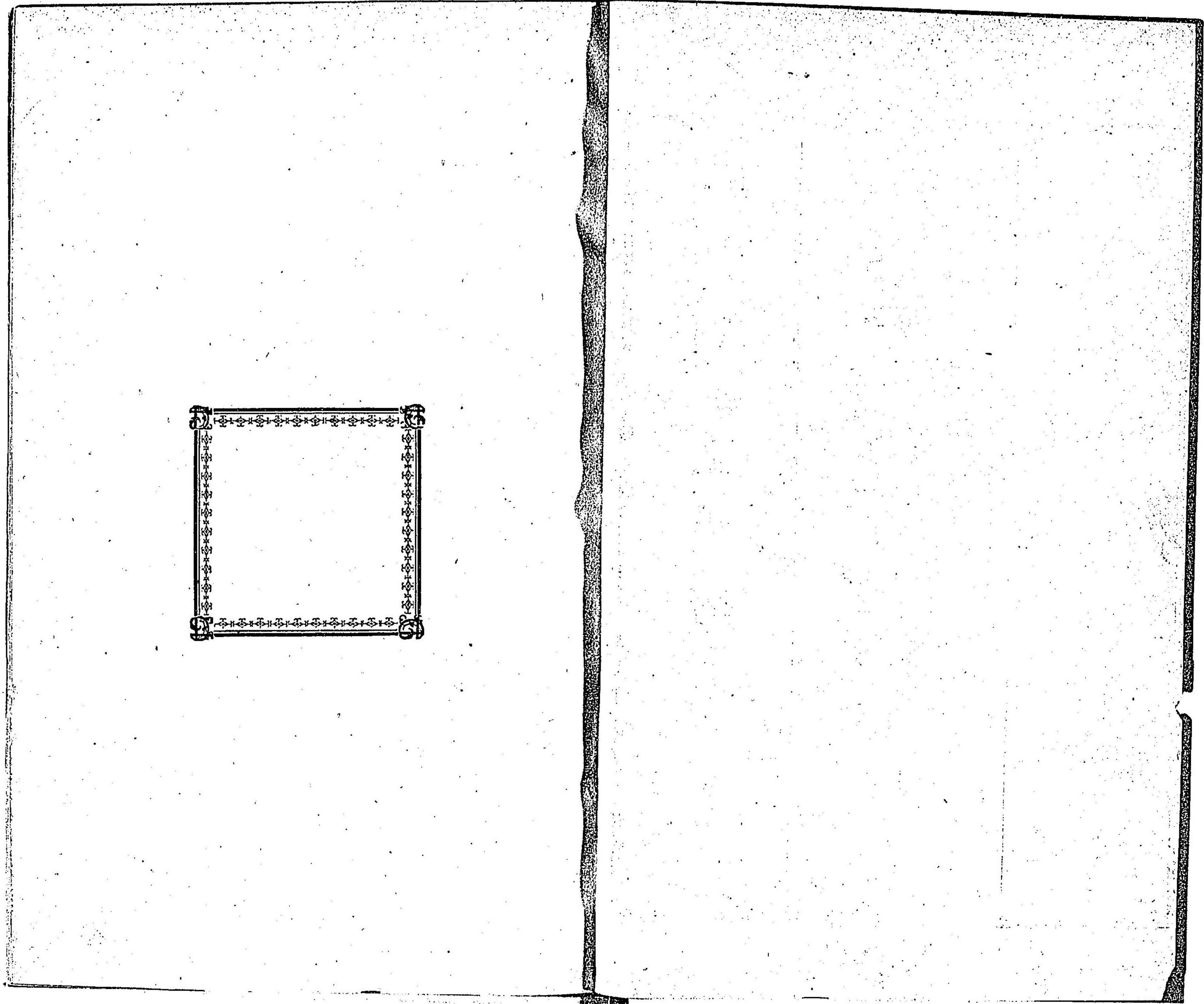
日本法學博士  
佛國大學法律博士  
井上正一著



發行所

東京 明法堂  
全 博聞社





刑事訴訟法義解目次

緒言

一丁

第一編 總則

四丁

第一節 公訴

四丁

公訴ノ發生及ヒ目的

四丁

公訴ヲ行フ權アル人

八丁

公訴ノ獨立

二十六丁

公訴ノ消滅

三十八丁

第二節 私訴

五十七丁

私訴ノ發生及ヒ目的

五十八丁

私訴權ノ屬スル人

六十七丁

私訴ノ管轄

九十三丁

私訴ノ消滅

百十四丁

第三節 本法ノ限度

時ノ限度

二百〇六丁

罪質ノ限度

二百〇七丁

第四節 期間及ヒ書類

期間

二百十三丁

二百十四丁

書類

二百二十二丁

二百二十八丁

第二編 裁判所

第一節 犯罪ノ種類ニ因ル裁判管轄

二百二十九丁

第二節 裁判管轄變更ノ申請

二百五十六丁

第一 裁判管轄指定ノ申請

二百五十七丁

第二 公安又ハ嫌疑ノ爲メ裁判管轄ヲ移ス

二百六十一丁

申請

第三節 裁判所及検事局ノ官吏及ヒ

其除斥忌避回避

二百六十八丁

判事

二百六十八丁

検事

二百八十一丁

裁判所書記

二百八十九丁

執達吏

二百九十二丁

第三編 犯罪ノ捜査及ヒ起訴

二百九十三丁

第一節 捜査

二百九十三丁

告訴

三百〇一丁

告發

三百〇三丁

告訴告發ニ關スル通則

三百十一丁

現行犯

三百十五丁

第二節 起訴

三百十六丁

第四編 豫審

三百二十一丁

第一節 令狀

三百三十五丁

令狀ニ關スル通則

三百三十七丁

召喚狀

三百三十九丁

勾引狀

三百四十二丁

勾留狀

三百五十七丁

令狀ノ執行

三百六十四丁

第二節 密室監禁

三百七十五丁

第三節 保釋

三百八十三丁

第四節 證據

三百九十一丁

第五節 被告人ノ訊問及ヒ對質

四百十丁

被告人ノ訊問

四百十丁

對質

四百十七丁

刑事訴訟法義解上卷目次終

刑事訴訟法義解

日本法學博士  
佛蘭西大學法律博士

井上正一 著

緒言

凡ソ刑法ニ關ル、所爲社會ニ現出スルホハ社會ハ之ヲ罰スルノ權アリ此權ヲ稱シテ刑罰權ト云フ是レ余カ曾テ刑法講義ニ於テ詳悉シタルモノニ係ル然レモ社會ハ徒ニ此權ヲ有スルノミコテハ毫モ其効用アルコト無クシテ必ス之レカ實行ヲ期セサルヲ得ス實行ヲ期セン乎相應ノ機關ヲ付テモ亦必ス諸多ノ方法ヲ可ラス機關ヲ運用スルニ付テモ亦必ス諸多ノ方法ヲ要スルヲ勿論ナリ譬へハ猶ホ機關ノカト運用ノ法ト具備スルニ非レハ即チ刑法ヲ運用スルノ機關ト方式トヲ規定スル者ニシテ刑法ト共ニ體用相待テ始テ其効用ヲ現ハスコト得可キナリ



立法者カ刑法ヲ制定スルニ當テハ其單ニ社會ヲ傷害スルノ所爲タルト社會ヲ傷害シ併セテ道德ニ背戾スルノ所爲タルトニ從ヒ科ス可キ刑ニ輕重ヲ置ク可キノミナラス其如何ナル所爲カ果シテ道德ニ背キ社會ヲ害スルヤ如何ナル刑ハ最モ完全ニシテ且ツ最モ能ク其効ヲ奏スヘキヤ又罰スヘキノ所爲ト科スヘキ刑トノ間ニハ其權衡ノ宜キヲ得タルヤ否ニ付キ大ニ熟慮ヲ要スヘキモノアリ

刑事訴訟法ノ制定ニ於ケルモ亦然リ社會ハ犯法者ヲ罰スルノ權アルカ故ニ犯法者モ亦濫刑ヲ拒ムノ權ナカル可ラス然レハ則チ社會ハ充分ニ其權利ヲ行ハシムルノ方法ヲ定ムルト同時ニ犯法者ヲシテ亦充分ニ其自己防護ノ權利ヲ行ハシムルノ方法ヲ定メサルヲ得ス蓋社會ノ權利ト犯法者ノ權利トハ常ニ相反スルカ故ニ立法者ハ務メテ之レカ調和ヲ謀ル可キト寔ニ必要ナリト云フ可シ若夫レ刑事訴訟法ニシテ完備セサルトアラシカ恐ル無辜純潔ニ泣キ姦惡法網ノ外ニ嘲ラン

ト苟クモ如斯ナレハ刑事訴訟法ハ何ヲ以テ能ク刑法運用ノ機關タルト得ン於是乎知ル刑法ト刑事訴訟法トハ其ニ完全ヲ望ム可ク二者ノ間決シテ軒輊ナキトヲ

刑事訴訟法ハ專ラ社會ノ刑罰權ヲ實行スルカ爲メニセル機關方式ニ關スル者ナリト雖モ其中或ハ刑罰權實行ノ方式ニ直接ノ關係ヲ有セサル者ナキニアラス例ヘハ彼ノ復權特赦ノ如キ是レナリ此等ハ畢竟刑罰權實行ノ後ニ生スル所ノモノ即チ其實行ヲ止ムル者ナレハ決シテ刑罰權ヲ實行スルノ方法ナリト云フト得ス然レモ刑罰ヲ實行スルト其實行ヲ停ムルトハ其間互ニ關係ヲ有スル者ナルカ故ニ之ヲ刑事訴訟法ニ規定スルモ亦決シテ不當ト云フト得サルナリ

本法ハ之ヲ大別シテ八編ト爲シ而シテ其第一編第七編第八編ヲ除ク外ハ各編又數多ノ章節ニ分テリ即チ第一編ニハ總則第二編ニハ裁判所第三編ニハ犯罪ノ搜查起訴及ヒ豫審第四編ニハ公判第五編ニハ

上訴第六編ニハ再審第七編ニハ大審院ノ特別權限ニ屬スル訴訟手續第八編ニハ裁判執行復權及ヒ特赦ヲ規定シ通編三百三十四條ヲ以テ完結セリ今余カ本法ヲ釋義スルヤ強チ條章ニ拘泥セサル可キモ大體ノ順序ハ成ル可ク本法ノ所定ニ依據ス可シ

第一編 總則

第一節 公訴

公訴ノ定義

公訴トハ私訴ニ對スル語ニシテ社會或ハ君主ノ名義ヲ以テ行フ所ノ刑事訴訟ノ名稱ナリ今其定義ヲ下スキハ即チ左ノ如シ曰ク公訴トハ或ル官吏カ社會若クハ君主ノ名義ヲ以テ犯法者ニ對シ刑罰ヲ要ムルノ訴ナリト

公訴ノ發生及ヒ目的

公訴ノ發生

公訴ノ目的ハ刑ヲ適用スルニ在リ刑ヲ適用スルニハ必ス犯罪ナカル可ラス故ニ犯罪ハ公訴ノ原因ニシテ公訴ハ犯罪ノ結果ナリト畢竟

公訴ノ目的

公訴ハ社會ノ刑罰權ヲ實行スルノ手段ナルカ故ニ刑罰ヲ施スヘキ犯罪ナケレハ則チ公訴ハ發生セサルナリ是レ恰モ民事ノ訴ハ物權又ハ人權ヲ實行スルノ手段ナルト一般ニシテ此等ノ權利ノ行フヘキモノ無ケレハ此種ノ訴モ亦生セサルカ如シ  
本法第一條ニ依レハ公訴ノ目的ニアルカ如シ第一犯罪ヲ證明スルコト第二刑ヲ適用スルコト是ナリ本條ニ曰ク「公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルコトヲ目的トスルモノニシテ法律ニ定メタル區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フ」ト  
公訴ノ目的ニ付テハ學者ノ論スル所紛々一ナラス或ハ曰ク犯罪ノ證明ト刑ノ適用トハ決シテ其効用ヲ共ニスル者ニアラス故ニ公訴ノ目的ハ單ニ犯罪ヲ證明スルニ在ルコトアリ又單ニ刑ヲ適用スルニ在ルコトアリト或ハ曰ク刑ヲ適用スルニハ必ス犯罪ヲ證明セサル可ラサルヲ以テ二者等シク公訴ノ目的ト爲ル者ナリト

公訴ノ發生及ヒ目的

余ハ以爲ヘラク公訴ノ直接ナル目的ハ專ラ刑ヲ適用スルニ在リテ其  
 犯罪ヲ證明スルカ如キハ公訴ノ目的ニ非サルナリト  
 凡ソ社會カ公訴權ヲ有スルハ即チ刑罰權ヲ實行センカ爲ナリ之ヲ詳  
 言スレハ公訴トハ社會カ自己ノ秩序安寧ヲ保維センカ爲メニ制定セ  
 ル法律ヲ犯ス者アルニ當リ其犯法者ニ對シ制裁ヲ加ヘンカ爲メニ行  
 フ所ノ手段ナレハ管ニ犯罪ヲ證明スルノミヲ以テ公訴ノ趣旨ヲ遂ケ  
 タリト謂フ可ラス然レハ則チ公訴ノ目的ハ刑ヲ適用スルニ在ルヲ理  
 ノ最モ親易キ所ナリ然レハ刑ヲ適用スルニハ必ス犯罪ヲ證明セサル  
 可ラス此故ニ犯罪ヲ證明スルハ刑ヲ適用スルカ爲メ最モ必要ナル手  
 續ニシテ而シテ其手續ハ本法ノ定ムル所ナレハ則チ犯罪ヲ證明スル  
 ヲ以テ刑事訴訟ノ目的ト爲スハ夫レ或ハ可ラン然レハ之ヲ以テ直チ  
 ニ公訴ノ目的ト爲スハ則チ未タ其可ヲ知ラサルナリ  
 犯罪ヲ證明スルヲ以テ公訴ノ目的ト爲ス論者ハ數罪俱發ノ場合ヲ引

證シテ曰ク若シ公訴ノ目的ヲシテ刑ノ適用ニ止マラシメハ數罪俱發  
 ノ場合ニ於テ前發ノ重キ罪ニ對シ已ニ刑ヲ科シタルハ後發ノ輕キ  
 罪ニ對スル公訴ハ既ニ消滅シタリト爲サ、ル可ラス蓋シ後發ノ罪輕  
 キハ到底刑ヲ科スルヲ得サルカ故ニ公訴ヲ起スモ社會ニ取リテ寸  
 益ノ觀ルヘキモノナケレハナリ然ルニ後發ノ罪ニ對シテ尙ホ犯罪ヲ  
 證明スルノ必要アルハ是レ蓋其目的トスル所管ニ刑ノ適用ノミナラ  
 スシテ亦犯罪ノ證明ニ在レハナリト(刑法第百二條參看)然レハ余ハ以  
 爲ヘラク此場合ト雖モ公訴ノ目的ハ刑ヲ適用スルニ在リト云ヘル主  
 義ニ反セス何トナレハ後發ノ罪ヲ證明スルハ前發ノ罪ニ比照シ輕重  
 如何ヲ知ルカ爲メニシテ其輕重如何ヲ知ルハ則チ一ノ重キ者ヲ撰ミ  
 之ニ刑ヲ適用シ及ヒ其適用シタル刑ヲ執行セシカ爲メナリト云フ  
 ヲ得可ケレハナリ況ンヤ刑法第百條ノ場合ト第百二條ノ場合トヲ問  
 ハス總テ數罪俱發ノ場合ニ於ケル一ノ重キニ從テ處斷スルノ規則ハ



一ノ重キ罪ノミヲ罰シテ其輕キモノハ措テ問ハストノ精神ニ出タルモノニアラス之ヲ換言スレハ一ノ重キ罪ヲ犯スニ於テハ之ヨリ輕キ罪ヲ數回犯スアルモ此輕キ數罪ニ付テハ總テ之ヲ問ハス不罰ニ措クヘシトノ特權ヲ設定シタルモノニアラス要スルニ一ノ重キニ從テ處斷ストハ則チ數罪ニ該當スル法定ノ刑ハ各々之ヲ適用スルモ他ニ理由アリテ唯リ刑ノ執行ハ一ノ重キ罪ニ該當スルモノニ止メ其餘ノ罪ニ該當スルモノハ之ニ吸取セシムルトノ意ナルコ外ナラサルヲヤ寧ソ輕キ後發ノ罪ニ對スル公訴消滅セリト云フコトヲ得可ケンヤ

公訴ヲ行フ權アル人

公訴ヲ行フ人ニ關スル沿革

余ハ此事ニ付キ釋義スルニ先チ公訴ヲ行フ者ニ關スル歷史上ノ沿革ヲ一言スヘシ  
 已ニ述ヘタルカ如ク社會ハ自己ヲ保護スルカ爲メ必要ナル法律ヲ設定シ若シ犯ス者アレハ則チ之ヲ罰スルノ權アリ隨テ刑罰ヲ要求スル

ノ訴ヲ生ス而シテ此場合ニ於テ社會ハ躬テ原告人ト爲ルヲ以テ其訴ヲ名ツケテ公訴ト云フ然レモ一般ノ犯罪ニ付キ公訴ノ生スルハ古代ノ制度ニアラサルナリ

羅馬及ヒ佛國ノ古代ニ在テハ彼ノ強竊盜ノ如キ平人カ直接ニ被害者トナル所ノ犯罪ニ付テノ刑事ノ原告人ハ猶ホ民事ニ於ケルカコトク被害者若クハ其親族相續人ナリキ而シテ其要求スル所ノ刑罰ハ始メハ大抵金刑ノミニシ或ハ損害ニ匹當スル賠償ヲ科スルノ刑アリ又或ハ損害ニ倍蓰スルノ賠償ヲ科スルノ刑アリタリ此要求ノ訴ヲ名ツケテ刑事ノ私訴即チ私犯ト曰ヘリ是レ通常民事ノ訴ニ付キ損害ノ賠償ヲ要ムルモノニ區別セル名稱ニシテ而カモ其賠償ハ即チ刑ニ當ルモノナリ尤モ羅馬ニテモ後ニハ私犯例ヘハ竊盜等ニ對シテ體刑ヲ施スコトナレリ又本國ニ背叛スル罪宗教ニ對スル罪故殺ノ罪等ノ如キ大罪ニ付テハ被害者ハ勿論何人ト雖モ訴ヲ起スヲ得タリ之ヲ名ツケテ彈劾方法(或

ハ公訴方法ト曰フ是レ公訴ノ濫觴ナリ當時各人ニ起訴ノ權ヲ與フルノ理由ハ社會ヲ構成スル所ノ各人民ハ社會保衛ノ爲メ各自盡カスルノ責アルカ故ニ全社會ニ關スル所ノ犯罪ニ付テハ各人民ハ之レニ對シテ起訴スヘシト云フニ在リ然レモ或ハ他人ニ對スル愛憎畏懼ノ念ヲ懷ク者アリテ大ニ弊害ヲ生スルニ至レリ何ソヤ各人民ニシテ犯人ノ慄悍ナルヲ恐レ之ニ對シテ起訴スル者ナキ時ハ積惡大罪モ刑罰ヲ免カル、コアリ又資力アル者ハ無辜ノ人ニ對シテ訴ヲ起シ金力ヲ以テ無實ノ證書ヲ爲ラシメ爲メニ之ヲ罪ニ陷レ以テ其宿怨ヲ露スカ如キ有リ彈劾方法ノ弊害此ノ如ク劇シキヲ以テ之ヲ矯正センカ爲メ當時一ノ慣習ヲ生セリ其方法タルヤ司刑官躬ラ職權ヲ以テ犯法者ニ對シ起訴スル者ニシテ之ヲ名ツケテ糾問方法(穿鑿ノ意)ト曰ヘリ此方法ニ從ヘハ裁判官ニ數名ノ助役アリテ之ヲ輔ケ裁判官ハ審査彈劾判決ノ諸職ヲ一身ニ聚メタリ然レモ未タ犯罪ヲ彈劾スルノミヲ以テ其職

トスルノ官アラサリシナリ

佛國蠻民時代ノ末路ヨリ封建制度ノ初ニ至ルマテハ尙ホ彈劾方法ヲ行ヒ原被兩造ハ裁判官ノ面前ニ出テ其一方ハ求刑シ他ノ一方ハ辯護シ裁判官ハ原被並ニ證人ノ陳述ヲ聽キ事實ヲ調査シテ明白ナル時ハ則チ判決ヲ與ヘ若シ曖昧ナル時ハ原被兩造ヲシテ決闘ヲ爲サシメ其勝敗ニ依テ以テ訴訟ノ曲直ヲ判決セリ  
王家ノ權力稍盛ニ封建ノ制度漸ク整頓スルニ及テ始メテ王家及ヒ諸侯ノ代官ハ職權ヲ以テ訴ヲ起スノ社會ニ利益アルヲ悟リ漸次糾問方法ヲ採用スルニ至レリ而シテ刑罰ハ被害者又ハ其親族ヲ満足セシムルノ機械ニ過キストノ思想モ亦漸ク社會ノ名義ヲ以テ犯罪人ニ與フル苦痛ナリトノ思想ニ變シ刑事ノ訴訟ハ公益ノ爲メ犯罪人ヲ審判スルノ手段ナリトノ思想ヲ喚起スルニ至レリ爰ニ於テカ裁判官ハ何人モ未タ彈劾セサル所ノ犯罪ヲ躬ラ搜查シ躬ラ起訴スルノ必用アルコトヲ

感覺シタルナリ

上ニ述フルカ如ク其初メ犯罪ヲ起訴スル官吏ハ裁判官ナリキ降テ王家ノ權勢漸ク盛大ニ赴キタル時ニ至テハ各裁判所ニ王家ノ權利ヲ保護スルノ任アル代官ノ設ケアリ此代官ハ王家ニ屬スル土地等ヲ掠奪スル者アル并ハ王家ノ爲メ其者ニ對シテ訴ヲ起セリ然ルニ此等ノ官吏ハ遂ニ人民ニ對スル犯罪ニマテ干涉シ犯罪人アル并ハ其財産ヲ沒收シ又ハ罰金ヲ徵收シ以テ王家ノ金庫ヲ肥スノ手段ト爲スニ至レリ是ヨリ以來此官吏カ人民ニ對スル犯罪ニ付キ起訴スルハ漸ク一個ノ慣習ト爲リ一轉シテ殆ント法律ノ如ク見做サルニ至レリ而シテ公然法令ヲ以テ此慣習ヲ認定セシハ漸ク第十六世紀ノ初ナリト雖モ業已ニ遼ク其以前ヨリ行ハレタル所ナリ是レ實ニ檢事ノ由來ナリトス然レモ當時尙ホ人民自カラ訴ヲ起スコトヲ得タルヲ以テ其王家ノ官吏即チ檢事ト裁判官トノ立會ヒシ訴訟ヲ名ツケテ非常訴訟ト云ヒ被害

者等ノ起シタル訴ヲ稱シテ通常訴訟ト云ヒ之ヲ區別セリ其檢事ノ立會フ者ハ即チ糾問方法ノ制ニシテ人民自カラ訴フルノ方法ハ即チ彈劾方法ナリ後ニハ通常方法ハ漸次廢滅ニ歸シ却テ當時所謂非常訴訟ナルモノ變シテ通常訴訟トハ爲レリ

糾問方法ノ遺制ハ現時歐洲諸國ニ行ハル之ヲ用ヒサルモノ唯リ英國アルノミ英國ニ於テハ近來糾問法ヲ用フルノ議ヲ生セシモ今尙ホ彈劾法ヲ行ヒ或ル場合ヲ除クノ外公訴ヲ起スハ重モニ被害者或ハ各人民ニ在リト云フ而シテ官吏ノ起訴スルハ唯公益ヲ害スル甚太シキ犯罪ニ對シテノミ然レモ各人民ニ於テ公訴ヲ起ス時ト雖モ人民ノ名義ヲ以テスルニ非スシテ大英國女王陛下ノ名義ヲ以テセリ是レ羅馬ニ於テ犯罪ハ一個人ノ損害ニ止マルモノナリトノ思想ニ基キ一己ノ名義ヲ以テ訴ヲ起シタル者トハ大ニ其主義ヲ異ニセリ蓋其主義タルヤ社會ヲ構造スル所ノ各人民ハ社會ノ安寧秩序ヲ保持スルカ爲メニ公事

ニカヲ盡スノ權利アリ又義務アリトノ思想ニ基クモノナルヘシ  
 澳國ニ於テ一千八百七十三年ニ制定シタル治罪法ハ蓋シ糾問法ト彈  
 劾法トヲ調和セシ者ナリ即チ檢事カ公訴權ヲ行フヲ以テ原則トセリ  
 是レ糾問法ヲ採リシ者ナリ然ルニ此法律ニ特別ナル點ハ檢事公訴ヲ  
 拋棄スル片ハ其公訴ハ中止ト爲リ裁判官ハ犯罪ノ有無ヲ判決スルノ  
 權ナシ然レモ民事原告人ハ尙ホ公訴拋棄ノ通知ヨリ三日内ニ再ヒ公  
 訴ヲ起スノ權アリ尤モ是レ彈劾ノ名義ニテ公訴ヲ行フモノニシテ檢  
 事カ公訴ヲ行フニ付キ有スル總テノ權ヲ有セスト云フ此最後ノ點タ  
 ルヤ即チ彈劾法ノ遺跡ナリ

以上公訴ヲ行フ人ニ關スル沿革ヲ説キタルヲ以テ是ヨリ我刑事訴訟  
 法ニ反リ論究スヘシ

犯罪ハ總テ社會ニ多少ノ損害ヲ與フルモノナリ而シテ無形人タル社會  
 ハ實際自カラ公訴ヲ行フヲ得サルカ故ニ社會ニ代リテ之ヲ行フ者ナ

カル可ラス即チ檢事はナリ本法第一條ノ末文ニ曰ク「法律ニ定メタル  
 區別ニ從ヒ檢事之ヲ行フト我國ニ於テモ他ノ文明國ニ於ケルカ如ク  
 公訴ハ檢事ノ行フ所ナリ去レハ我國刑事訴訟手續ノ性質ハ即チ糾問  
 方法ニシテ彈劾方法ニアラスト云フヘシ乃チ犯罪アレハ社會之レカ  
 原告人ト爲リ檢事ハ社會ノ代人ト爲リ以テ公訴ヲ起スモノトス前述  
 第一條末文ニ所謂法律ニ定メタル區別ニ從ヒ云々トハ裁判所構成法  
 第十八條第三十三條第四十二條第五十六條等ニ定ムル如ク裁判所ノ  
 階級ニ從テ檢事ニ區別アリ又本法第二十六條以下ニ定ムル如ク土地  
 ニ關スル裁判管轄ノ區別アリテ檢事ノ管轄ヲ異ニスルヲ以テ犯罪ニ  
 付キ之ヲ管轄セル檢事カ公訴ヲ行フヘキヲ示シタルナリ  
 又檢事公訴ヲ行フトハ何等ノ事ヲ指サヤ之ヲ了解セント欲セハ宜シ  
 ク公訴ノ提起ト公訴ノ實行トヲ區別セサルヘカラス  
 抑モ公訴ノ提起トハ裁判官ヲシテ公訴ヲ受理セシムルノ手續ヲ云フ

公訴ヲ行フ權アル人

「檢事之  
 ヲ行フ」  
 解附公  
 訴ノ提起  
 實行

例へハ第六十二條第一及ヒ第二ノ場合ハ檢事カ公訴ヲ提起シタルモノニシテ又第四百十三條ハ豫審判事カ公訴ヲ提起シタル場合ナリ公訴ノ實行トハ公訴ノ目的ヲ達スルカ爲メノ總テノ手段即チ犯罪者ニ對シテ刑ノ適用ヲ爲サシムルニ至ルカ爲メ必要ナル總テノ手續ヲ云フ

前述公訴提起ノ三箇ノ場合中ニ於テ其第一ノ場合ハ檢事ヨリ豫審判事ニ豫審ヲ求メタル者ナレハ當ニ公訴ヲ提起シタルノミナラス併セテ公訴ヲ實行シタル者トス

然レモ第二第三ノ場合ハ唯提起アリタルノミ  
公訴實行ノ手續ハ一樣ナラス凡テ公訴ノ終局ニ至ルマテノ手續ヲ包含ス例へハ檢事カ被告人訊問證人呼出物件差押、密室監禁等ノ豫審ノ手續ヲ裁判官ニ請求スルカ如キ公判廷ニ於テ刑ノ適用ヲ求ムルカ如キ決定又ハ言渡ニ對シテ上訴スルカ如キ皆公訴ノ實行ナリトス而シテ此

公訴實行ノ手續ハ檢事ニ非サレハ之ヲ行フ能ハス又公訴ノ提起ハ刑罰權ノ實行ニ關スル最初ノ手續ニシテ而シテ提起ニ次テ行フ所ノ諸多ノ手續ハ即チ實行ナリ

公訴提起ノ手續ハ裁判所ヲシテ公訴ヲ受理セシムルノ單一ナル結果ヲ生スルノミ而シテ公訴ノ提起ハ唯リ檢事ノミナラス其他ノ人ト雖モ之ヲ爲スヲ得ルナリ例へハ第四百十三條ノ場合ノ如キ豫審判事カ檢證調書ヲ作ルトキハ豫審判事公訴提起ノ手續ヲ爲シタル者ナリ又公訴實行ノ權中ニハ公訴提起ノ權ヲ包含スルモノトス故ニ檢事カ第六十二條ノ手續ヲ爲シタルキハ公訴ノ提起アルハ勿論公訴ノ實行モアリタルモノナリ然レモ公訴提起ノ權アル者ハ必シモ實行ノ權アル者ト云フヘカラス故ニ豫審判事ハ決シテ檢事ノ爲ス可キ公訴實行ノ手續ヲ行フチ得ス縱令ヒ他人ニ於テ公訴ヲ提起スル時ト雖モ之ヲ實行スル者ハ常ニ檢事ナリトス但裁判所構成法第十八條ニ依レハ檢事以

外ノ人ニシテ公訴實行ノ權ヲ有スルモノアリ例ヘハ警察官憲兵將校  
下士又ハ林務官ノ如キ是ナリ

檢事起訴  
ノ自由

以上公訴ノ實行ト公訴ノ提起トノ區別ヲ論シタリシカ所謂ル檢事之  
ヲ行フトハ即チ檢事ハ此實行ノ手續ヲ爲ス者タルコト示ス者ナリ  
茲ニ又檢事起訴ノ自由ト云フコトアリ是レ亦必要ノ論題ナリトス夫レ  
檢事カ告訴告發現行犯世上ノ風評管轄官吏ノ作リタル調書等ニ依リ  
犯罪アルコトヲ認知シタル時ハ即チ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ得可シト雖  
モ其起訴ヲ爲スト爲サ、ルトハ固ヨリ檢事ノ自由ニ在リ故ニ其所爲  
ヲ以テ罰スヘキ犯罪ナリト思料スル時ハ起訴ノ手續ヲ爲ス可キモ若  
シ罰ス可キ者ニアラスト思料スル片ハ敢テ起訴ヲ爲サ、ルヲ得ルナ  
リ然レモ檢事一ツレ起訴ノ手續ヲ爲シタル片ハ即チ管ニ公訴ノ提起  
アリタルノミナラス又公訴ノ實行アル者トス但檢事カ第六十二條第  
三項ノ手續ヲ爲スカ如キハ未タ提起モ實行モ之アラサルナリ何トナ

檢事必ス  
起訴セサ  
ル可ラサ  
ル例外

レハ是等ノ手續ハ犯罪ト思料シタル事件ヲ他ノ管轄檢事ニ送致スル  
ノミニシテ起訴ノ手續ト云フヘカラサレハナリ

檢事犯罪事件ニ付キ起訴ヲ爲スト爲サ、ルトハ其自由ニ在ルコト前述  
ノ如シト雖モ此規則ニ付テハ左ノ例外アリ

第一 上官ノ命令アル時(裁判所構成法第八十二條)

第二 現行犯ノ場合ニ於テ豫審判事自ラ豫審ノ手續ヲ爲シタル時

(本法第四百二十二條)

右二箇ノ場合ニ於テハ檢事ハ必ス起訴ヲ爲シ又ハ既ニ起リタル公訴  
ヲ實行セサル可ラス

上官即チ司法大臣控訴院檢事長及ヒ地方裁判所檢事正等ハ檢事ニ指  
揮シ又ハ之ヲ監督スルノ權アル者ナレハ起訴ヲ命令スルノ權アルコ  
ト固ヨリナリ故ニ若シ此命令アル時ハ檢事ハ必ス之ヲ遵奉シ起訴ヲ  
爲サ、ル可ラス

豫審判事現行犯ノ豫審ヲ爲シタル時(第四百十二條)ハ即チ公訴ノ提起アリタル場合ナルカ故ニ檢事ハ必ス進シテ之カ實行ヲ爲サ、ル可ラサルヲ勿論ナリ

以上三箇ノ場合中第一ハ唯命令ノミニ未タ公訴ノ提起ナキ者ナリ故ニ檢事ハ提起ト實行トヲ爲サ、ル可ラサルモ之ニ反シタル第二ハ已ニ公訴ノ提起アリタル者ナレハ檢事ハ唯實行ノ手續ヲ爲スヘキノミ」前述ノ如ク檢事ハ告訴告發其他ノ理由ノ爲メニ必シモ公訴ヲ提起シ及ヒ實行スルノ義務ナシ然レモ前二箇ノ場合ニハ必ス之ヲ提起シ又ハ實行スルノ義務アリ縱令ヒ其所爲ハ罪ト爲ラスト思料スルモト雖モ必ス之カ實行ノ手續ヲ爲サ、ルヲ得ス

然レモ檢事カ公訴實行中有罪無罪ノ意見ヲ陳述スルニ方テハ被告事件罪ト爲ラサル者ト思料スル時ハ縱令ヒ長官ノ命令ニ反對スルモ毫モ踟躇スル所ナク被告人ノ利益ト爲ルノ陳述ヲ爲スヲ得ルナリ故ニ

公訴實行ノ手續ハ必ス長官ノ命令ニ從テ之ヲ爲サ、ル可ラサルモ法廷ニ於テ意見ヲ陳述スルニ方テハ毫モ同上ノ拘束ヲ受ク可キ者ニアラス故ニ此點ニ就テハ檢事ハ獨立ナリト謂フ可キナリ佛國ノ法諺ニ曰ク筆ハ服從ヒサル可ラス而レモ言語ハ自由ナリト能ク檢事ノ職務ヲ言ヒ盡シタリト謂ツ可シ蓋筆トハ公訴狀ヲ作ルヲ云ヒ言語トハ意見ヲ陳述スルノ謂ナリ

公訴ハ檢事ノ行ニシテ檢事ニ屬セズ

檢事起訴ノ自由アル以上叙述スル所ノ如シ然レモ之ヲ以テ公訴ハ檢事ニ屬スル者ト誤認ス可カラズ  
檢事ハ只公訴ヲ行フノ權アル者ニシテ決シテ公訴權ヲ有スル者ニアラサルナリ何トナレハ刑罰權ナル者ハ元來社會ニ屬スル者ナレハ之ヲ實行スル所ノ公訴權ハ決シテ他ニ屬スルノ理由ナシ畢竟檢事ハ社會ノ代人トシテ其權利ヲ行フ者ニシテ決シテ委任者タル社會ノ行ヒ得ヘキ總テノ權利ヲ有スル者ニアラサルナリ故ニ檢事ハ公訴ヲ起スノ前

公訴ハ檢事ニ屬セサルヨリ生ズル結果

後ヲ問ハス公訴權ヲ左右スルノ權ナシ隨テ裁判官ハ一旦受理シタル公訴ハ檢事ノ意見如何ニ拘ハラヌ局ヲ結フノ權即チ裁決スルノ權ヲ有ス然ルニ社會ハ大赦等ヲ以テ起訴ノ前後ヲ問ハス公訴權ヲ左右スルコトハ其自由ナリ隨テ此場合ハ裁判官之ヲ裁判スルノ權ナシ若シ檢事ニシテ公訴ヲ左右スル如キアラハ實ニ越權不法ノ所爲ト謂フ可シ以上論シタル如ク檢事ハ公訴ヲ行フノミニシテ公訴權ヲ有セサルノ定議ヨリ左ノ結果ヲ生ス

第一 檢事ハ公訴ヲ起スノ前或ハ公訴ノ審理中特ニ刑ノ言渡後ニ於テ其犯罪事件ニ付テ私和ヲ爲スノ權ナシ

若シ其權アリトセハ被告人ハ何々ノ罪ヲ犯シタルニ因リ例ヘハ金幾圓ヲ出スヘシ檢事ハ被告人ヨリ其金圓ヲ出スヲ以テ公訴ヲ起サ、ルヘシト被告人ト檢事トノ間ニ於ケル一種ノ契約ヲ爲シ得ルニ至ルヘシ

夫レ私和即チ和解ハ民法財産取得編第一百十條以下ニ記載スル所ニシテ即チ當事者ノ双方カ讓リ合ヲ爲シ既ニ生シタル爭ヲ落着セシメ又ハ生スルコトアル可キ爭ヲ豫防スル契約ナルカ故ニ彼レ犯罪ヨリ生シタル損害賠償ニ付テモ亦和解ヲ爲スヲ得可キコト勿論ナリト雖モ然レモ犯罪事件ニ付テハ之レカ和解ヲ爲スヲ得サルナリ

何者私訴權ハ元來被害者ニ屬スル者ナルカ故ニ被害者カ賠償ニ付テ私和ヲ爲シ得ルハ固ヨリ其自由ナリト雖モ抑、公訴權ハ檢事ニ屬セスシテ社會ニ屬スルモノナルカ故ニ檢事カ犯罪事件ニ付キ私和ヲ爲スヲ得サルヤ亦親易キノ理ナリトス

佛國ニ於テハ稅關官吏等ハ稅則ニ關スル犯罪ニ付テ和解ヲ爲スヲ得例ヘハ犯法者ニ對シ千圓ノ罰金ヲ科スヘキ場合ニ於テ稅關官吏ハ犯法者ト約シテ九百圓ヲ出サシメ以テ公訴ヲ起サ、ルヲ得ルカ如シ故ニ稅關官吏ハ稅則ニ關スル犯罪ニ付キ公訴實行ノ權ヲ有スルコト猶ホ



一般ノ犯罪ニ付キ檢事カ公訴實行ノ權ヲ有スルカ如シ然ルニ猶ホ被告人ト私和ヲ爲スヲ得ルヲ以テ是レ則檢事ハ犯罪事件ニ付キ和解ヲ爲スヲ得ストノ規則ノ例外ト爲ル者ナリ此例外タルヤ簡易迅速ニ刑ヲ科スルヲ以テ却テ稅關即チ社會ニ利益アリ又被告人ニモ利益アリ要スルニ違犯ノ明瞭ニシテ簡易迅速ニ處分スルモ敢テ被告人ヲシテ濫刑ニ陷ラシメサルノ特別ナル理由ニ基クモノナリ

第二 檢事ハ公訴權ヲ他人ニ讓渡スルノ權ナシ其理由ハ亦檢事ハ自カラ之ヲ所有セサルヲ以テナリ

被害者ハ私訴ニ付テ私和ヲ爲シ或ハ私訴權ヲ他人ニ讓渡スルヲ固ヨリ其自由ナリ又設ヒ其之ヲ爲シタル片ト雖モ敢テ檢事ヨリ公訴ヲ起スノ障礙トナル者ニアラス

第三 檢事ハ已ニ起シタル公訴已ニ爲シタル上訴ニ付キ之ヲ停止スルノ權ナシ

凡ソ民法ニ於テハ權利者ヨリ訴訟ノ停止ヲ爲スヲ得ルモ檢事ハ公訴ニ付テ停止ヲ爲スヲ得ス例ヘハ豫審ノ手續ヲ爲シタル後或ハ公判ニ於テ辯論ニ取掛リタル後檢事ハ其所爲ノ法律ニ於テ罰スヘキ者ニ非サルコトヲ發見スト雖モ之ヲ停止スルヲ得ス必ス其事件ニ付テ裁判言渡アルマテノ手續ヲ爲サル可ラス而シテ此場合ニハ必ス手續ヲ急速ニシ或ハ無罪放免ノ言渡アラントテ請求スルヲ得ヘント雖モ決シテ其訴訟ノ手續ヲ中途ニ停止スルヲ得サルナリ

又公判ノ言渡ニ對シ檢事上訴ヲ爲シタル後其事件ニ付キ必要ナル書類ヲ發見シ爲メニ被告人ハ無罪ナリトノ證據ヲ得ルト雖モ上訴ノ判決アルマテハ必ス實行ノ手續ヲ爲サル可ラス何トナレハ公訴權ハ社會ニ屬シテ檢事ニ屬セサルヲ以テ一旦上訴シタル時ハ決シテ之ヲ停止スルコトヲ得サレハナリ

第四 檢事ハ其爲シ得ヘキ上訴ノ手段ニ付キ明暗ニ拘ハラヌ豫メ之

ヲ拋棄スルノ權ナシ  
 檢事既ニ公訴權ヲ拋棄スル能ハス之ニ繼グ所ノ上訴權ヲ拋棄スルヲ  
 得サルヤ亦自カラ明ナリ故ニ縱令ヒ裁判官カ檢事ノ要求ニ一點ノ差  
 ナク刑ノ言渡ヲ爲シタリト雖モ其後ニ至リ檢事若シ先キノ要求ノ過  
 不及ヲ悟リ其刑ノ失當ヲ信スル時ハ更ニ上訴ヲ爲スノ妨ト爲ルコトナ  
 シ是レ檢事カ最初ニ爲シタル要求ハ其當時ノ意見ニ依テ爲シタルマ  
 テナレハ之ヲ以テ其要求ノ通り刑ノ言渡アル片ハ其言渡ニ對シ上訴  
 ハ決シテ爲サ、ルヘシトノ暗黙ナル上訴權ノ拋棄アリト云フヘカラ  
 サレハナリ  
 以上論スル所ヲ以テ公訴ヲ行フ人ニ關スル事項ハ略ホ之ヲ悉シタリ  
 以下公訴獨立ノ一ニ論及セントス

### 公訴ノ獨立

本法第一條ハ公訴ノ目的ト之ヲ執行シ得ル人トヲ示シ以テ公訴ノ所

有者ヲ明カニシ而シテ第三條ハ公訴ノ獨立タル性質ヲ示ス者ナリ該條  
 ニ曰ク

「公訴ハ被害者ノ告訴ヲ待テ起ルモノニ非ス又告訴私訴ノ拋棄ニ因  
 テ消滅スルモノニ非ス但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在  
 ラス」

此ニ所謂ル被害者ハ犯罪ニ依リ直接ニ害ヲ受ケタル者ヲ云ヒ告訴ト  
 ハ被害者又ハ其親族ヨリ檢事又ハ司法警察官ニ犯罪ヲ通告スルヲ云  
 ヒ告發トハ被害者及ヒ親族以外ノ人ヨリ同上官吏ニ之ヲ通知スルヲ  
 云フナリ爰ニ此第三條ニハ被害者ノ告訴ヲ待テ云々トアレモ此被害  
 者ノ下ニ又ハ親屬ナル語ヲ加ヘテ讀ムヘシ何トナレハ元來告訴ヲ爲  
 シ得ル者ハ被害者ノミニアラヌシテ其親屬モ亦之ヲ爲シ得ル者ナレ  
 ハナリ(例ヘハ刑法第三百五十條等ノ如シ)

公訴ハ被

公訴ハ被害者ノ上訴ヲ待テ起ルモノニ非ストハ被害者カ犯罪事件ヲ

公訴ノ獨立

被害者ノ告訴ヲ待テ起スル者ニ非ス

公訴ノ獨立

檢事ニ告訴シ而ノ後檢事始メテ公訴ヲ起スモノニ非サルヲ示シタルモノナレハ敢テ一個人ノ關涉ヲ受ク可キニアラス故ニ被害者ノ告訴ナシト雖モ風評告發相當官吏ノ調書等ニ依リ犯罪アルコトヲ認知スレハ則公訴ヲ起シ得ルモノナリ

公訴ハ告訴ノ消滅スル者ニ非ス

又公訴ハ告訴私訴ノ拋棄ニ因テ消滅スルモノニ非ストハ一旦犯罪アリテ公訴權ノ生シタル以上縱令ヒ實際被害者ニ於テ告訴ヲ爲シテ其後願下チ爲シ若クハ私訴ヲ爲シテ後ニ其棄權ヲ爲スト雖モ公訴ハ之カ影響ヲ受クルモノニアラス檢事カ公訴實行ノ手續ヲ繼續スルノ妨碍ト爲ラス元來公訴ノ一旦起リタル以上ハ檢事ノ自カラ起シタルルヲ以テ起リタルル(第四百三十三條)トヲ問ハス檢事ハ他人ノ干涉ヲ受クルコトナク公訴ノ目的ヲ達スルカ爲メ公訴實行ノ手續ヲ爲ルサ、可

ラス前既ニ示シタルカ如ク檢事其人ト雖モ中途ニ公訴權ヲ左右スルヲ得ス必ス裁判官ヲシテ公訴事件ニ付キ裁判ヲ下シ局ヲ結ハシムルノ手續ヲ爲サル可ラサルカ故ニ公訴ハ獨立ニシテ設ヒ被害者ト雖モ之ヲ左右スルヲ得ス又告訴私訴ト其運命ヲ共ニスルモノニアラサルコト明ナリ

以上ハ公訴獨立ノ原則ヲ示ス者ナリ然レモ本條ノ末文ニ言ヘルカ如ク法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ前述ノ限リニアラス即チ此原則ニ例外アルナリ

今其例外ヲ示スニ先タチ一二ノ注意ヲ爲スヘシ即チ第十一條ニ於テ告訴ニ付キ若干ノ手續ヲ規定セリ通常ノ犯罪事件即チ告訴ヲ待タスシテ公訴ヲ起シ得ル事件ニ付テハ被害者等ヨリ告訴ヲ爲スモ其告訴ニ關シテハ必シモ該條記載ノ手續ヲ履行セスシテ其効力ヲ生スヘシト雖モ例外ニ属スル犯罪事件即チ告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テ

公訴ノ獨立

ハ必ス嚴正ニ其手續ヲ履行セサル可カラズ何トナレハ此最後ノ事件ニ付テハ告訴ハ公訴ヲ提起スルニ必要ナル第一着ノ手續ニシテ公訴權發動ノ基礎ト爲ル者ナレハナリ故ニ必ス告訴人ヨリ署名捺印シタル書面ヲ差出サシムルカ然ラサレハ則告訴ヲ受ケタル官吏ニ於テ調書ヲ作ラサル可ラス若シ此規則ヲ履行セスシテ檢事カ公訴ヲ起シタル時ハ公訴提起ノ手續ハ其効ヲ生セサル可シ之ニ反シテ通常ノ犯罪事件ニ付テハ告訴ノ有無ハ公訴ノ發動ニ關セス檢事ハ苟モ犯罪ノアリタルヲ知レハ其之ヲ知リタル方法ノ如何ヲ問ハス公訴ヲ提起シ實行スルノ權アルヲ以テ告訴ノ手續ニシテ設ヒ第五十一條ノ規則ニ違背スルコトアルモ自カラ其効ヲ生スルニ妨ナカルヘシ

告訴ヲ待テ始テ公訴權ヲ行ヒ得ル場合ト雖モ告訴ヲ受ケテ公訴ヲ起スト否トハ固ヨリ檢事ノ自由ナリ一旦告訴アリタル後ハ公訴ノ提起ト實行トハ檢事ノ獨リ任スル所ニシテ敢テ被害者ノ干涉スヘキ所ニ

非ラス又檢事ハ告訴ヲ受ケタル當初ニ於テハ起訴スヘキ事件ニアラト思料シ起訴セサリシモ後ニ至テ起訴ノ是ナルヲ覺ル時ハ復タ告訴アルヲ待スシテ起訴スルヲ得可シ其上訴ニ於ケルモ亦然リ然レモ檢事ノ起訴中ニ被害者告訴ヲ願下ケ若クハ棄權ヲ爲シタルモハ檢事ハ決シテ公訴實行ノ手續ヲ繼續スルヲ得ス是レ第六條第二ニ記スル所ナリ

公訴獨立ノ例外

是ヨリ公訴獨立ノ原則ノ例外ナル本法第三條ノ但書ニ付キ論究スヘシ

法文ニ曰ク但法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ此限ニ在ラズト蓋此但書ハ特リ告訴ヲ待テ起ルモノニ非スノ一句ヲ承クルノミナラス又併セテ告訴私訴ノ棄權ニ因テ消滅スルモノニ非スノ句ヲ承ケ以テ二者ノ例外ヲ示シタル者ナリ例ヘハ有夫姦ノ場合ニハ夫ノ告訴ヲ待テ始メテ公訴ヲ起スヲ得ヘシ是レ公訴ハ告訴ヲ待テ起ラサル規則ニ關ス

ル例外ナリ又前例ニ於テ夫カ棄權ヲ爲セハ檢事ハ公訴ヲ實行スルヲ得ス是レ公訴私訴ノ棄權ニ因テ消滅セサル規則ニ關スル例外ナリ故ニ但書ハ以上二箇ノ規則ニ關スル例外ヲ示スモノナレモ其例外ニ屬スル場合ハ同一ナリ即チ所謂ル法律ニ於テ特ニ定メタル場合ハ左ノ如シ

- 第一 脅迫ノ罪 (刑第三百二十六條以下)
- 第二 幼者ヲ略取誘拐スルノ罪 (刑第三百四十一條以下)
- 第三 猥褻姦淫ノ罪 (刑第三百四十六條以下)
- 第四 有夫姦ノ罪 (刑第三百五十三條)
- 第五 誹毀ノ罪 (刑第三百五十八條以下)
- 第六 牛馬外ノ家畜ヲ殺スノ罪 (刑第四百二十三條)
- 第七 公然人ヲ罵詈嘲弄スルノ罪 (刑第四百二十六條第十二)
- 第八 他人ノ寫真版權ヲ侵ス罪

第九 他人ノ商標ヲ侵ス罪

第十 他人ノ專賣權ヲ侵ス罪

第十一 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付正誤ノ請求ニ應セサル罪

親告罪ニ  
付キ其親  
告ヲ待ツ  
理由

以上列記シタル犯罪ノ場合ニ於テハ被害者若クハ親屬ノ告訴アルニ非サレハ公訴ヲ起スヲ得サルナリ其理由ハ左ニ述フル所ノ如シ  
凡ソ犯罪ハ多少社會ノ秩序ヲ紊亂セサルハナシ然レモ或ル犯罪ハ其及ホス所ノ害專ラ被害者ノ頭上ニ係ルヲ以テ社會ノ利益ヨリモ寧ロ被害者ノ利益ノ爲メニ之ヲ罰スルヲアリ故ニ之ヲ罰シテ却テ被害者ノ害ト爲ル片ハ社會ハ被害者ノ爲メニ斟酌セサル可ラサルヲアリ又或ル犯罪ハ之ヲ實際ニ徵スルニ被害者自身ニ非サレハ其犯罪ノ成否ヲ知ルヲ能ハサルヲアリ是等ノ場合ハ被害者ノ告訴ニ依リ犯罪ノ成否ヲ知り又之ヲ罰シテ被害者ノ害ト爲ラサルヲトシ始メテ公訴ヲ

脅迫罪ノ罪ニ付キ親告ヲ待ツ理由

起ス可キ者トス

例へハ脅迫罪ノ如キ被脅迫者ヲシテ畏懼ノ情ヲ感セシメサルハ毫モ被脅迫者ヲ害セス又社會ヲ害セサルナリ又被脅迫者カ脅迫者ノ元來怯懦ニシテ能ク其脅迫シタル事ヲ實行シ得サル者タルヲ知ルハ亦毫モ被脅迫者ヲ害セス又社會ヲ害セサルナリ此等ノ事實如何ハ被脅迫者其人ノ内心ニ非サレハ他人即チ檢事等ノ能ク知ルヲ得可キ所ニ非サルナリ故ニ脅迫罪ノ成立ヲ知ル所ノ被脅迫者若クハ其親屬ノ告訴ヲ待テ始メテ公訴ヲ起スヘク若シ然ラスシテ直チニ公訴ヲ起シ得ル者トセハ被脅迫者ハ畏懼ノ念ナキニ恰モ脅迫罪成立スルモノ如ク即チ其實脅迫罪ニアラサル所爲ヲ罰スルノ支牒ヲ生スル恐レアルヘシ或ハ又被脅迫者ハ眞ニ脅迫ノ所爲ニ因リ畏懼ノ念ヲ懷キタルモ若シ公訴ノ提起ニ依テ其事實ノ公然ト爲リテハ却テ迷惑スルノ場合アルヘシ或ハ又被脅迫者等ハ脅迫罪ノ害ヲ被リ設ヒ其事實公然ナ

有夫姦淫略取誘拐ノ罪ニ付キ親告ヲ待ツ理由

牛馬外ノ家畜ヲ殺スノ罪ニ付キ親告ヲ待ツ理由

ラシムルモ憚ル所ナシト思料スルヲアルヘシ是レ告訴ヲ以テ公訴發動ノ一要件ト爲シ被害者若クハ其親屬ヲシテ先ツ公訴ヲ提起ス可キヤ否ヲ撰ハシムル所以ナリ

誹毀ノ罪ニ付テモ亦前段ノ理由ニ同シ

其他有夫姦ノ罪猥褻姦淫ノ罪幼者ヲ略取誘拐スルノ罪ニ付テハ若シ被害者ノ利害如何ニ拘ラヌ之ヲ罰スルハ其犯罪事件ヲ社會公衆ニ聞見セシムルヲ以テ却テ爲メニ被害者ノ名譽ヲ傷ヒ終ニ將來ヲ誤ラシムルヲ有ラン此ノ如クハ之ヲ罰スルノ利ハ之ヲ公衆ニ知ラシムルノ害ヲ償フ能ハサルナリ故ニ犯者ヲ罰スルノ利害ハ被害者及ヒ其親屬ノ意中如何ニ在テ決シテ他人ノ推知スルヲ得可キ所ニ非サルナリ

牛馬外ノ家畜ヲ殺スノ罪ニ付テ被害者ノ告訴ヲ待ツハ此犯罪ノ性質タル極メテ輕微ナルヲ以テ之ヲ罰スルト否トハ所有者ノ意中ニ一任

シタル者ト云フヘシ

夫レ牛馬外ノ家畜ト雖レ之ヲ竊取スル時ハ固ヨリ竊盜ノ罪ヲ構成シ其所爲ニ關シテハ被害者等ノ告訴ナキモ檢事ハ公訴ヲ起スコトヲ得ヘキハ論ヲ俟タス然ルニ瞥見スル時ハ牛馬外ノ家畜ヲ殺スノ所爲ハ却テ之ヲ竊取シタルノ所爲ヨリモ其罪質重キニ似タリ若シ眞ニ重シトセハ前述ノ理由穩當ナラサルナリ而ルニ刑法第四百二十三條ハ其刑貳圓以上二十圓以下ノ罰金ニ止マリ竊盜ノ罪ハ体刑ニ該ル然レハ則法律ニ定ムル所ニ據ルモ其間大差アリ而シテ若シ自カラ利スルノ意思ヲ以テ人ノ家畜ヲ殺ス片ハ或ハ盜罪ヲ成スコト有ラン然レハ第四百二十三條ノ規定スル所ハ此種ノ所爲ニ非スシテ多クハ隣佑ノ家畜カ菜圃ヲ蹂躪スルヲ怒リ若クハ其慄悍ナルヲ嫉ム如キ全ク一時ノ忿恨嫉惡ニ出テ、人ノ家畜ヲ殺シタル者ヲ罰スルノ精神ナルカ故ニ此等ノ犯罪ハ一タヒ之ヲ行フモ復タ他ニ屢々行フヘキ憂アルモノニアラ

ス然ルニ竊盜ニ至テハ全ク之ニ反シ自己ヲ利スルノ目的ニ出テ敢テ所有主ニ對シ怨恨アルニ由ラサレハ其何人タルヲ問ハス又畜類ニ對シ憤怒スルニ由ラサレハ其如何ヲ論セス復タ他ニ於テ之ヲ行フヘキニ依リ社會ノ害ト爲ルコト甚タ多シトス又其意思ニ就テ觀察スルモ竊盜ヲ以テ重シト爲サル可ラス是レ二者ノ間其刑罰ヲ異ニスル所以ナリ

爰ニ以上開説セル場合ト相異ナルモ檢事カ直チニ公訴ヲ起スコト能ハサルモノアリ即チ勅奏任官華族帶勳有位者ノ犯罪是ナリ此等ノ犯罪ニ付テハ檢事ハ其處分ニ着手スル前必ス先ツ奏聞ヲ經サル可ラス但現行犯ノ場合ハ處分シテ後ニ奏聞スルコトヲ得是レ明治十五年三月司法省丙第十一號達ヲ以テ定マリタル規則ニシテ他ナシ此等ノ身分アル人ニ對シテハ鄭重ニ鄭重ヲ加ヘテ處分スヘキノ旨趣ナリ該達中ノ處分ノ二字ハ蓋提起實行ノ意ヲ包含スルモノナルヘシ要スルニ此等

ノ犯罪ハ告訴ヲ疎テ受理スヘキ他ノ場合トハ寢異ナリト雖モ檢事カ直チニ其處分ニ着手スルヲ得サルコトハ他ノ場合ト異ナラサルナリ以上論スル所ヲ以テ公訴ノ獨立ニ付キ略述シ了レリ今ヤ公訴ノ消滅ニ論及セン

### 公訴ノ消滅

公訴權ハ諸多ノ原由ニ因リ消滅スル者ナリ而シテ其原由ハ第六條ニ之ヲ列舉セリ其文ニ曰ク

公訴權消滅ノ六原由

第六條 公訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

- 第一 被告人ノ死去
- 第二 告訴ヲ待テ受理ス可キ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄
- 第三 確定判決
- 第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止
- 第五 大赦

### 第六 時効

公訴權消滅シタルヨリ生スル結果

本條ニ列記スル六原由ノ生シタル時ハ公訴權消滅スルヲ以テ檢事ハ其公訴ヲ提起スル能ハス又公訴ノ實行中ニ公訴權消滅ノ原由生シタルモ若クハ檢事カ公訴權消滅ノ原由生ゼシコトヲ知ラスシテ公訴ヲ提起シ其實行中ニ其原由ヲ發見シタルモハ檢事ハ免訴ノ言渡ヲ要求シ裁判官ハ速ニ之カ言渡ヲ爲サ、ル可ラス裁判官カ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキ場合ヲ定メタル第六十五條第二百二十四條第二項ニハ第六條第一及ヒ第二ノ場合ヲ掲ケスト雖モ一旦公訴提起ノ手續ニ因テ事件ヲ受理シタル以上ハ裁判官ハ其結局スル所ヲ言渡シテ其事件ヨリ脱離セサルヘカラス而シテ若シ裁判所ニ於テ遂ニ公訴權消滅ノ原由ヲ發見セスシテ刑ノ言渡ヲ爲シタル後之ヲ發見シ其言渡未タ確定セサルモハ刑ノ言渡ヲ受ケタル者及ヒ檢事ハ上訴ヲ爲シテ其取消ヲ要求シ又若シ其言渡既ニ確定シタルモハ其事件ニ付キ上告ヲ受クル權アリ



被告人ノ  
死去

ル裁判所ノ檢察ハ何時ニテモ其裁判所ニ非常上告ヲ爲シテ其刑ノ取  
消ヲ求メサル可ラス(本法第二百九十二條)

第一 被告人ノ死去

曾テ刑法講義ニ於テ詳悉シタルカ如ク裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シ  
其言渡確定シタルト雖モ若シ犯罪人ノ死去スル時ハ到底其刑ヲ執  
行スルニ由ナシ況ンヤ起訴ノ前或ハ確定判決以前ニ死去シタルニ於  
テヤ蓋刑ハ犯人ノ一身ニ止マルヲ原則ト爲ス然ルニ其犯人既ニ死  
去シタルニ於テハ復タ何ノ目的アリテカ公訴ヲ提起シ又ハ之ヲ實行  
スヘケンヤ

故ニ其公訴權ノ消滅スルハ當然ニシテ敢テ法律ニ特記スルヲ要セサ  
ルカ如シ然レモ古代ニ在テハ犯人死去スルモ尙ホ其屍體若クハ遺名  
ニ對シ訴訟ヲ起シテ刑ヲ科シタルト各國其例少ナカラス是レ本法ニ  
特記シタル所以ナラン歟

前ノ言渡ニ於テ  
被告人ノ身ヲ以  
テ死セザルニ  
以テ死セザル  
罪ヲ以テ死セ  
ズルニ以テ死  
スルニ由ル

余カ尙ホ爰ニ開説スヘキハ刑ヲ言渡シタル以前ニ死去シタル被告人  
ハ犯罪人ノ身ヲ以テ死去スルニ非スシテ無罪ノ身ヲ以テ死去スル者  
タルト是ナリ抑判決ノ確定ハ上訴期間ノ經過スルモ上訴ナキニ因テ  
始メテ生スルモノナリ然レモ判決確定前即チ上訴期間中ニ被告人死  
去シタルトハ被告人ヨリ上訴ヲ爲シ刑ノ言渡ヲ取消サシムル克ハサ  
ルト勿論ナレハ其言渡ハ自カラ確定シ隨テ被告人ハ犯罪人ノ身ヲ以  
テ死スルモノ、如シ然レモ若シ其被告人ノ死去セザリシニ於テハ或  
ハ上訴ヲ爲シ其無罪タルトヲ證明シテ無罪ノ判決ヲ受ケタルモ亦タ  
知ルヘカラス然ルヲ被告人カ不幸ニシテ死去シタルカ爲メ其上訴シ  
テ無罪ノ辯護ヲ爲シ能ハサルノ位置ニ在ルニモ拘ラス社會ハ尙ホ之  
ヲ犯罪人ト確認シ得ヘキヤ決シ然ラサルヘシ況ンヤ判決ハ確定ニ因  
テ始メテ其効果ヲ生スルモノナルニ其確定ノ以前ニ於テ既ニ判決ヲ  
爲スノ原由即チ訴權ハ他ノ原由(此場合ニ於テハ被告人ノ死去ニ因テ

消滅シタルカ故ニ該判決ハ畢竟其効果ヲ生スル以前ニ於テ業既ニ消滅ニ歸シタルモノナルヲヤ被告人カ犯罪人ノ身ヲ以テ死去セサルモ亦宜ナリト謂フヘシ

共犯人中  
一人ノ死  
去ハ他ノ  
共犯者ニ  
對スル訴  
權ヲ消滅  
セス

數人ノ共犯者アルキハ其共犯者中一人ノ死去ハ以テ他ノ共犯者ニ對スル公訴權ヲ消滅セシムルモノニアラス故ニ從犯ノ死去シタル場合ニ於テ正犯ニ對スル公訴權ノ依然成立スルハ勿論其正犯ノ死去シタル場合ニ於ケルモ亦然リトス而シテ此理由タル果ノ總テノ共犯罪ニ推及シ得ラルヘキモノナルカ如何或ハ姦通罪ニ付テハ右ノ理由ヲ推及スヘカラスト唱フル者アリ又或ハ之ニ反セル説ヲ主張スル學者アリ即チ姦婦ノ死去シタル時ハ姦夫ニ對スル公訴權モ亦隨テ消滅スルヤ否ノ問題ニ係ル而シテ姦夫ノ死去シタル時姦婦ニ對スル公訴權ノ依然成立スルコトニ付テハ學者間ニ異説ナシ姦婦ノ死去シタル場合ニ於テ姦夫ニ對スル公訴權ノ消滅ヲ主張スル

論者ノ説ニ曰ク姦通罪ハ一種特別ノ性質ヲ具有シ姦夫ト姦婦トノ所爲ハ不可分の者ナリ即チ語ヲ換ヘテ之ヲ言ヘハ姦夫若クハ姦婦一人ニテ決メ爲シ得ヘキ犯罪ニアラス今若シ姦婦ノ死去シタルニ拘ハラズ姦通ノ罪アリトシテ獨リ姦夫ヲ罰スルキハ是レ暗ニ姦婦ニ對シテ其犯罪アルコトヲ推測セシムルモノニシテ所謂何人ト雖モ判決確定前ニ在テ死去スル者ハ無罪ノ身ヲ以テ死去スル者ナリトノ原則ニ戻リタル結果ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ姦婦已ニ死去シタル場合ハ姦夫ニ對スル公訴權モ亦隨テ消滅ニ歸セサルヲ得然レモ姦夫ノ死スル時ハ姦婦ニ對スル公訴權ハ依然トシテ成立シ消滅セサルナリ何トナレハ苟モ有夫ノ婦カ本夫以外ノ男子ト密通シタルキハ其相姦者ノ如何ナル人ナルカヲ證明スルニ及ハス乃チ姦通罪ハ成立スルヲ以テ婦ノ姦通ヲ證明シ之ヲ罰スルモ之レカ爲メ死去シタル姦夫ニ對シテ其犯罪者タルコトヲ推測セシムルモノニアラサレハナリト

余ハ此説ニ左袒セス左ニ其理由ヲ述ヘン  
 爰ニ先ツ一言スヘキハ我刑法ニハ姦婦姦夫ハ共ニ正犯ト爲シ(刑第三百五十三條)佛國刑法ニハ姦婦ヲ正犯トシ姦夫ヲ從犯ト爲セリ(佛刑第三百三十八條)夫レ如此立法上姦夫ヲ正犯ト爲シ又ハ從犯ト爲スノ差アリト雖モ前掲ノ問題ニ至テハ蓋彼我同一ノ論決ヲ採ラサルヲ得サルカ如シ

前段姦夫ノ死去シタル時ニハ姦婦ニ對スル公訴權ハ依然成立スト云ヒナカラ姦婦ノ死去シタル時ニハ姦夫ニ對スル公訴權消滅スト云フ説ハ願フニ前後撞着ヲ免カレサルモノアルニ似タリ故ニ余ハ姦婦ノ死去シタル場合ニ於テモ亦姦夫ニ對シ姦通罪ノ公訴ヲ起スヲ得ヘシトノ説ヲ是認スルナリ何ヲ以テ云爾乎曰ク他ナシ論者ハ獨リ姦夫ニ對シテ姦通罪ノ刑ヲ科スルハ婦ハ無罪タルノ辨護ヲ爲スヲ能ハスシテ罪名ヲ地下ニ被ムルニ至ラント云フト雖モ而カモ死去シタル

婦ハ或ハ強姦セラレタル者ナリシヤモ知ルヘカラス婦ハ既ニ死去シタルカ故ニ其強姦ナリシヲ證明シ隨テ無罪タルヲノ辨護ヲ爲シ得サル者ナレハ前述ノ推測ニ從ヒ無罪ノ身ヲ以テ死去シタル者ト爲サルヘカラスト雖モ姦夫ニ付テハ強姦ノ證擧ラサルモ而カモ明確ナル姦通ノ證アラハ何ノ理由アリテ之ヲ罰スルヲ得サルヘキ乎且ツヤ前説ニ從ヘハ姦通現行犯ノ時ニ本夫之ヲ撞見シ姦所ニ於テ直チニ其婦ヲ殺シタル時ト雖モ尙ホ生存シタル姦夫ニ對スル公訴ハ消滅スルヲ以テ起訴スルヲ能ハスト論決セサルヲ得サルニ至ラン然ルニ此場合ニ於テ本夫ノ姦婦ニ加ヘタル殺害ノ罪ハ却テ宥恕セラル、ニアラスヤ(刑第三百十一條)佛刑第三百二十四條第二項)抑、法律ニ於テ其妻ノ姦通ヲ覺知シ之ヲ殺害シタル本夫ノ罪ヲ宥恕スルハ是レ即チ死シタル姦婦ノ姦通ヲ其死後ニ證明スルヲ許スモノナリ若シ果シ法律ニ於テ姦婦ノ姦通ヲ其死後ニ證明スルヲ許スニ於テハ如何ソ獨リ

姦通ヲ爲シタル姦夫ノ既ニ死シタル婦ト姦通シタルヲ證明シ之ヲ罰スルヲ得サルノ理アラン乎若シ假リニ婦人ニ對シテ無罪ノ身ヲ以テ死去シタリト爲シ即チ姦通ヲ爲サ、リシトノ推測ヲ爲ス片ハ本夫ハ到底刑法第三百十一條ノ宥恕ヲ受クルヲ能ハサルニ至ラン豈ニ復タ酷ナラスヤ

親告罪ニ付キ被害者ノ棄權

第二 告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付テハ告訴ノ拋棄

告訴ヲ待テ受理ス可キ犯罪事件ハ前已ニ之ヲ示セリ然リ而シテ此ニ所謂被害者トハ被害者本人及ヒ親屬ヲモ包含スル者ト知ル可シ告訴ノ拋棄ハ何時ニテモ之ヲ爲シ得可キカ本法之ヲ明言セスト雖モ余ハ之ヲ爲スノ時ニハ道理上宜シク若干ノ制限ヲ置ク可キモノナルヲ信ス即チ被害者カ告訴ノ拋棄ヲ爲スヲ得ルハ特リ檢事カ未タ公訴ヲ提起セサル前ナル可キト是ナリ

告訴ノ拋棄ハ何時ニテモ之ヲ爲シ得ヘキヤ

凡ソ人ノ權利ヲ行フニハ必ス一ノ目的アリ即チ其欲スル所ヲ遂ンカ

爲メニ外ナラス例ヘハ債主カ其權ヲ行フハ負債者ニ對シテ曾テ貸與セシ金額ノ辨償ヲ得ンカ爲メナリ即チ負債者カ好意ニ之ヲ辨償セサルニ當リ之ヲ裁判所ニ訴フルハ強制執行ヲ得ンカ爲メナリ故ニ裁判所ニ訴フルハ其手段ニシテ其目的即チ欲スル所ハ前ニ貸與シタル金額ヲ再ヒ我方有ト爲スニ外ナラス是ヲ以テ此手段ニ依リ一タヒ其辨償ヲ得タル片ハ則チ債主權ハ消滅ス何トナレハ既ニ其目的ヲ達シタルモノナレハナリ今告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ付キ被害者カ其有スル告訴權ヲ行フノ目的ハ檢事ヲシテ公訴ヲ提起セシムルニ在リ故ニ檢事ニ於テ一タヒ公訴ヲ提起スル片ハ被害者ハ恰モ債主權ノ辨償ヲ得タルト一般己ニ其目的ヲ達シタルモノナレハ其有スル告訴權ハ此ニ於テ消滅シタリト謂ハサル可ラス而シテ消滅シタル告訴權ハ既ニ有セサルモノナレハ隨テ又之ヲ拋棄スル能ハサルヤ明ナリ故ニ曰ク告訴權ヲ拋棄スルハ檢事公訴ヲ提起スルノ前ニ在ルヲ要スト

目的ハ既ニ達スルモノナレハ其有スル告訴權ハ消滅ス

夫レ公訴權ヲ有スル者ハ社會ナリ社會ハ檢事ヲシテ公訴權ヲ行ハシム故ニ公訴權ハ一個人ノ左右スルヲ得サルモノナリ然レモ法律ハ或ル場合ヲ定メテ被害者ノ告訴ナケレハ公訴ヲ提起スルヲ許サ、ルト有リ是レ前ニ述ヘタル如ク犯者ヲ罰スルモハ則チ犯罪事件ヲ摘發シ却テ被害者ノ名譽ヲ傷ツルノ患アリ又或ハ犯罪ノ性質ニ因リ被害者ニ非サレハ其犯罪ノ成立シタルヤ否及ヒ犯罪ヨリ生シタル損害ノ多少如何等ヲ知ル能ハサルコトアリ然レモ被害者既ニ告訴ヲ斷行シタルニ依レハ法律ノ顧慮シタル原由ノ存セサリシコト明瞭ナルカ故ニ檢事ハ乃チ公訴ヲ提起スルヲ得ヘシ而シテ既ニ公訴ヲ提起シタル以上ハ公訴權ハ元來社會ニ屬スルモノナレハ其存滅ヲ一個人ノ意思ニ委シ之ヲ左右セシムルノ理由ナシ譬ヘハ公訴ハ猶ホ竹箒ノコトシ告訴ハ猶ホ春雨ノコトシ春雨ノ澤ニ依リ竹箒一タヒ頭角ヲ抽出スルハ復タ地ニ入ル可キモノニアラス

例ヘハ幼者ヲ略取誘拐スル罪ノ如キ立法者ハ幼者ノ一身名譽ヲ慮リ檢事ノ意見ノミニ放任シテ其事件ヲ公衆ニ知ラシムヘキニアラスト思料シタルヲ以テ被害者若クハ其親屬ノ告訴ナケレハ公訴ヲ起スヘカラサルモノトセリ然ルニ一旦告訴アリタルヲ以テ檢事公訴ヲ提起シ其實行ノ手續ニ移リ既ニ公判廷ニ於テ辨論スルノ時期ニ到ラハ社會公衆ハ最早其事件ヲ聞知スヘシ此場合ニ於ケルモ尙ホ被害者ハ棄權ヲ爲シ得ヘキヤ若シ果シ之ヲ爲シ得ルモノトセハ是レ豈ニ社會ノ刑罰權ヲ舉テ一個人ノ意思ニ放任スルモノニアラスヤ故ニ告訴ノ拋棄ハ到底檢事ノ公訴ヲ提起スル以前ニ於テスルヲ要スルナリ而シテ公訴提起前ニ告訴ヲ拋棄スルハ或ハ明瞭ニ之ヲ爲シ或ハ暗黙ニ之ヲ爲スヲ得ヘシ暗黙ニ拋棄スルノ一例ハ刑法第三百四十四條ニアリ

余ハ法理上第六條第二ヲ解釋スルト上ノ如シト雖モ立法者ノ精神如

何ヲ釋ヌルニ公訴提起ノ前後ヲ區別シ其規定ヲ異ニセサルヲ以テ縱令ヒ提起ノ後ト雖モ告訴ノ拋棄ヲ爲スコトヲ許スモノ、如シ而シテ是レ亦基ク所ナキニ非ス

近來歐洲諸國ノ法律中獨國伊國奧國等ノ法律ヲ比照スルニ被害者ノ告訴ヲ待テ受理ス可キ罪頗ル多キヲ加ヘタリ是レ蓋古代彈劾法ノ再燃セシモノニシテ其理由トスル所ハ是等ノ犯罪タルヤ其害專ラ被害者ニ係ルヲ以テ之ヲ罰スルト否トハ一ニ被害者ノ意思ニ任ス可シト云フニ在リ左レハ我刑法ニ於テモ被害者ノ告訴ヲ待テ受理スヘキ犯罪ヲ規定シタル其理由トスル所或ハ右諸國ト同一ニシテ專ラ被害者ノ意思ニ一任シタルナキヲ得シ乎例ヘハ有夫姦ノ場合ニ於テ被害者タル本夫先キニ縱容シタルルハ告訴ノ効ナシト規定シタル第三百五十三號ノ如キハ以テ立法者ノ意思ヲ推知シ得可キカ如シ蓋法律ニ於テ有夫姦ヲ罰スルハ重モニ一家ノ血統ヲ紊亂シ又ハ社會ノ秩序ヲ傷

害スルカ爲メニ非スシテ專ラ被害者タル本夫ヲ害スル所アルカ爲メナリト論決セサルヲ得サルヘシ何トナレハ本夫ノ縱容シタルト否ハ以テ一家ノ血統ヲ紊亂シ社會ノ秩序ヲ傷害スルニ於テ毫モ關係スル所ナキカ故ナリ或ハ又略取誘拐セラレタル婦女式ニ從テ婚姻シタルキハ告訴ノ効ナシト規定シタル第三百四十四條ノ如キモ亦然リトス其他ノ場合ト雖モ此理由ヲ附スルハ敢テ難キニアラス我立法者ノ精神果シテ以上説明セシ所ノ如ク被害者ノ告訴ヲ待テ受理スヘキ犯罪ハ專ラ被害者ノ損害ヲ以テ刑罰ノ原因ト做スニアラン乎被害者ノ告訴アルニ非サレハ公訴ヲ提起スルコトヲ得サルハ勿論隨テ一旦告訴アリテ既ニ公訴ノ提起實行アリシ後ト雖モ被害者ニ於テ前ニ爲シタル告訴ノ非ヲ悟リ自ラ被リタル損害無シト思料シ若クハ私和ニ依リ損害ヲ賠償セシメタルルハ既ニ公訴ヲ繼續セシムルノ理由ナキヲ以テ告訴ヲ拋棄シ即チ取消シ得ヘク而シテ斯ノ如ク告訴ヲ拋

棄シ即チ取消スモ元來社會ノ損害ノ爲メニ生シタル公訴ニ非サレハ別ニ社會ノ威力ヲ損スルノ虞ナシトスルニアル歟然レモ告訴ノ拋棄ヲ以テ被害者ノ隨意ニ在リトセハ被告人ノ爲メニ或ハ迷惑ヲ生スルコトアラシク何トナレハ被告人ハ一タヒ嫌疑ヲ受ケタリト雖モ自ラ無罪ヲ信スルノミナラス裁判官モ亦無罪ト思料セル場合ニ於テ未タ審判ヲ終ラサル以前被害者ヨリ告訴ヲ取消スルハ其結果タルヤ免訴ノ言渡ナルヘキカ故ニ被告人ハ終ニ其冤ヲ露ラスノ機會ヲ失ヒ爲メニ無形上名譽ヲ毀損セラル、コトアルヘケレハナリ尤モ告訴人カ惡意若クハ重キ過失ニ依テ告訴ヲ爲シ後ニ取消シタル片ハ損害賠償ノ訴ヲ起シテ其冤ヲ露ラス機會ヲ得ヘキナリ

第三 確定判決此原由ハ公訴私訴ニ相通スルヲ以テ私訴消滅ヲ論スルニ際シ併セテ之ヲ辨明セン

第四 犯罪ノ後頒布シタル法律ニ因リ其刑ノ廢止

確定判決

刑ノ廢止

此事ハ刑法講義ニ於テ詳論シタルカ如ク法律ハ既ニ或ル刑ヲ無用ト爲シ廢止シタル時ハ判決ノ確定ニ至リタル時ト雖モ之ヲ執行セサルヲ以テ正當トス況ンヤ公訴ヲヤ

大赦

第五 大赦 是レ社會カ一定ノ犯罪ニ付キ會テ其存成ナキモノ、如ク全ク之ヲ遺忘ニ付スルノ處分ナリ因テ公訴權ノ消滅スルモ亦宜ナリト謂フヘシ余ハ刑法講義ニ於テ既ニ大赦特赦ノ區別ヲ示シ詳解シタレハ茲ニ之ヲ略ス

期滿免除

第六 時効 是レ亦公訴私訴ヲ消滅セシムル原由ナレハ私訴ノ消滅ヲ講スル片併セテ之ヲ説明セン

以上六原因ノ一ヲ生スル片ハ公訴權ハ常ニ消滅ス可シ他ニ尙ホ公訴權消滅ノ原因アリヤ否

學者或ハ曰ク刑法第百二條ノ場合ニテ數罪ヲ犯シ而シテ先ツ其最モ重キ一罪發覺シ既ニ刑ノ言渡アリ其後輕キ刑ニ該當スル罪發覺シタル

刑法第百二條數罪ヲ犯シテ先キ一罪發覺シテ刑ノ言渡

公訴ノ消滅

チ受ケタ  
ル時ハ後  
ニ發覺シ  
タル輕キ  
罪ニ對ス  
ル公訴權  
ハ消滅ス  
ルヤ否

片ハ公訴權ハ消滅ス即チ之ヲ約言セハ前發ノ重キ罪ノ言渡ハ後發ノ輕キ罪ニ對スル公訴權消滅ノ原因ナリト  
其理由ニ曰ク公訴ノ目的ハ刑ヲ適用スルニ在リ而シテ重キ罪ニ付テ既ニ刑ノ言渡アリタル時ハ輕キ罪ニ付キ更ニ刑ヲ適用スルヲ得ス然レハ設ヒ公訴ヲ提起スルモ到底其目的ヲ達スル能ハス是レ公訴權ノ自カラ消滅スル所以ナリ之ヲ復言スレハ輕キ罪ニ該當スル刑ヲ適用スルヲ能ハサルヲ以テ隨テ其適用ヲ目的トスル公訴權ハ自カラ消滅ニ歸スルモノナリト

余ハ該說ヲ採用セサル者ナリ此事ニ付テハ佛國ニ於テモ兩說交々對峙シテ未タ一定セス而シテ佛國大審院ニ於テ左ノ判決例アリ或ル婦人本夫ヲ毒殺シ又他ニ竊盜ヲ爲セリ然ルニ第一ノ罪先ツ發覺シ刑ノ言渡アリタル後第二ノ罪發覺シ公訴實行ノ繼續アリテ判決ヲ爲スニ至レリ婦人ハ第二ノ罪ニ付テハ既ニ公訴權ノ消滅セルモノト爲シ大

審院ニ上告シタルニ大審院ニ於テハ第二ノ罪ニ付テモ公訴ヲ起スヲ得ル者ナリト判決シタリ

佛國ニ於テハ斯ノ如キ實例アリト雖モ是レ單ターノ判決例タルニ過キス今ヤ余ハ前述ノ說ヲ採用セサル理由ヲ左ニ述ヘントス  
凡ソ犯罪ハ公訴權ノ原因ナリ犯罪アレハ茲ニ公訴權ヲ生ス犯罪アリタル後法律上公訴權ノ消滅セサル限リハ檢事ハ或ル例外ヲ除クノ外直チニ之ヲ行フヲ得ルナリ且前論者ト雖モ數罪俱發ノ場合ニ於テ未タ重キ刑ノ判決ヲ爲サル以前ニ在テハ其輕キ罪ニ對スル公訴權ト雖モ未タ消滅セストスルノ一點ニ至テハ決シテ異論ナキ所ナラシ夫レ重キ罪ニ該當スル刑ノ言渡前ニ在テハ輕キ罪ニ對スル公訴權消滅セスト云ヒナカラ獨リ重キ罪ノ言渡後ニ在テハ輕キ罪ニ對スル公訴權消滅スト謂ヘルカ如キハ余ノ甚タ解スル能ハサル所ナリ  
論者ハ既ニ重キ罪ニ付キ刑ノ言渡アリタル片ハ其輕ク若クハ等シキ



罪ニ付テハ到底刑ヲ適用スルコト能ハサルヲ以テ公訴權消滅スヘシト云フト雖モ是レ誤謬ノ推理ナリト謂フヘシ夫レ刑ノ適用トハ敢テ有形上ノ適用ヲ謂フニアラス今裁判官カ法律ノ正條ニ擬シ某ノ罪ハ某ノ刑ニ該當スト爲シ其刑ヲ被告人ニ言渡スハ則チ刑ノ適用ナリ刑ノ適用ハ其執行ト異ナレリ故ニ前ニ重懲役ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ後發ノ罪重禁錮ニ當ルキハ此二刑ヲ執行スル能ハスト雖モ必ス其適用ヲ爲サル可ラサルナリ唯輕キ刑ハ重キ刑ノ爲メニ執行上吸收セラレテ一體ト爲ルノミ故ニ其輕ク若クハ等シキ罪ニ該當スル刑ハ其以前ニ言渡サレタル刑ニ執行上吸收セララル、ト雖モ其罪ハ爲メニ消滅スルコト無ク隨テ公訴權モ亦消滅セサルナリ且數罪俱發ノ場合ニ於テ設ヒ前發ノ罪ニ對シ刑ノ言渡アリト雖モ其罪ノ輕重ハ豫審若クハ公判ヲ待テ始メテ之ヲ知ルヲ得可キナリ而シテ豫審公判ハ公訴ヲ起スニアラサレハ爲ス能ハサル所ナリ然ルニ豫審

刑ノ適用  
刑ノ執行  
人異

或ハ公判辨論ノ後ニ在テ後發ノ罪ハ前發ノ罪ヨリ輕キモノナリト判決アリタル片ノ如キ若シ反對說ニ從ヘハ是レ元來公訴ヲ起ス可ラサル場合ニ於テ公訴ヲ起シタル者ナリト謂ハサルヲ得サルニ至ラン又設ヒ前發ノ重キ罪ニ付キ已ニ判決アリテ後發ノ罪輕キ片ト雖モ檢事之レカ公訴ヲ起シテ犯人ノ誰タルヲ確定セシムルニ非サレハ公衆ハ犯人外ノ者ヲ猜疑スルノ不幸ヲ生スルコトアラン又社會公衆ハ犯人ノ誰タルヲ知ラサルヲ以テ危懼ノ念ヲ懷クナルヘシ其他私訴ニ於テモ犯人ヲ知ラサレハ被害者賠償ヲ求ムルニ困難ヲ來スコトアルヘシ此等ノ理由アルヲ以テ余ハ數罪俱發ノ場合ニ於テ已ニ一ノ重キ罪ニ付キ判決アリタルコトハ以テ他ノ輕ク若クハ等シキ罪ニ對スル公訴權消滅ノ原由ト爲ラサルモノナリト思惟セリ以上ハ公訴ニ付テノ所論ナリ是ヨリ私訴ニ付テ論究スヘシ

第二節 私訴

### 私訴ノ發生及ヒ目的

私訴トハ公訴ニ對立スル訴訟ノ名義ナリ而シテ私訴ノ權ハ一個人ニ損害ヲ加ヘタル犯罪ニ因リ發生ス故ニ其原因ハ亦犯罪ニ在リ犯罪アルニ非サレハ私訴權ノ生スルコト無シ

又犯罪ハ唯社會ノ公益ノミチ害スルコトアリ又公益ヲ害シ併セテ一個人ノ私益ヲ害スルコトアリ例ヘハ取締上ニ關シテ設ケタル違警罪ノ如キ又身體若クハ財産ニ關スル犯罪ニ在テモ毫モ一個人ノ私益ヲ害セサル單純ノ未遂犯ノ如キ又ハ或ハ單純ノ國事犯ノ如キ是レ皆公益ヲ害スルノミニシテ曾テ一個人ノ私益ヲ害スル者ニアラス故ニ此等ノ犯罪ハ單ニ公訴權ヲ生スルニ過キスシテ私訴ノ原由ト爲ルコトナシ然レモ其公益ヲ害シ併セテ一個人ノ私益ヲ害スル犯罪即チ身體名譽財産ニ對スル重罪輕罪ノ如キニ至テハ一方ニ於テハ社會ヲ害スルヲ以テ公訴權ヲ發生シ又一方ニ於テハ一個人ノ公益ヲ害スルヲ以テ私訴

權ヲ發生ス此故ニ私訴權ヲ生スル原因ハ必ス犯罪ニシテ而シテ其犯罪ハ必ス一個人ノ私益ヲ害スル者タルヲ要ス

凡ソ所爲ノ不正ニ出テ他人ニ損害ヲ加ヘタルハ縱令ヒ刑罰ニ觸レスト雖モ被害者ハ其損害ノ賠償ヲ目的トシテ起訴スルノ權アリ然レモ是レ純然タル民法上ノ損害賠償ノ訴權ニシテ決シテ私訴ト謂フヘカラス蓋其訴權ノ原由ハ佛國民法ニ所謂ル民法上ノ犯罪及ヒ準犯罪ニシテ刑事上ノ犯罪ニアラサレハナリ

私訴ノ權ハ犯罪ニ原由スル者ナルコト前述ノ如シト雖モ其目的タル畢竟損害賠償ヲ求ムルニ外ナラサルヲ以テ總テ私訴權ヲ生シタルハ常ニ民法上ノ損害賠償ノ訴權ヲ生スルヤ亦言フ可ス故ニ被害者ハ民事裁判所ニ訴訟ヲ起シ賠償ヲ要メントスルハ之ヲ爲シ得ヘキヤ勿論ナリトス然レモ純然タル民法上ノ損害賠償ノ訴權ヲ生シタルハ常ニ私訴權ヲ生シ被害者ハ刑事裁判所ヘ訴訟ヲ起シ賠償ヲ求ムルコト

民法上ノ損害要償ノ別訴トノ區別

ヲ得可シト謂フヲ得ス蓋民法上ノ損害賠償ノ訴權ヲ生スル場合ハ必  
 シモ犯罪ニ原由セサルヲ以テナリ  
 今純然タル民法上ノ損害要償ノ訴ト私訴トノ差別ヲ擧クレハ左ノ如  
 シ

第一 純然タル民法上ノ損害要償ノ訴ハ民事裁判所ニ非サレハ之ヲ  
 提起スルヲ得ス之ニ反シテ私訴ハ檢事ノ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所  
 ニ之ヲ提起シ又ハ尋常民事ノ損害要償ノ訴ト同ク民事裁判所ニ對シ  
 テ之ヲ提起スルヲ得但舊治罪法第四條末項ニハ「私訴ハ別ニ民事裁判  
 所ニ之ヲ爲スコヲ得」トノ明文アリシモ本法ニハ此文字ナキヲ以テ或  
 ハ疑ヲ懷ク者ナキヲ保セスト雖凡ソ他人ノ爲メニ損害ヲ受ケタル  
 者ハ其他人ノ所爲果シ刑法ニ觸ル、ト否トニ拘ラス賠償請求ノ權ア  
 ルコ勿論ナレハ別ニ民事裁判所ニ損害賠償ノ請求ヲ爲シ得可キモ  
 亦固ヨリ論ヲ竣タス敢テ明文ヲ待テ始メテ然ルモノニハ非サルナリ」

第二 民法上ノ損害要償ノ訴ハ民法ニ定メタル時効ニ因リテ消滅ス  
 ルモ私訴ニ付テハ本法ニ定メタル時効ノ期間ヲ適用スヘキナリ  
 佛國ニ於テハ尙ホ第三ノ差別アリ即チ私訴及ヒ刑法上ノ犯罪ニ因テ  
 生シタル損害要償ノ訴ニ基キ言渡シタル賠償義務ヲ果サ、ル時ハ強  
 制執行ノ手段トシテ民事上ノ禁錮ヲ用フルヲ得ルト雖凡純然タル民  
 法上ノ損害要償ノ訴ニ基キ言渡シタル賠償義務ヲ果サ、ル者ニ對シ  
 テハ強制執行ノ手段トシテ此處分ヲ用ユルコヲ得ス何トナレハ千八  
 百六十七年ノ法律ハ民事ニ於テハ此禁錮處分ヲ總テ廢止シタレハナ  
 リ

私訴ノ目的

私訴ノ目的ハ損害ノ賠償贓物ノ返還ニ在リ

第二條 私訴ハ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的

トスルモノニシテ云々

抑損害トハ何チカ云フ他ナシ身體名譽若クハ財産ニ關スル權利ノ毀

私訴ノ目的  
的タル損害賠償

私訴ノ發生及ヒ目的

損是ナリ而シテ或ハ此等ノ權利全部ノ消滅アリ或ハ其一部ノ毀損アリ又其權利ハ金錢ヲ以テ價ヲ定メ得可キモノト否ラサルモノトアリ又吾人ノ財産ニ屬スルモノト屬セサルモノ例ハ生命健康自由名譽身分ニ關スルモノアリ總テ此等ノ別ナク苟クモ吾人ニ屬スル權利ノ全部若クハ一部ノ毀損ヲ生シタル片ハ是レ有形若クハ無形ノ損害ヲ生シタルモノナリ

權利中財産ニ關スル者ハ賠償ノ額ヲ定ムル容易ナレモ財産以外ニ關スル權利ニ至テハ之ヲ定ムルト甚タ難シ然レモ賠償ノ額ヲ定ムルト難キノ故ヲ以テ私訴ノ裁判ヲ拒絕スヘキニアラス

私訴ノ原由タル損害ノ種類ハ素ヨリ一ニシテ足ラスト雖モ其原由ハ必ス犯罪ナラサルヘカラス若シ犯罪外ノ所爲ニシテ損害ノ原由ト爲ルトアルモ決シテ犯人ニ對シ私訴ヲ起スヘキニアラス例ハ一犯罪アリ檢事ハ甲ヲ以テ其犯人ト認メ之ニ對シテ公訴實行ノ手續ヲ爲セ

リ然ルニ豫審ニ於テ其犯罪ハ乙ノ爲シタル所ニシテ甲ノ所爲ニアラサルト明瞭ナルニ至リ甲ニ對シテハ免訴ノ言渡アリタリト假想セヨ此場合ニ於テ前ニ犯人タルノ嫌疑ヲ被ムリタル甲ハ其犯罪ノ本人タル乙ノ爲シタル犯罪ノ爲メニ自カラ損害ヲ被ムリタルヲ理由トシテ之ニ對シ私訴ヲ起スヲ得ス何トナレハ甲ノ被ムリタル損害ノ原由ハ全ク檢事ノ誤認ニ在テ乙ノ犯罪ハ唯此誤認ヲ來タスノ機會ヲ與ヘタルニ過キサレハナリ佛國ニ於テ曾テ此實例ヲ生シタリシモ今述ヘタルカ如ク私訴ヲ却下スルノ判決アリタルナリ

凡ソ損害ハ有形上即チ身體財産ニ關スルモノタルト無形上即チ名譽權利ニ關スルモノタルトニ論ナク金錢ヲ以テ賠償シ得ヘキモノハ則チ金錢ヲ以テ賠償スヘキナリ然レモ強チ金錢ヲ以テスル賠償ニ限ルヘキニアラス判事ハ被害者ノ請求ニ依リ犯罪人ノ費用ヲ以テ裁判宣告書ヲ新聞紙ニ公告スヘキトヲ命シ以テ賠償ノ手段ト爲ストアリ又

場合ニ依リ此公告ノ外尙ホ金錢上ノ賠償ヲモ併セテ言渡スコアリ  
 金錢ヲ以テ賠償ス可キ時其金額ヲ定ムルハ一ニ判事カ事實ヲ照シテ  
 爲スヘキ認定ニ任スル者ナルヲ以テ損害ノ高ト賠償金額トノ間ニ差  
 アルヲ原由トシテ上告ヲ爲スヲ得ス然レモ其言渡シタル賠償金額ニ  
 シテ被害者ノ請求額ニ超エタル片ハ前述ノ限ニアラサルナリ  
 民法財産篇第二部中賠償額ヲ定ムルニ付テノ規則アリ其規則中此犯  
 罪ニ因テ生シタル損害ノ賠償額ヲ定ムルニ付キ適用スルコヲ得サル  
 モノアリ蓋該法ノ定ムル所ハ概シテ契約ノ不履行或ハ不充分ナル履  
 行ヨリ生スル損害ノ賠償ニ係ルヲ以テナリ其適用スルコヲ得サル規  
 則トハ例ヘハ財産編第三百九十三條ニ於ケルカ如シ該條ニ依レハ例  
 外ノ場合ヲ除ク外義務履行ノ延滞ヨリ生スル損害ノ賠償(即チ利子)ヲ  
 請求スル片ハ其請求ノ日ヨリ以後ノ損害(即チ利子)ニアラサレハ之ヲ  
 付與スルヲ得ストノ意アリ然ルニ私訴ニ付キ判決スル判事ハ其賠償

ヲ定ムルニ當リ被害者カ賠償ヲ請求スル日ヨリニアラスシテ即チ犯  
 罪ニ因リ損害ノ生シタル日ヨリ其損害ニ對スル利子ヲ計算シテ之ヲ  
 定ムルヲ得ヘシ何トナレハ犯罪ニ因テ他人ニ損害ヲ生セシメタル者  
 ハ其犯罪ノ所爲ノミニ依リ直ニ遲滞ニ付セラレタル者ナレハナリ(同  
 上第三百八十四條參看)

私訴ノ目的  
 タル職  
 的ノ返還  
 物ノ職

又私訴ハ番ニ損害ノ賠償ヲ目的トスルノミナラス又贓物ノ返還ヲ目  
 的トスル者ナリ抑贓物ノ返還ハ損害ノ全部若クハ一部ノ賠償ト爲ル  
 ヘシ若シ贓物ヲ返還シテ損害ノ全部ヲ賠償シタル片ハ別ニ賠償ヲ言渡  
 スニ及ハス又贓物ヲ返還スルノミニテハ未タ全ク損害ヲ賠償スルニ  
 足ラサル片ハ之ニ加フルニ金錢ヲ以テ賠償セシムヘキナリ要スルニ  
 贓物ノ返還ハ即チ損害ノ賠償中ニ包含スルモノト謂フモ亦敢テ不可  
 ナキニ似タリ然レモ其間自ツカラ差異ノ存スル所ナキニアラス何ソ  
 ヤ損害賠償ハ被害者民事原告人ト爲リテ私訴ノ申立ヲ爲シ其賠償額

ヲ請求スルニ非サルヨリハ判事ハ犯罪人ニ對シ賠償ノ言渡ヲ爲スヲ得サルモ之ニ反シテ贓物ノ返還ハ縱令ヒ被害者私訴ヲ起シテ其申立ヲ爲サ、ル時ト雖モ贓物現ニ犯罪人ノ手ニ在ルキハ判事ハ犯罪人ニ對シ直チニ被害者(所有者)ニ還付スヘキヲ言渡サ、ル可ラサレハナリ(此事ニ付テハ刑法第四十八條同附則第五十四條ヲ參觀ス可シ)

贓物若シ輾轉シテ第三者ノ手ニ存スルキハ其公商人ヨリ買取リタルト非公商人ヨリ買取リタルトニ從ヒテ區別アリ公商人ヨリ買取リタルキハ公商若クハ被害者ヨリ原價ヲ償フニ非サレハ之ヲ返還セシムルヲ得ス而シテ若シ非公商人ヨリ買取リタルキハ其原價ヲ償フニ及ハスシテ之ヲ返還セシムルヲ得ヘシ然レモ其ノ受ケタル第三者ヨリ賣渡人ニ對シ前ニ拂渡シタル代價ノ返還ヲ求ムルヲ得ルヤ勿論ナリ(刑法附則第五十五條及ヒ民法証據編第四百十五條第四百十六條參看)

又贓物已ニ費消セラレタル時又ハ所在ノ知レサル時又ハ識別スヘカラサル時例ヘハ金屬ヲ溶解シテ器具ト爲シタル時ノ如キハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得ル而已(刑法附則第五十四條以下參看)

私訴權ノ屬スル人

第二條ニ曰ク私訴ハ云々民法ニ從ヒ被害者ニ屬スト夫レ私訴ハ犯罪ニ因リ損害ヲ被ムリタル者之レカ賠償ヲ得ンヲ目的トシテ提起スル訴ナレハ即チ被害者ニ屬スルヲ當然ナリトス已ニ述ヘタルカ如ク公訴ハ社會ニ屬スル者ニシテ檢事ハ社會ノ代人ト爲リ之ヲ實行スルニ止マル者ナリ故ニ第一條ニハ公訴ハ云々檢事之ヲ行フト記シ第二條ニハ私訴ハ云々被害者ニ屬スト記セリ

私訴ノ被害者ニ屬スルヲ前述ノ如シ此故ニ私訴權ハ被害者ニ於テ之ヲ他人ニ贈與シ又ハ讓渡シ或ハ之ヲ拋棄スルモ素ト其自由ニシテ彼ノ檢事カ公訴權ヲ讓與拋棄シ得サルカ如キニアラサルナリ是レ權利

私訴權ノ屬スル人

私訴權ノ屬スル人

被害者ト  
ハ如何ナ  
ル人ナ指  
ス乎

ノ其人ニ屬スルト否トニ因リ生スル所ノ結果ナリトス  
 茲ニ所謂ル被害者トハ如何ナル人ヲ指スモノナルヤ犯罪ニ因リ直接  
 ニ害ヲ受ケタル本人ノ被害者タルコトハ固ヨリ言ヲ待タス例ヘハ被毆  
 打者被盜者ノ如キ是レナリ然レモ犯罪ニ因リ直接ニ害ヲ被ムリタル  
 者ノミヲ以テ被害者ト爲スヘカラス縱令ヒ直接ニ害ヲ受クルニ非サ  
 ルモ犯罪ニ因リ其生シタル害ノ影響ヲ間接ニ被ムル者モ亦被害者ナ  
 リトス例ヘハ有夫ノ婦ノ侮辱セラレタル時ノ如キ直接ノ被害者ハ婦  
 ナリト雖モ其侮辱ハ施テ夫ノ名譽ヲ毀損スルカ故ニ夫ハ間接ニ損害  
 ヲ被ムリタル者ニシテ即チ被害者ト謂ハサルヘカラス故ニ此場合ニ  
 於テ夫ハ自己ノ名義ヲ以テ賠償ヲ請求スルヲ得可ク又子ニ對スル犯  
 罪ニ因リ其父間接ニ損害ヲ被ムリタル時ノ如キ父ハ自己ノ名義ヲ以  
 テ賠償ヲ請求スルヲ得ヘキナリ  
 然レモ犯罪ニ因テ生シタル損害ノ理由トシテ私訴ヲ起シ賠償ヲ求ム

ルキハ必ス其犯罪カ損害ノ原由ト爲リシコトヲ證明セサル可ラス故ニ  
 妻ノ侮辱セラレタル時又ハ子ノ創傷セラレタル時ニ於テ其婦其父カ  
 私訴ヲ起シテ賠償ヲ求メントスルニハ必ス先ツ其子ニ對スル犯  
 罪ハ以テ自己ノ名譽上若クハ財産上ニ現ニ損害ヲ來タシタルコトヲ證  
 明セサル可ラス夫レ損害ノ賠償ヲ求ムルニハ其損害ノ確然生シタル  
 コトヲ要ス若シ否ラスシテ唯其犯罪ナカリセハ當サニ若干ノ利益ヲ  
 得シナルヘシト云フカ如キ利益ノ希望ヲ失ヒタルニ過ギサル場合ハ  
 以テ賠償ヲ求ムルノ理由ト爲スニ足ラス何トナレハ希望ハ確然ナラ  
 サルモノニシテ果シテ其希望シタル利益ヲ得タルヤ否ヤハ未タ知ル  
 可ラサレハナリ然レモ此損害ノ不確然ナルコト彼ノ賠償額ヲ定ムル  
 ノ困難ナルコトハ決シテ之ヲ同視スヘカラス奈何トナレハ損害ノ不  
 確然ナルコトハ其訴權ノ原由タル損害ノ有無未タ知レサル者ナルカ故  
 ニ隨テ其賠償ヲ請求スルノ權利ハ未タ成立セサルヤモ知ル可ラスト

醫師代官  
人等官許  
ヲ得スシ  
テ營業シ  
タル時他  
ノ同業者  
ハ損害ヲ  
求ムルコ  
トヲ得ル

雖此之ニ反シテ損害額ヲ定ムルノ困難ナルヲハ唯損害ノ程度ヲ計畫  
スルニ在リテ損害ノ生シタルヲハ固ヨリ確然ナルニ依リ賠償ノ訴權  
モ亦固ヨリ成立シタルモノナレハナリ  
茲ニ一ノ問題アリ例ヘハ醫師製藥家公證人代言人ノ如キハ元來或ル  
能力ニ關スル條件ヲ具備スルニ非サレハ其業ヲ營ムヲ得サル者ニシ  
テ之ニ背クハ犯罪ヲ構造スル者ナリ(醫師ニ關シテハ刑法第二百五  
十六條ニ明文アリ)然ルニ今其條件ヲ具備セスシテ營業ヲ爲ス者アル  
ハ同業者ハ爲メニ其顧客ノ減少シタルヲ理由トシテ私訴ヲ起シ損  
害ノ賠償ヲ求ムルヲ得ルヤ否ト是レナリ  
佛國ニ於テハ製藥家等ニ付テ屢々此實例ノ生スルヲ以テ爲メニ學者  
間ニ左ノ四說ヲ生スルニ至レリ  
第一說ニ曰ク右犯罪者(即チ不法ノ競争者)都會ニ於テ營業シタル者ニ  
係ル時ハ之ニ對スル同業者ノ私訴ハ受理ス可ラス然レモ其都會ニア

ラサル地ニ於テ行ヒタル者ニ係ルハ之ヲ受理スヘキナリ何トナレ  
ハ都會ニ於テハ同業者多數アリテ損害ノ額ヲ量定スルヲ殆ト得ヘカ  
ラサルノミナラス其成立ニ至テモ亦甚々確然ナラス之ニ反シテ都會  
ニアラサル地ニ於テハ同業者僅數ナルカ故ニ其被ムル所ノ損害ハ之  
ヲ認定スルヲ難カラス而シテ其不確然ナルモノハ唯損害ノ額ナリト  
然レモ此額ノ確然ナラスシテ之ヲ量定スルノ困難ナルヲハ以テ不受  
理ノ原由ト爲スヘカラサレハナリト  
第二說ニ曰ク同業者舉テ私訴ヲ起シタル時ハ之ヲ受理セサルヘカラ  
ス蓋同業者中ノ一名又ハ二名ノミ私訴ヲ爲シタリトテ此レノミニテ  
ハ果ノ爲メニ損害ヲ受ケタルヤ否ヤ未タ確然ナラサレハ之ヲ受理ス  
ヘカラスト雖モ其同業者一般ニ私訴スルニ依レハ爲メニ損害ヲ被ム  
リタルヘシト確認セラル、ヲ以テナリト  
第三說ニ正ク何レノ場合ト雖モ之ヲ受理セサル可ラス不法ノ競争ハ



必ス正當ノ業務者ニ損害ヲ被ムラシムルモノナレハ正當ノ業務者ハ之ヲ賠償セシムルニ於テ現在ノ權利アリ又利益アルナリ但其賠償ノ額ヲ定ムルニ付テハ固ヨリ困難アルヘシト雖モ之レカ爲メニ私訴ヲ起スノ妨碍トナルヘキニアラスト

第四說ニ曰ク何レノ場合ト雖モ同業者ハ私訴ヲ起スノ權ナシ而シテ或ハ不法ノ競争者カ曾テ其營業ヲ爲スニ微カリセハ他ノ正當ノ同業者ハ顧客ノ自己ニ依頼スル者多キヲ加ヘタルヘク乃チ爲メニ多少ノ利益ヲ増スヘキカ故ニ此利益ヲ得サリシト即チ失フタルトテ理由トシテ私訴ヲ起スヲ得ヘシト説ク者アリト雖モ而カモ已ニ述ヘタルカ如キ損害賠償ヲ請求スルニハ必ス其損害ノ確證ヲ要ス彼ノ利益ノ希望ノ如キハ以テ賠償ヲ求ムルノ理由ト爲スニ足ラス何トナレハ彼ノ不法ノ競争者ニシテ其營業ヲ爲サ、リセハ必ス供給ヲ正當ノ同業者ニ需メタルヘシト云フカ如キハ畢竟一箇ノ假想ニ止マル者ニシテ實際

需用者ハ彼ニ需ムルヲ爲サス他郡縣ノ同業者ニ依頼スルカ又ハ患者手ツカラ藥石ヲ製シ訴訟者自カラ事ヲ處理ノ復々業務者ヲ依頼セサルカ或ハ又此不法ノ業務者ヲ固信スルノ餘リ之レニ依頼シタレモ若シ此不法ノ業務者ナカリセハ寧ロ初メヨリ藥石ヲ用ヒス又ハ訴訟ヲ起サ、ルヤモ未タ知ルヘカラサレハナリ然リ而シテ彼ノ同業者ノ僅數ナル僻地ニ於テハ其損害ハ稍確然ナルカ如シト雖モ是レ亦畢竟利益ノ希望タルヲ免レス且ツヤ法律ニ於テ此種ノ職業ヲ行フニ付キ或ル能力ヲ要スル所以タル敢テ同業者ノ爲メニスルニアラスノ公益ヲ保護スルノ趣旨ニ出ツ故ニ苟モ其條件ヲ具備スル者ハ皆其職業ヲ行フヲ得ルモノナリ(尤モ公証人ニ付テハ制限アリ)然レハ則其條件ヲ具備セスノ職業ヲ行フ者ハ公益ニ關スル罪ヲ犯シタル者ニシテ其犯罪ハ即チ社會ニ直接ノ害ヲ與フルモノナレハ公訴ヲ起シテ此害ヲ償ハシメントスル者ハ檢事ノ職分ナリトス之ヲ要スルニ正當ノ業務者ニ

私訴權ハ  
被害者ノ  
相續人ニ  
屬スルヤ  
否

於テ其不正ノ競争者ニ對シテ私訴ヲ起スモ其損害ハ漠然トシテ到底  
 證明スルヲ能ハサル者ナルカ故ニ結局無益ニ屬スヘシト  
 余ハ此第四說ヲ以テ其當ヲ得タル者ト思料スルナリ  
 又私訴ノ權ハ被害者ノ相續人ニ屬スルヤ否ヤ此問題ニ付テハ須ラク  
 場合ヲ分テ之ヲ講究スヘキナリ  
 第一 被害者ノ死去前ニ犯罪ノ生シタル場合  
 若シ犯罪カ被害者ノ財産上ニ損害ヲ加ヘタルキハ相續人ハ其相續ス  
 ルヲ得ヘキ財産ノ一部分ヲ犯罪ニ因リ滅殺セラレタルヲ以テ又躬ラ  
 直接ニ損害ヲ受ケタルト一般ナリ故ニ此場合ハ死者ノ名義ヲ以テセ  
 ス自己ノ名義ヲ以テ私訴ヲ起スヲ得ヘシ  
 若シ又犯罪カ被害者ノ身體健康自由等ニ害ヲ加ヘタルキハ其相續人  
 ハ概ノ私訴ヲ起スヲ得ヘシ何トナレハ其犯罪ニ因リ相續人ハ金錢上  
 若クハ心意上ノ損害ヲ被ムルヘケレハナリ而シテ若シ被害者犯罪ニ因

リ名譽ヲ毀傷セラレタル時ハ如何被害者本人即チ先人自カラ私訴ヲ  
 起シタル後死去シタル時ハ相續人之ヲ繼續スルヲ得ルヤ固ヨリ論ヲ  
 俟タス然レモ先人ノ私訴ヲ起サシテ死去シタル場合ニ於テハ如何  
 先人カ生前ニ私訴ヲ起サ、ルハ即チ私訴權ヲ拋棄シタルモノト推測  
 スヘキナリ殊ニ此種ノ罪ハ多クハ告訴ヲ待テ始メテ公訴ヲ受理スヘ  
 キ者ニ係レリ(刑第三百六十一條參看)然レハ既ニ自ラ告訴シテ公訴ノ  
 受理セラレタルニ拘ハラス尙ホ私訴ヲ起サ、ル時ノ如キハ以テ私訴  
 ヲ拋棄シタリト看做スニ餘リアルヘシ又單ニ先人ノ名譽ヲ毀傷シタ  
 ル犯罪ハ因テ相續人カ直接ニ損害ヲ被フルコトハ殆ント之レアラサル  
 ヘシ故ニ此最後ノ場合ニ於テハ相續人ハ私訴ヲ起スヲ得サルモノ  
 ト決ス可キナリ  
 第二 犯罪ノ爲メ被害者死去シタル場合  
 此場合ニ於テハ相續人ノ私訴ヲ起スヲ得ルヤ明ナリ何トナレハ人ノ

生命ヲ奪フノ所爲ハ常ニ其人ノ爲メニ回復スヘカラサル大害ヲ生スルハ勿論亦其人ノ財産上ニモ害ヲ生スルヲ以テナリ故ニ例ヘハ被害者重傷ヲ負ヒテ自カラ私訴ヲ起スニ到ラ<sup>ラ</sup>死<sup>ス</sup>去セシ場合ノ如キ相續人ハ私訴ヲ起シ得可キナリ

又縱令ヒ相續人ニ非スト雖モ被害者ノ死去シタル爲メ損害ヲ被ムル者ハ亦私訴ヲ起スヲ得ヘシ例ヘハ夫ノ勞力ニ依テ生活スル婦ノ如キハ夫ノ死去シタルカ爲メニ忽チ生活ノ手段ヲ失フヲ以テ犯人ニ對シ私訴ヲ起スヲ得ヘシ又之ト等シク婦ノ生存中ハ婦ノ父ヨリ年々其夫ニ若干ノ贈與ヲ爲スヘシトノ契約アル場合ニ於テ婦ノ殺害セラレタルハ其夫ハ犯人ニ對シテ私訴ヲ爲スヲ得ヘシ又被害者ニ於テ或人ニ對シ自己ノ存命中養料ヲ與フヘシトノ契約アル時ノ如キ或人ハ犯人ニ對シテ私訴ヲ起スヲ得ヘシ若シ又此等ノ犯罪ニ因テ損害ヲ被ムリタル者數名アルハ各々私訴ヲ起スヲ得ヘキナリ

今犯罪カ被害者死去ノ原因ト爲リシ場合ニ於テ其近親故舊ハ爲メニ愛情ヲ滅殺セラレ悲哀措ク能ハサルヲ理由トシテ私訴ヲ起スヲ得ヘキヤ此問題ニ付テハ有力ナル反對論者アルニ拘ハラヌ余ハ之ヲ起スヲ得ストノ説ヲ穩當ナリト信ス

第三 被害者タル人ノ死後ニ犯罪ノ生シタル場合

死者ニ對スル犯罪ハ重モニ死者ヲ誹毀スルノ罪是レナリ刑法第三百五十九條ニ曰ク「死者ヲ誹毀シタル者ハ誣罔ニ出タルニ非サレハ前條ノ例ニ照シテ處斷スル」ヲ得スト故ニ摘發シタル死者ノ惡事醜行ニノ事實ニ適スルハ誹毀ヲ以テ處分セサルナリ然レモ人ノ惡事醜行ヲ摘發シテ誹毀スル以上ハ縱令ヒ事實ニ適スト雖モ德義上或ハ嫌疑スヘキモノアルノミナラス相續人ノ名譽ヲ毀損スルヲアリ又一方ヨリ之ヲ觀レハ法律ハ人ノ善行惡事ヲ記載シテ事實ヲ後世ニ傳ヘントスル史家ノ權利ヲ保護セサルヘカラス然レハ此場合ニ於テ相續人ハ

私訴ヲ起シ得サルヤ明ナリ設ヒ誹毀ニ因リ相續人ハ害ヲ被ムリタルモ其事實ニ適スルキハ純然タル民事上ノ賠償ヲモ要求スルヲ得サルヘシ何トナレハ民事上ニ於テモ損害賠償ヲ請求シ得ヘキ場合ハ被告カ權利ナシシテ損害ヲ與ヘタルキニ限ルモノナリ然ルニ前述ノ場合ニハ史家ハ事實ヲ傳フルノ權ニ因リテ直筆シタルニ過キサレハナリ今死者ニ對スル誹毀ニシテ敢テ誣罔ニ出テサルモ歴史ノ爲メニスルニ非スシテ故意ニ相續人ヲ毀傷セントスルニ出タルキハ相續人ハ之ヲ理由トシテ私訴ヲ起スヲ得ルヤ否ヤ例ヘハ茲ニ人アリ甲ノ先人ハ詐僞ヲ以テ其生活ノ手段ト爲シ曾テ某氏ノ遺孤ト詐稱シテ某氏ノ正當相續人ヨリ遺物財産ノ大部ヲ分割セシメタルハ誠ニ憎ムヘキノ所爲ト謂フヘシ然ルニ其不正ノ財産ヲ相續シタルカ爲メ甲ハ今日富豪ヲ極メタリ云々トノ事實ヲ公衆ニ對シテ演說シタリト假定セヨ此演說ニ因リ直接ニ誹毀セラレタル者ハ先人ナルヘケレモ其實重モニ相

續人甲ノ名譽ヲ毀傷シタルナリ此場合ニ於テ縱令ヒ直接ニ其相續人ヲ誹毀セサルモ却テ重ニ相續人ヲ誹毀シタルニ當ルヲ以テ良ヤ刑法第三百五十九條ヲ適用スルヲ得サルモ第三百五十八條ヲ適用スルヲ得ヘシ該條ニ曰ク「惡事醜行ヲ摘發シテ人ヲ誹毀シタル者ハ云々」ト此人ヲノ文字ハ曾ニ其本人ノ惡事醜行ヲ摘發シテ其人ヲ誹毀スル者ヲ指スノミナラス其惡事醜行ハ他人ニ係ルト雖モ由テ以テ其人ヲ誹毀スルニ歸スルキハ尙ホ該條ヲ適用スルヲ得ヘキナリ然レハ則前例ノ演說者カ摘發シタル惡事醜行ハ先人ニ係ルト雖モ畢竟相續人甲ヲ誹毀スルニ歸スルニ於テハ亦該條ヲ適用スルヲ得ヘク從テ相續人ハ其犯罪ヲ原因トシ自己ノ名義ヲ以テ私訴ヲ起スヲ得ヘキナリ死者ヲ誹毀シタル者誣罔ニ出タルキハ其相續人ハ私訴ヲ爲シ得可キヤ

夫レ法律ハ道義及ヒ歴史ノ爲メニ死者ニ對シ誣罔ニ出タル誹毀ヲ罰

セサルヲ得ス然レモ法律カ此種ノ誹毀ヲ罰スルノミヲ以テ直チニ相續人ハ私訴ヲ起シ賠償ヲ請求シ得ヘシト推論スルヲ得サルヘシ去レハ前述ノ場合ニ反シ其誹毀ノ害ニシテ相續人ニ波及セサル片例ハハ死者ハ曾テ有夫ノ婦ト姦通シタルトアリト誣罔ニ出タル誹毀ヲ爲シタランニ其誹毀ハ必シモ相續人ヲ害スルモノニアラス然レハ此場合ニ於テハ相續人ハ私訴ヲ爲スヲ得サルカ如シ之ニ反シテ此種ノ誹毀ニシテ死者ヲ傷クルノミナラス相續人ヲモ併セ傷クル片ハ相續人ノ私訴シ得ルヤ亦言ヲ竣タス

又被害者ノ債主カ犯罪ニ因テ損害ヲ被ムリタル時ハ如何例ヘハ債主被害者ノ手術技藝ヲ目的トシテ金錢ヲ貸與シタルニ(俳優ノ給料ノ前貸ノ如シ)被害者ハ犯罪ニ因リ死去若クハ重傷ヲ負ヒ爲メニ其技藝ヲ演スル能ハサル片ノ如シ債主ハ負債者一身上ノ技藝ヲ擔保トシテ貸與シタル者ナレハ負債者ニシテ技藝ヲ演スル能ハサルニ至リ爲メニ

其辨濟ヲ爲スト能ハサル時ハ債主自ラ損害ヲ被ムリタルナリ故ニ債主ハ民事原告人ト爲リテ私訴ヲ起スヲ得ヘシ又動産ヲ貸與シタルニ借主竊盜ノ爲メニ之ヲ盜奪セラレタル片ノ如キハ貸主ニ於テ其贓物返還ノ請求ヲ爲シ得ヘキト亦論テ竣タス

右論述スル所ニ依テ之ヲ觀レハ第二條ノ「被害者」ノ文字ハ當ニ直接ニ害ヲ受ケタル者ノミナラス犯罪ノ爲メ苟クモ損害ヲ被ムリタル者ハ皆之ニ包含スル者ト解釋セサル可ラス

以上ノ説明ニヨリ私訴ハ何人ニ属スル乎ノ問題ハ略ホ之ヲ盡シタル然レモ尙ホ茲ニ論究スヘキ一事アリ即チ犯罪ニ因リ生シタル損害ノ賠償ハ何人ニ於テ之ヲ負擔スヘキカノ事是レナリ

凡ソ犯罪ニ因リ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ其正犯タルト從犯タルトヲ問ハス其又有意タルト無意タルトヲ論セス皆其損害ヲ賠償ス可キノ義務アルヲ以テ通則トス然レモ或種ノ人ニシテ此規則中ニ入ラサ

損害ノ賠償ハ何人ニ於テ乎

ル者アリ識別力又ハ自由力ヲ有セサル者即チ是レナリ此故ニ幼者瘋癲者其人ノ如キハ刑法上其所爲ノ責ニ任セサル者ナレハ隨テ其所爲ヨリ生スル所ノ損害賠償ノ責ニ任セサルナリ又正當防衛ヲ行ヒ以テ他人ニ損害ヲ加ヘ刑法上無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ハ亦民事原告人ニ對シテ損害ヲ賠償スルノ義務ナシトス何トナレハ正當防衛ニ依リ他人ニ害ヲ加フルハ不正ノ所爲ニ非スシテ各自ノ權利ニ從テ之ヲ行ヒタル者ナレハナリ故ニ第五條ニ被告免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ損害返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルコトナカ

ル可シトアレモ前例ノ正當防衛權ヲ行ヒタル場合ノ如キハ設ヒ民法ニ從フモ決シテ被害者ヨリ賠償ヲ請求スルヲ得サルナリ該條ノ指ス所ハ法律ニ正條ナクシテ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ノ類ナリトス而シテ前ニ示シタル通則ニ例外アリテ或ル種ノ人ニ至テハ縱令ヒ本人自カラ其責ニ任セサルモ其本人以外ノ人ニシテ其爲シタル所爲ニ因リ生

シタル損害賠償ノ責ニ任ス可キ者アリ此等ノ人ハ他人ノ所爲ヨリ生スル所ノ責ヲ自カラ擔當スル者ナレハ之ヲシテ其責ニ任セシメンニハ必ス法律ニ特定シタル者ニ限ラサルヘカラス此人ヲ稱シテ民事擔當人ト云フ幼者瘋癲者ヲ監督スル者ノ如キ其一例ナリ民事擔當人カ他人ノ所爲ヨリ生スル損害ヲ賠償スル義務アル所以ハ蓋亦自己ノ過失アルニ因ルナリ其過失ハ元來民事擔當人ノ任ニアル者カ或ル人ノ不法ニシテ且損害ヲ他人ニ生スヘキ所爲ヲ爲サ、ルコトノ注意監督ヲ怠リタルニ在リ例ヘハ幼者カ其所爲ニ依リ他人ニ損害ヲ加ヘタルハ其監督者カ爲スヘキ監督ヲ怠リタルニ因ル即チ其過失アルニ因ルナリ又被僱人ノ他人ニ損害ヲ加ヘタルハ僱主カ被僱人ヲ精撰セサルノ過失ニ因ルナリ故ニ幼者被僱人ノ他人ニ損害ヲ加ヘタレハ是レ畢竟監督者又ハ僱主ノ過失アルニ因ルナリ自己ノ過失ニ因リ他人ニ損害ヲ與ヘタル者ハ其損害ヲ償ハサルヘカラサルハ是レ法律ノ原則ナリ

而ノ民事擔當人ノ其過失ハ自己以外ノ者ニ關シテ爲ス可キ所爲ヲ爲  
 サ、ルニ在リ彼ノ正犯從犯ノ如キ他人ニ對シテ爲スヘカラサルノ所  
 爲即チ犯罪ニ因テ之ニ損害ヲ與ヘタル者ト異ナリ故ニ民事擔當人ハ  
 唯損害ヲ賠償シ贓物ヲ返還シ裁判費用ヲ擔當スルノ義務ニ止マリ通  
 常罰金又ハ科料ヲ科セラルヘキ者ニアラス尤モ法律ニ於テ其過失ノ  
 大ナリト認ムル場合アリテ明文ヲ掲ケ之ニ罰金ヲ科スルノ必要無シ  
 ト云フヘカラス

民事擔當人ニ於テ損害ヲ賠償スルノ義務アルノ前已ニ論スル所ノ如  
 シ然レモ其義務ハ連帶ナルカ非連帶ナルカ刑法第四十七條ニ曰ク「數  
 人共犯ニ係ル裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ共犯人ヲシテ之ヲ連  
 帶セシム」ト刑法草案第五十九條ニハ犯人及ヒ民事擔當人互ニ連帶シ  
 テ之ヲ償フ可シト規定セリ(同條ニ從ヘハ各犯人及ヒ民事擔當人ノ責  
 任ニ差アルニ於テハ義務ノ連帶ヲ免除シ若クハ減殺スルノ權ヲ裁判

賠償ノ義  
 務ハ連帶  
 ナルヤ非  
 連帶ナル  
 ヤ

官ニ付與セリ)今孰レカ至當ナルヤヲ論スルニ先チ連帶ノ何者タルヲ  
 一言セン例ヘハ五人共同シテ金千圓ヲ借入レタル場合ニ於テ通常ノ  
 規則ニ從ヘハ債主ハ負債者中ノ一人ニ對シテハ總高千圓ノ五分ノ一  
 即チ二百圓ツ、ヲ請求スルヲ得ルノミ然ルニ其義務者若シ連帶ノ義  
 務ナル時ハ債主ハ負債者中ノ一人ニ對シテ全額即チ千圓ヲ要求スル  
 ノ權アリ隨テ其全額ノ請求ヲ受ケタル負債者ハ二百圓ヲ辨濟シテ其  
 義務ヲ免カル、ヲ得ス是レ連帶ノ最モ著シキ効果ナリトス今三人ノ  
 共犯者中二人ハ丁年者ニシテ一人ハ幼者ナリ而シテ二人ノ丁年者ハ資  
 カナクノ損害ノ賠償ヲ爲ス能ハサル時ハ幼者ノ保管者即チ民事擔當  
 人ハ其損害ノ全部ヲ賠償スルノ義務アルヤ又ハ三分ノ一即チ幼者ノ  
 頭分額ヲ賠償スルニ止マルヤ之ヲ論決スルハ頗ル緊要ノコナルヘシ  
 凡ソ純然タル義務ノ連帶ナルモノハ契約若クハ法律ノ特定シタル場  
 合ニ於テ成立スルナリ然レモ其義務ヲ生スル原因タル所爲ノ性質ニ

因リテ義務ノ連帶ト爲ルコアリ例ヘハ二人共謀シテ金千圓ヲ竊取シタル者アリトセンニ其竊盜既遂ノ所爲ハ二人間ニ各自所爲ノ半ヲ爲シタリト云フヘキニアラス各自其所爲ノ全部ヲ爲シタル者ト云フハシ又其他ノ犯罪例ヘハ殺人罪ニ付テモ亦同シ數人ニテ人ヲ殺害シタルノ所爲ハ各々其全部ヲ爲シタルモノナリト云ハサルヘカラス殺害ノ所爲ハ數人間ニ分配シテ各自ノ爲シタル部分ヲ定ムルコヲ得ス刑法ニ於テ數人共犯ノ場合ニ在テハ或ハ犯人ノ多數ナルカ爲メ本刑ヲ加重スルコアルモ決シテ之ヲ減輕セス各自ニ對シ所爲ノ全部ヲ爲シタルカ如クニ刑ヲ科スルハ即チ其證ナリトス夫レ純然タル義務ノ連帶ハ其原由單一ナリ即チ契約若クハ法定ノ一原由アルノミ之ニ反シテ所爲ノ性質ヨリ生スル義務ノ連帶ハ其原由數箇アリ即チ連帶義務者ノ各自爲シタル所爲又語ヲ換ヘテ言ヘハ連帶義務者ノ數ニ等シキ所爲ナル數原由アルナリ

然ルニ民事擔當人ノ義務ハ所爲ノ性質ヨリ生スル連帶ノ性質ヲ帶フルモノナルヤ否ヤ其義務ニ付テハ刑法草案ニ於テハ法定ノ連帶ナリシモ現行刑法ニ於テハ共犯人云々トアリ又其他ノ法律ニ於テモ民事擔當人ノ義務ニ付キ連帶ナリトノ規定ナキ以上ハ法律上特定ノ連帶義務ニアラサルヤ亦言テ竣タス然レハ民事擔當人ノ義務ハ所爲ノ性質ヨリ生スル連帶ノ性質ヲ帶フルヤ否ヤヲ論決スルニ於テハ即チ自ツカラ前掲ノ問題云々ヲ論決スルモノナリ

夫レ管理者カ幼者瘋癲人等ノ管督ヲ怠リタルノ所爲又ハ傭主カ被傭人ノ精撰ヲ怠リタルノ所爲即チ懈怠ハ分ツヘカラサルノ所爲ナリ即チ語ヲ換ヘテ言ヘハ此等ノ懈怠ヲ爲シタルヤ又ハ之ヲ爲サルヤ二者必ス其一ニ居ラサル可ラス懈怠ノ一部ヲ爲シ他ノ一部ヲ爲サスト云フコヲ得サルナリ

然レハ數名ノ民事擔當人アル場合例ヘハ法律ニ觸ル、ノ所爲ヲ爲シ



タル瘋癲人ノ保管者數名アル場合ニ於テハ各保管者ハ保管ヲ怠リタルノ所爲全部ヲ爲シタル者トセサルヘカラス隨テ損害全部ノ賠償ヲ爲スノ義務アル者トセサルヘカラス即チ語ヲ換ヘテ言ヘハ其數名ノ民事擔當人ハ連帶シテ損害全部ノ賠償ヲ爲スノ義務ヲ負フ者ナリ然レモ被害者ハ各民事擔當人ヨリ別々ニ損害全部ノ賠償ヲ受クヘカラスサルヤ言ヲ換タサルナリ何トナレハ若シ然ルモハ被害者ハ不正ノ利得ヲ受クヘケレハナリ

連帶ノ事ニ付キ議論ノ生スルハ當ニ民事擔當人ノミナラス犯罪ノ所爲ヲ共ニシタル者ニ付テモ亦疑義ヲ生スルコト有ルヘシ例ヘハ數人ノ被告人中一人ノ所爲カ免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受クヘキ者ナルモ如キハ其免訴無罪ノ言渡ヲ受ケタル被告人ニ對シ被害者ヨリ尙ホ賠償返還ノ訴ヲ爲シ得ルコトハ第五條ニ依テ明ナリ然レモ無罪ノ言渡ヲ受ケタル以上ハ共犯人ト謂フ可ラス共犯人ト謂フ可ラサレハ則刑法第

四十七條ヲ適用シテ他ノ犯罪人ト其義務ヲ連帶セシムルコトヲ得サルニ至ラン然レモ其所爲ノ性質分ツヘカラサルコト尙ホ前述ノ如キモノナルニ於テハ縱令ヒ無罪ノ言渡ヲ受ケタル者ト雖モ因テ生シタル賠償ノ義務ニ付テハ他ノ所爲ヲ共ニシタル犯人ト連帶シテ之ヲ負ハサル可ラス然ルニ今其無罪ノ言渡ヲ受ケタル被告人ハ即チ保管ヲ受クル者ニシテ其所爲ノ責ニ任スヘキ保管者アリト假想センニ其保管者ハ犯人ト連帶シテ賠償ノ義務ヲ負フ者ニアラスト云フコトヲ得ヘキヤ若シ然リトセハ被害者ノ迷惑モ亦甚シキコトアルヘシ

余ハ義務ノ連帶ハ變則ニシテ嚴密ニ之ヲ解釋シ其範圍ヲ擴充スヘカラスルノ原則及ヒ刑法第四十七條ニ共犯人云々ノ明文アルコトハ共ニ之ヲ知レリ然レモ民事擔當人數名アル場合ニ於テ其被保管者ノ所爲ニ依テ生スル損害賠償ノ義務ハ連帶ニ之ヲ負フ者ナリト思考ス

損害賠償ニ付テハ以上論スル處ノ如シ然ルニ贓物ノ還給ニ付テハ如

贓物ノ選  
給ニ付テ  
ハ連帶ナ  
ルナ

私訴權ノ屬スル人

何是レ亦刑法第四十七條ノ法文ニ從ヘハ共犯人ヲシテ之ヲ連帶セシムトアリ然レモ是レ一應了解シ難キモノ、如シ何トナレハ三人ノ共犯者アリテ竊取シタル贓物ヲ分配シ内二人失踪シテ其所在ヲ知ル能ハサル時ノ如キ現ニ存スル一人ヲシテ贓物ノ全部ヲ返還セシメントスルモ決シテ爲シ能ハサルカ故ナリ然レモ被害者贓物ノ返還ヲ要求シテ被告人現物ヲ以テ還給スル能ハサル時ハ變シテ損害ノ賠償ト爲ルヲ以テ贓物ノ返還ニ付テモ連帶シテ義務ヲ負ハシムト云フモ亦強キ不可ナルヘキ歟

民事擔當  
人トハ如  
何

民事擔當人ハ他人ノ所爲ヨリ生スル損害ノ責任スル者ナレハ法律ニ特定セサル限リハ判事ハ如何ナル人ト雖モ之ヲ民事擔當人ト爲シ賠償ノ義務ヲ言渡スコトヲ得ス是レ明治十四年十二月第七十三號布告ニ依テ民事擔當人ト爲ルヘキ人ヲ規定シタル所以ナリ其布告ニ云ク  
(前略)民事擔當人ト稱スル者ハ左ノ如シ

- 一 未丁年者ノ父若クハ母又ハ同居ノ親屬ニシテ監督ヲ爲ス者
- 二 夫タル者
- 三 白痴瘋癲人ノ保管者
- 四 傭主 但傭人其傭主ノ命シタル事務ヲ行フ時

此布告ニ列記スル者ノ中夫ヲ除クノ外皆ナ民法財産編第三百七十二條以下及ヒ佛國民法契約篇第千三百八十四條以下ニ記載スル所ナリ此等ノ人ハ幼者瘋癲人等ヲ保管監督スルノ責任アルヲ以テ幼者瘋癲人等ノ犯罪アル時ハ即チ民事擔當人トシテ其責任ス可キ者トス而シテ夫カ其婦ノ所爲ニ關シ民事擔當人トナルコトハ民法ニ見サル所ナリ又其理由ニ至ルテモ甚タ明瞭ナラス蓋シ我國ノ慣習ニ於テ財産ヲ有スル者ハ重モニ夫ニシテ婦ハ財産ヲ有セサルヲ以テ財産ヲ有セサル婦ヲシテ損害賠償ノ責任ニ任セシムルノ効力ナキニ因ルモノナラシ乎若シ此理由ニ因ル時ハ當今ニ在テハ夫ト定メスシテ戶主ト書スル

私訴權ノ屬スル人

ノ優レルニ如カサルヘシ何トナレハ重モニ財産ヲ有スル者ハ戸主ニシテ其他ノ家族ハ財産ヲ有セサル者多ケレハナリ且ツ財産ヲ有スルノ故ヲ以テ一毫ノ過失ナキ人ナシテ民事擔當人ト爲ラシムルカ如キハ甚タ道理ニ適セサル所ナリ將タ夫婦ハ互ニ相警戒スルノ義務アル者ナルニ婦ノ犯罪ヲ爲シタルハ夫之カ警戒ヲ怠リタルニ因ルヲ以テ之カ爲メ民事擔當人ト爲ラシムルモノ乎然レモ此理由ニ基クハ夫ノ罪ヲ犯シタルハ其婦ヲシテ亦民事擔當人ト爲ラシメサル可ラス然レモ法律ニ於テ更ニ此規定アルナシ然ラハ則夫ハ其婦ヲ監督スルノ任アルカ故ナリト爲サン乎此理由モ亦不可ナリ何トナレハ人ノ婦タル者ハ既ニ自由力ト識別力トヲ有スルヲ以テ幼者ト同一視ス可キニアラス故ニ夫ヲシテ其婦ノ行爲ヲ監督スルノ任ヲ負ハシムヘキニアラス然レモ余民法ニ於テ婦ノ權利往々夫權ノ爲メニ抑制セラル、ヲ見ル今夫ハ婦ノ所爲ニ付キ自カラ其責ニ任スヘキノ規定アリ夫レ

重大ナル權利アル者ハ又概シテ重大ナル義務ナカル可ラスト爲スニアル歟

私訴ノ目的ハ損害ノ賠償贓物ノ返還ニ在ルヲ以テ縱令ヒ正犯從犯若クハ民事擔當人ノ死去スル時ト雖モ其相續人ニ對シ之ヲ行フヲ得可シ是レ刑法附則第六十二條ニ記載スル所ナリ該條ニハ唯本犯トノミ記スルモ民事擔當人ニ付テモ亦然リトスヘシ何トナレハ凡ソ義務ハ義務者ノ生存中一旦生シタル以上ハ設ヒ義務者死去スル權利ト共ニ其相續人ニ移轉スルモノナレハナリ

### 私訴ノ管轄

公訴ト私訴トハ各自ニ獨立ノ者ナレハ損害賠償ノ訴(私訴)ハ之ヲ民事裁判所ニ爲ス可ク刑事ノ訴(公訴)ハ之ヲ刑事裁判所ニ爲ス可キ素ト是レ裁判所組織上ノ原則ナリト雖モ本法第四條ニ於テハ當事者ノ便宜ヲ計リ私訴(賠償ノ訴)ハ公訴ニ附帶シテ之ヲ刑事裁判所ニ爲ス可ク

得ルモノトセリ

第四條 私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラヌ公訴ニ付キ第二審ノ判決  
アルマテ何時ニテモ其公訴ニ附帶シテ之ヲ爲スヲ得

第三者ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒ公訴附帶ノ私訴ニ參加スルコト  
ヲ得

公訴私訴ハ各々獨立スルト雖モ其間自ツカラ密着ノ關係アルヲ以テ  
之ヲ同一ノ裁判所ニ於テ審判スル時ハ當ニ社會ノ便利ナルノミナラ  
ス又被告人民事原告人等ノ便利トモ爲ルヲ以テ法律ハ斷然此規定ヲ  
採レリ然レモ民事裁判所ニ於テ公訴ヲ裁判スルヲ得ス公私兩訴ヲ裁  
判スルヲ得ルハ唯刑事裁判所アルノミ

刑事裁判所ニ於テ公訴私訴ヲ裁判スルノ便利ハ左ノ如シ

第一 證據ヲ蒐集スルノ便利アリ凡ソ檢事ハ其犯罪ヲ證明スル爲メ  
ニ證據ヲ蒐集ス可ク裁判所モ亦職權ヲ以テ證據ヲ蒐集ス可シ此刑ヲ

刑事裁判所ニ於テ  
公私兩訴ヲ  
裁判スルノ  
便利アリ

適用スル爲メニ蒐集シタル所ノ種々ノ證據ハ民事原告人假テ以テ其  
請求ヲ證明スルノ援助ト爲スヲ得ヘク而シテ民事原告人モ亦己レノ權  
利ヲ證明スル爲メニ諸多ノ證據ヲ蒐集スヘキヲ以テ檢事ハ據テ以テ  
其請求ヲ充足スルノ便利アリ然ルモハ判事ハ此等ノ證據ニ依テ益々其  
心證ヲ固クシ公私兩訴ニ付キ正確ナル裁判ヲ爲スヲ得可キナリ

第二 時日ヲ費ス少ナク且費用ヲ減スルノ便利アリ

第三 被告人ノ辯護民事原告人ノ陳述ノ重複ヲ省ク便利アリ若シ之  
ヲ二箇ノ裁判所ニ於テスルモハ被告人ハ刑事裁判所ニ於テ公訴ノ辯  
護ヲ爲シ又民事裁判所ニ於テ私訴ノ辯護ヲ爲サ、ルヘカラス民事原  
告人モ亦民事裁判所ニ於テ損害賠償ヲ要求シ又公訴事件ノ證人トシ  
テ往々刑事裁判所ニ喚出サル、ノ勞アルヘシ

公私兩訴ヲ同一ノ裁判所ニ於テ審判スルハ以上ノ便利アリト雖モ一  
方ヨリ觀察スルモハ被告人ノ爲メニハ頗ル艱苦ヲ感スルコトアルヘシ

私訴ヲ刑  
事裁判所

蓋檢察ハ被告人ノ爲メニ最モ畏ルヘキ敵手ナルニ又民事原告人出テ  
 被告人ノ前面ニ衝リ其爲シタル所爲ヲ原由トシテ共ニ被告人ニ對  
 シ要求ヲナスルハ彼レ被告人ハ一人ニテ左右ノ強敵ニ當ルヲ以テ自  
 已ヲ辯護スルコト極メテ困難ナルヘキナリ千八百七十八年白耳義國治  
 罪法第一篇ヲ揭ケタル法律ニ關スル討議中此事ニ付キ議論ヲ生シ民  
 事原告人刑事裁判所ニ出テ、要求ヲ爲スルハ被告人ヲシテ其辯護ニ苦  
 シマシムヘク且ツ私訴事件錯雜シテ久キニ彌ルノ審査ヲ要スル時ニ  
 於テ刑事裁判所ヲシテ之ヲ審査セシムルハ事ノ宜キヲ得サルニ付キ  
 該裁判所ハ若シ私訴事件彌久ノ審査ヲ要スルモノト認ムルハ之ヲ  
 民事裁判所ニ送致スルヲ得ヘシトノ法案ヲ提出スル者アリタリ然レ  
 凡佛國白國等ノ經驗ニ依レハ此法案ニ從ハサルモ敢テ著シキ弊害ナ  
 シトノ議論アリテ終ニ廢案ト爲レリ  
 又第四條ニハ金額ノ多寡ニ拘ハラヌ云々ト記セリ

刑於テ裁  
判スルハ  
金額ニ關  
スル管轄  
上ニ變則  
ヲ爲ス

凡ソ民事ノ裁判管轄ニ付テハ金額ニ關シテ其區別アリ裁判所構成法  
 第十四條ニ依レハ區裁判所ハ請求ノ金額百圓未滿ノ訴訟ニ付キ裁判  
 權ヲ有スルモ金額ヲ超過スル訴訟事件ニ付テハ地方裁判所ニ非サレ  
 ハ裁判權ヲ有セサルナリ

私於テ刑  
事裁判所  
ニ於テ裁  
判スルハ  
土地ニ關  
スル管轄  
上ニ變則  
ヲ爲ス

此ノ如ク民事裁判所ハ金額ノ多寡ニ從ヒ其權限ヲ異ニスルヲ以テ今  
 公訴ニ附帶シテ私訴ヲ刑事裁判所ニ爲ス場合モ亦宜シク此區別ニ從  
 フ可キニ似タリ然レ凡第四條ニハ金額ノ多寡ニ拘ハラヌト記スルヲ  
 以テ公訴ニ附帶シテ爲ス訴訟ニ縱令ヒ請求ノ金額百圓未滿ノ事件ト  
 雖凡或ハ地方裁判所ニ爲スコトヲ得ヘク又縱令請求ノ金額百圓以上ノ  
 事件ト雖凡或ハ之ヲ區裁判所ニ爲スコトヲ得可キナリ  
 夫レ私訴ハ既ニ金額ノ多寡ニ拘ハラサル點ニ於テ裁判管轄上ノ變則  
 アリシカ又土地ニ付テモ管轄上ノ變則アリ此事ハ第四條ニ明示セス  
 ト雖凡暗ニ其變則ヲ示ス者ト謂フ可シ元來民事ノ訴訟ニ付テハ被告

人住所所在ノ地ノ裁判所ヲ以テ其管轄ト爲セ凡公訴ニ附帶シテ私訴ヲ起ス場合ニハ被告人住所ノ地ノ如何ヲ問ハス一ニ刑事裁判所ノ管轄規則ニ循ヒ公訴ノ起リタル刑事裁判所ニ訴フルヲ得ルカ故ニ從テ通常民事裁判所ノ管轄トハ異ナルニ至ルヘキナリ刑事裁判所ノ管轄ハ第二十六條以下ニ規定シタルハ後ニ解説スル所アルヘシ私訴ハ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得ルノミ故ニ公訴ノ未タ起ラサル前ニ在テハ之ヲ刑事裁判所ニ起スヲ得ス又公訴ニ附帶シテ爲ス私訴ハ公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテニ非サレハ之ヲ爲スヲ得サルモノトセリ所謂第二審トハ裁判所構成法第二十六條地方裁判所ノ管轄ヲ定ムルニ付キ云ヘルモノニシテ覆審ノ公判判決即チ控訴ノ判決ヲ指スモノナリ蓋公訴ニ付キ第二審ノ判決アルマテニ非サレハ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ爲スヲ能ハサルハ固ヨリ當然ナリ抑第二審ノ判決ハ事實審査ヲ爲ス可キ最後ノ裁判ナルカ故ニ既ニ此

判決アリタル上ハ私訴ニ付キ復タ事實ノ審査ヲ爲ス可キ機會ナケレハ設ヒ公訴事件ニ付キ仍ホ上告中ナリトスルモ私訴ヲシテ之ニ附帶セシムルニ由ナケレハナリ

舊治罪法第四條ニハ「法律ニ於テ其裁判所ニ私訴ヲ爲スヲ許サ、ル場合ハ此限ニアラスト」ノ文詞アリタルモ本法ニハ之ヲ削除シタリ然レハ願フニ其精神ヲモ斥除シタルニ非サル可シ例ヘハ陸海軍律ノ犯罪ニ係ル被害者ノ如キ今日ト雖凡私訴ヲ陸海軍ノ法衙即チ軍法會議ニ起スヲ得ス必ス通常民事ノ裁判所ニ訴ヘサル可ラサルモノアレハナリ但贓物ノ返還ニ付テハ軍法會議ニ訴求スルヲ得可キモノトス又舊治罪法第四條ニハ「私訴ハ別ニ民事裁判所ニ之ヲ爲スヲ得」ノ文詞アリ本法ニハ之ヲ存セサリシカ故ニ或ハ別ニ民事裁判所ニ訴求スルヲ得サルカノ疑ナキヲ保セス然レハ私訴ヲ民事裁判所ニ爲スハ元來常則ナルカ故ニ今茲ニ之ヲ明記スルハ寧ロ蛇足ナリトシテ削除シ

タルモノナラント思惟スルナリ  
私訴ノ目的ハ第二條ニ於テ損害ノ賠償ト贓物ノ返還トナルコトヲ示セ  
リ故ニ身分ヲ定ムル訴ノ如キハ此中ニ入ラサル可ク又入ルヘキモノ  
ニアラス此訴ハ特別ニ起ルコトハ希レナレモ犯罪ノ成立如何ヲ定ムル  
ニ付テ起ルコトアリ例ヘハ重婚罪ニ關スル公訴ニ付テハ豫メ前婚ノ成  
立如何ヲ審査セサル可ラス是レ豫決スヘキ事件ニシテ而カモ民事ノ  
訴訟ナリ然レモ損害ノ賠償贓物ノ返還ニ非サルヲ以テ之ヲ私訴ト謂  
フ可ラス故ニ通常民事裁判所ニ於テ審査ス可キ事件ナリトス但豫決  
スヘキ事件ナリト雖モ刑事裁判所ニ於テ豫メ豫決スルヲ得ヘキモノ  
アリ例ヘハ動産ノ所有權ニ付キ豫メ豫決セサレハ犯罪ノ成立如何ヲ  
議決スルコト能ハサルキノ如キ公訴ヲ受理シタル刑事裁判所ハ自カラ  
之ヲ豫決スルノ權アルナリ

舊治罪法第六條ニハ「刑事裁判所又ハ刑事裁判所ト民事裁判所トニ於

テ公訴私訴並起ルキハ公訴ノ裁判ニ先チテ私訴ノ裁判ヲ爲スヘカラ  
ス若シ賠償返還ノ言渡アリタル後刑ノ言渡アリタルキハ共ニ其効ナ  
カルヘシトノ規定アリタレモ本法ニハ之ヲ削除セリ余願フニ此削除ハ  
甚タ至當ナルカ如シ蓋舊法ニ於テ公訴ニ先チ私訴ノ裁判ヲ爲スコトヲ  
禁シタリト雖モ其理由果シテ那邊ニ在ルカ甚タタ分明ナラサリシ或  
ハ公訴ヲ發生セシメタル所ノ犯罪ハ本ナリ私訴ヲ發生セシメタル所  
ノ損害ハ末ナリ其本ニ係ル公訴ノ判決ヲ先ニシ其末ニ係ル私訴ノ判  
決ヲ後ニスルハ即チ事ノ順序ナリ法律ハ此本末ノ順序ヲ正フスル爲  
メニ斯ク規定シタル者ナリト云フ者アリタリト雖モ若シ此理由ニ依  
ル時ハ假令ヒ私訴ノ判決アリ其後ニ公訴ノ判決アリテ私訴ノ判決ハ  
賠償返還ノ言渡ヲ爲スコトナク公訴ノ判決ノミ刑ノ言渡ヲ爲シタル時  
ト雖モ亦共ニ無効ト爲サル可ラス何トナレハ此時ト雖モ亦事ノ順  
序ヲ顛倒シタルモノナレハナリ然ルニ舊法ハ唯賠償返還ノ言渡アリ

タル後ニ刑ノ言渡アル時ノミ共ニ無効ト爲セルカ故ニ審ニ事ノ順序ヲ正フスルカ爲メニアラサリシコト明カナリ

又或ハ民事ノ判決刑事ノ判決ニ影響ヲ及ホスノ恐レアリ且前ニ言渡アリタル民事ノ判決ト後ニ言渡アルヘキ刑事ノ判決ト互ニ牴觸ヲ生スルノ思ヲ防クニ在リト説ク者アリ而シテ其理由ハ今私訴ノ判決ヲ以テ賠償返還ノ言渡ヲ爲シタル時即チ民事原告人ニ對シテ犯罪ニ因リ被リタル損害要償ノ權アルコトヲ言渡シタルキハ其判決ハ刑事裁判官ノ心意ニ幾分ノ影響ヲ及ホシ爲メニ無辜ノ被告人ヲ有罪視セシメ刑ニ處セシムルノ恐レアリ又例ヘハ私訴ノ判決ヲ以テ被告人ノ所爲ハ原告人ニ損害ヲ生セシメタルモ故意ニ出テタルモノニ非スト認メリ要求ノ賠償額ヲ減少スルコトアラザラズ然ルニ其後公訴ノ判決ニ於テハ被告人ノ所爲ヲ以テ故意ニ出テタルモノナリト認メ相當ノ刑ヲ科スル時ハ同シク社會ノ官吏タル裁判官ニシテ彼此相牴觸スル判決ヲ爲シ

タルノ嫌アリト云フニ在ルカ如シ

然リト雖モ右叙陳セル理由ノ如キハ要スルニ裁判所ヲ輕ンセル鑿説ニ過クルノ感想ヲ免レズ然レモ今假リニ彼ノ公訴私訴ノ刑事裁判所ト民事裁判所トニ并起シタル場合ニ於テ多少其憂ナキニアラストスルモ今一ノ刑事裁判所ニ公訴私訴ノ并起シタル場合ニ於テハ前ニ言渡アリタル民事ノ判決ト後ニ言渡アルヘキ刑事ノ判決ト相牴觸シ又ハ第一ノ判決ニシテ第二ノ判決ニ影響ヲ及ホスカ如キノ恐レナキコト明ナリ何トナレハ刑事裁判所ヘ公訴ニ附帶シテ私訴ヲ起シタル時ハ公訴私訴共ニ同一ノ判事之カ審理ヲ爲スヘキニ付キ前述ノ牴觸及ヒ影響ノ生スルコト無ケレハナリ故ニ公私ノ兩訴刑事裁判所ニ并起シタル時私訴ノ審査ニシテ速ニ終結スル時ハ之ヲ先ニ言渡スハ論者ノ所謂事ノ順序本末ニ循フヨリモ寧ロ大ニ原被雙方ノ利益ト爲ルヘシ蓋賠償ノ如キハ日子ノ遷延スルニ從ヒ金額ノ増加スルモノナレハ雙方



ノ權利義務ヲ徒ニ未定ニ置ンヨリハ寧ロ一日モ速ニ之ヲ確然ナラシムルニ若カス本法ニ於テ舊法ノ謂レナキ制限ヲ削除シタルハ余ノ甚タ喜フ所ナリ

又舊治罪法第七條ニハ民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタルハ檢察官ノ起訴アルニ非サレハ願下ヲ爲シ更ニ刑事裁判所ニ其訴ヲ爲スヲ得ス刑事裁判所ニ私訴ヲ爲シタルハ被告ノ承諾ヲ得ス願下ヲ爲シ更ニ民事裁判所ニ損害ヲ賠償ヲ得ト規定アリタリ此規定ハ要スルニ民事原告人ノ擅横ヲ豫防セントスルニ外ナラス例ヘハ民事原告人先キニ損害賠償ノ訴ヲ民事裁判所ニ起シタルハ該裁判所ハ自己ニ不利ナル裁判ヲ爲スヘキヲ端倪シ爲メニ前ノ訴訟ヲ願下ケ更ニ刑事裁判所ヘ私訴ノ申立ヲ爲ス如キヲアリトセハ被告人ノ迷惑甚タ多シト云フ可シ何者甲裁判所ノ審査ヲ受ケ又乙裁判所ノ審査ヲ受クルノ煩累アレハナリ然リ而シテ今本法ニ同上ノ規定ヲ除外シタルハ復タ謂レ

ナキニアラス蓋舊治罪法ニ於テハ其第一百十條ニ被害者告訴ト共ニ民事原告人タルノ申立ヲ豫審判事ニ爲スルハ檢事ノ起訴ナシト雖モ公訴私訴ト共ニ起リタルモノト爲スノ規定アリタレモ本法ニハ其等ノ規定ナク如何ナル場合ト雖モ檢事ニ非サレハ公訴ヲ起スヲ克ハサルカ故ニ檢察官ノ起訴アルニ非サレハ云々ノ制限ヲ爲ス必要ナク又私訴ハ其性質原來民事ナルカ故ニ之ヲ民事裁判所ニ提起スルトテ法律ニ於テ敢テ掣肘ス可キ理ナシト爲シタルニ在ルナラン歟  
以上記述スル所ト少シク論題ヲ異ニスルカ如シト雖モ齊シク損害賠償ノ一ニ關スルヲ以テ爰ニ第五條ヲ釋義ス可シ

第五條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ民法ニ從ヒ被害者ヨリ賠償返還ヲ要ムル妨礙ト爲ルヲナカル可シ  
本條ハ被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ被害者ハ民法ニ從ヒ損害賠償贓物返還ヲ請求シ得ルヲ定ム免訴ニ二種アリ豫審ノ

決定ニ係ル免訴及ヒ公判ノ判決ニ係ル免訴是レナリ  
豫審判事カ免訴ノ決定ヲ爲スヘキ場合ハ第六十五條ニ列舉セリ而  
ノ豫審判事ハ決シテ無罪判決ヲ爲スコトナシ

公判ニ於テ免訴ノ判決ヲ爲スヘキ場合ハ第二百二十四條第二百三十  
六條等ヲ參照シテ而シテ第六十五條第三號以下ノ場合タルコトヲ知ル  
ヘシ故ニ其第一號第二號ノ場合即チ犯罪ノ證據十分ナラサル時被告  
事件罪ト爲ラサル時ノ如キハ公判ニ於テハ必ス無罪ノ判決ヲ爲スヘ  
キ場合ナリトス

以上ノ場合ニ於テ被告人無罪若クハ免訴ノ判決ヲ受クルト雖モ被害  
者ヨリ賠償ヲ請求スルノ障礙ト爲ラサルヲ原則トス故ニ無罪若クハ  
免訴ノ判決アリタル後被害者初メテ民事裁判所ニ賠償又ハ返還ヲ請  
求シ得ヘキハ勿論刑事裁判所ニ公私ノ兩訴并起リ其公判ニテ無罪若  
クハ免訴ノ判決ヲ爲シタル時ト雖モ刑事裁判所ハ尙ホ私訴ニ付キ判

被告人無罪ノ免訴ノ判決ヲ受クルモ被害者ヨリ賠償ヲ請求スルノ障礙トナラス

決ヲ爲スヲ得ヘシ或ハ此說ヲ難シテ曰ハシ元來刑事裁判所ニ於テ私  
訴判決ヲ爲スヲ得ル所以私訴ノ公訴ニ附帶スルヲ以テナリ然ルニ  
刑事裁判所ニ於テ無罪若クハ免訴ノ判決ヲ爲シタルハ既ニ公訴ニ  
付テノ判決アリタルヲ以テ刑事裁判所ハ最早私訴ヲ判決スルヲ得サ  
ルヘシト然レモ公判通則ニ係ル第二百條ニ於テ私訴ニ付キ取調未タ  
十分ナラサルハ公訴ノ判決アリタル後其判決ヲ爲スヲ得トアリ  
又刑ノ言渡ヲ爲ス場合及ヒ無罪若クハ免訴ノ言渡ヲ爲ス場合ヲ受ケ  
タル第二百二十五條ニ於テ前二條ノ場合ニ於テハ私訴ニ附キ其請求  
價額ノ多寡ニ拘ハラス判決ヲ爲ス可シトアルニ依テ之ヲ觀レハ設ヒ  
免訴若クハ無罪ノ判決ヲ爲シタルハ雖モ其後尙ホ私訴ニ付キ裁判  
ヲ爲スノ權アリト決セサル可ラス何トナレハ若シ然ラストスルハ  
更ニ民事裁判所ニ起訴ヲ爲サルヘカラスシテ是レ實ニ簡便急速ノ  
趣旨ニ反シ隨テ時日ト費用トヲ空費セシムルノ結果ニ至ルヘキノミ

ナラス明カニ法文ニ抵觸スルノ不都合アレハナリ  
又爰ニ一言スヘキハ設ヒ公判ノ判決ニ依リ無罪ノ言渡ヲ爲スルト雖

凡例ヘハ公訴事件ハ成存スルモ現ニ被告人ト爲リタル者ハ犯罪者ニ  
アラス即チ被告人ハ人違ナリシトテ無罪ノ判決ヲ言渡スルハ刑事裁  
判所ハ其被告人ニ對シ私訴ノ判決以テ賠償若クハ返還ヲ言渡スヘカ  
ラサルヤ明カナリ又豫審ニ於テ免訴ノ決定ヲ爲スルハ同時ニ私訴ノ  
判決ヲ爲スヘカラサルナリ何トナレハ豫審ニ於テハ總テ本案ニ付テ  
ノ判決ヲ爲スモノニ非サレハナリ此等ノ場合其他公判ニ於テ時効確  
定判決等ヲ原由トシ免訴ノ判決ヲ言渡シタル場合ニ於テハ尙ホ民事  
裁判所ニ賠償ヲ認求スルコトヲ得ルヤ否ヤ  
此問題ハ確定判決ノ事ヲ講究シタル後自ツカラ其論決ヲ示ス所アル  
ヘシ

又前段ニ論究セル所トハ全ク其趣ヲ異ニスルト雖凡同シク損害賠償

ノ訴權ニ關スル規定ナルヲ以テ余ハ爰ニ第十三條及ヒ第十四條ノ規  
定ヲ釋義ス可シ

第十三條 被告人免訴又ハ無罪ノ言渡ヲ受ケタル場合ニ於テハ訴  
訟ノ原由告訴人告發人又ハ民事原告人ノ惡意若クハ重過失ニ出テ  
タルトキハ是等ノ者ニ對シ損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得  
被告人刑ノ言渡ヲ受ケタリト雖凡告訴人告發人又ハ民事原告人ヨ  
リ惡意若クハ重過失ニ因リテ犯罪ニ付キ過實ノ申立ヲ爲シタルト  
キモ亦同シ  
民事原告人上訴ヲ爲シ敗訴シタルトキハ被告人其上訴ニ因リ生シ  
タル損害ノ償ヲ要ムルコトヲ得  
要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコ  
トヲ得

被告人ヨ  
リ告訴告

此規則ハ被告人ヨリ告訴人告發人民事原告人等ニ對シテ損害ノ賠償

ヲ要求スル場合ニシテ前段講説シタル民事原告人ヨリ被告人ニ對シ  
 要求スル場合トハ主客ノ地位ヲ異ニセリ凡ソ他人ニ損害ヲ加ヘタル  
 者ハ必ス賠償ノ責ニ任ス可キハ民法上ノ原則ナルヲ以テ特ニ之ヲ本  
 法ニ規スルニ及ハサルカ如シ然リ而シテ茲ニ此規定アル所以ハ重モニ  
 被告人ヨリ告訴人等ニ對スル要償ハ直チニ刑事裁判所へ訴求スル  
 ヲ得ルヲ示スカ爲ナリ若シ此規定ナキニ於テハ被告人ハ通常民事ノ  
 規則ニ從ヒ民事裁判所へ訴求スルヲ得ヘキノミナレハナリ  
 今如何ナル場合ニ於テ被告人ハ此等ノ訴權ヲ有スルヤヲ釋スルニ被  
 告人免訴無罪ノ判決ヲ受ケタル場合ニ於テ其訴訟ノ原由告訴人若ク  
 ハ告發人等ノ惡意若クハ重キ過失ニ出テタル時ノ如キ是ナリ此等ノ  
 場合ハ全ク告訴人若クハ告發人ノ不正ナル所爲ノ爲メ被告人ニ損害  
 ヲ加ヘタル者ナレハ即チ被告人ニ要償ノ訴權アルヤ必然タリ  
 又縱令ヒ有罪ニシテ刑ノ言渡ヲ受ケタルモ告訴人告發人等ノ過實ノ

申立ヲ爲シタルカ爲メ其拘留日子ノ久シキニ彌リタル時等ニ於テモ  
 亦損害ノ賠償ヲ求ムルヲ得ルナリ  
 又民事原告人ニ不利ノ判決アリシ時例へハ被告人ハ無罪ニシテ賠償  
 ノ義務ナシト判決サレタル場合豫審ニテハ私訴ノ判決ヲ爲スナシ  
 而シテ免訴ノ決定ヲ爲シタル時ハ私訴ヲ却下セサル可ラスニ於テ民事  
 原告人尙ホ自己ニ權利アルヲ固執シ上訴ヲ爲シ終ニ敗訴シタル時  
 ハ上訴ニ因リ損害ヲ被ムリタル被告人ハ亦賠償ヲ求ムルヲ得可シ  
 但民事原告人ニ惡意又ハ重キ過失アルヲ要スルハ勿論ナリ第十三條  
 末項ニ民事原告人云々トアリテ告訴人告發人云々ト云ハサル所以ハ  
 元來告訴人告發人ハ訴訟關係人ニ非サルヲ以テ上訴スルヲナキカ故  
 ナリ  
 公判ノ判決ニ對シ民事原告人ヨリ上訴シタル時被告人ニ於テ此第十  
 三條ノ規定ニ從ヒ民事原告人ニ對シ要償ノ訴ヲ爲サントスルニハ其

上訴ヲ受理シタル刑事裁判所ニ之ヲ起ス可キナリ例ヘハ地方裁判所ニ於テ私訴ノ原因ナシト判決シタルルノ如キ民事原告人控訴院ヘ控訴セサルヲ得ス此場合ニ於テ被告人カ損害賠償ヲ請求スル裁判所モ亦同一ノ控訴院ナリトス

但此刑事裁判所ニ提出スル要償ノ訴ハ本案ノ判決アルマテ何時ニテモ其裁判所ニ之ヲ爲スコヲ得然レモ既ニ本案ノ判決アリタル以後ハ通常ノ規則ニ從ヒ民事裁判所ニ之ヲ爲サル可ラス又此ニ注意スヘキハ第十三條末項ノ場合ニ於テハ上訴ヲ受理シタル裁判所即チ一階上等ノ裁判所ハ此要償ノ訴ニ付キ併セテ第一審第二審ノ判決ヲ爲スノ結果ニ至ルヘキナリ何トナレハ此上等ノ裁判所ニ於テ言渡スヘキ判決ハ元來終審ノ判決ナリト雖モ此場合ニ於テハ要償ノ訴ハ始メテ其裁判所ニ提起セラレタルモノナレハナリ

又被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタル時ニ判事檢事司法警察官吏等ニ對シ

被告人ハ判事檢事

等ニ對シ損害賠償ノ訴權ヲ有スルヤ否

損害要償ノ訴權ヲ有スル乎否ヤ是レ第十四條ノ規定セル所ナリ

第十四條 被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタリト雖モ判事檢事裁判所書記執達吏司法警察官又ハ巡查憲兵卒ニ對シ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス但是等ノ官吏被告人ニ對シ故意ヲ以テ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル場合ハ此限ニ在ラス

被告人無罪ノ言渡ヲ受ケタル時ハ司法警察官檢事判事等ハ元來捜査起訴審理等ヲ爲スコラサルニ之ヲ爲シタル者ナリト看做スヲ得可シ而シテ其被告人ノ損害ト爲ルコトニ至テハ或ハ不當ノ告訴若クハ告發ノアリシ時ト異ナラサルコトアルヘシ然レモ若シ被告人ニシテ此等ノ官吏ニ對シ損害ヲ請求スルヲ得ル者ト爲ス時ハ此等ノ官吏ハ其職務ヲ斷行スルコトヲ果サル等ノ思ナキヲ保スヘカラス且此等ノ官吏ハ其職務トシテ之ヲ爲シタル者ニシテ自己ノ擅恣ニ出テタルニ非サルヨリハ各國共ニ賠償ノ義務ナキ者トセリ然リト雖モ單ニ正理ニ依テ之

ヲ論スル時ハ良シヤ判事検事等ハ之レカ賠償ノ義務ナシトスルモ社會ニ於テハ此義務アリト云フヲ得可シ然レモ是レ決シテ實際ニ行ハル可キコトニ非スシテ古來何レノ開明國ト雖モ未タ此ノ如キ規定アルコトヲ聞カス但此等ノ官吏其權限ヲ越エ又ハ故意ヲ以テ被告人ニ損害ヲ加ヘ又ハ刑法ニ定メタル罪ヲ犯シタル時ハ固ヨリ此限ニアラサルナリ(刑法第二百七十八條第二百八十二條第二百八十六條第二百八十七條等參觀)

私訴ノ消滅

私訴權消滅ノ三原由

私訴ノ消滅ノ原由ハ第七條ニ之ヲ列舉セリ

第七條

私訴ヲ爲ス權ハ左ノ事項ニ因テ消滅ス

- 第一 拋棄又ハ和解
- 第二 確定判決
- 第三 時効

今第一ノ原由ハ暫ク措キ先ツ第二確定判決ノコトヲ講セントス余ハ曩キニ公訴ノ消滅ヲ論スルニ當リ確定判決時効ハ公私兩訴ノ消滅ヲ來タス者ナレハ私訴消滅ノ際ニ併セテ之ヲ論ス可シト約シタリシカ今乃チ此約ヲ踐行スルノ機會ニ達セリ

抑確定判決ノ効力ハ當ニ公訴權ヲ消滅セシムルノミニアラスシテ尙ホ數多ノ効果ヲ生スルモノトス即チ左ノ如シ

- 第一 判決確定ノ後ニ非サレハ刑ヲ執行スルヲ得ス(第三百十七條但此事ニ付テハ刑法講義ニ於テ示シタルカ如ク死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令アルマテ之ヲ爲スコトヲ得ス又懷胎ノ婦女ニ係ル死刑ノ執行ニ付テハ徒ニ判決ノ確定シタルノミヲ以テ直チニ之ヲ爲スコトヲ得ス刑法第十五條ノ規定ニ循據セサルヲ得サルナリ
- 第二 初犯ノ判決確定ノ後ニ非サレハ再犯ノ刑ニ加重ノ例ヲ用ユルコトヲ得ス(刑法第九十四條)

確定判決ノ種々ノ効果

第三 判決確定ノ後ニ非サレハ再審ノ訴ヲ爲スヲ得ス(第三百一條)  
 右講述シタル刑ヲ執行スルヲ再犯トシテ本刑ヲ加重スルヲ又ハ再審  
 ノ訴ヲ爲スヲ得ルヲ等ハコレ皆確定判決ノ効果ニ非サルハナシ而シ  
 今爰ニ釋義セントスル公訴權私訴權ノ消滅モ亦確定判決ノ効果ノ一  
 ナリ然レモ此効果ハ種々アリテ本法及ヒ刑法ニ明示セサル問題モ又  
 之アル可キヲ以テ併セテ此ニ說明セント又之ヲ説明スルニハ先ツ公  
 訴私訴ニ付キ確定判決ノ効力ヲ併論シ次ニ公訴ノ確定判決ハ如何ナ  
 ル影響ヲ及ボス乎ノ問題ニ論及ス可シ

公訴權私  
 訴權ハ確  
 定判決ニ  
 由テ消滅  
 スル理由

抑判決確定スル時公訴權私訴權ノ消滅スルハ何等ノ理由ニ基ク乎  
 凡ソ人ノ過失アルハ人世ニ免カル可ラサル不幸ナレハ判事ト雖モ或  
 ハ裁判上ノ失誤ナキ能ハサルナリ故ニ法律ハ數等ノ裁判所ヲ設ケ其  
 階級ヲ分テ以テ被告人ニ上訴ノ權ヲ與ヘ又之ニ付スルニ相當ノ期限  
 ヲ以テシ被告人ヲシテ其判決ニ對シ順次上等ノ裁判所ニ上訴スルヲ

得セシメ以テ判決ノ失誤ヲ矯正シ冤枉ノ弊害ヲ匡救スルヲ期セリ  
 然ルニ被告人ニシテ此上訴ノ道アルニ拘ラス期限内ニ上訴ヲ爲サス  
 或ハ上訴ヲ爲シテ其判決アリタル時ハ之ヲ以テ事實ニ反セス法律ニ  
 適シタル者ト推測シ確定動カス可ラサル者ト爲サ、ル可ラス苟クモ  
 然ラスンハ今日勝訴シテ心ニ安ンスル所アルモ明日又同一ノ裁判所  
 ニ訴ヘラレテ敗訴シ翌々日ニ至テ又之ヲ訴フルカ如キアラハ一勝一  
 敗其底止スル所ヲ知ラス此ノ如クンハ則チ人民何ニ由テ以テ安堵シ  
 社會何ニ由テ以テ安寧ナラン此ノ推測タル此ノ如ク公ケノ秩序ニ關  
 スル者ナレハ縱令ヒ其實判決ハ如何ニ事實ニ反シ法理ニ戾ルト雖モ  
 反證ヲ舉テ右ノ推測ヲ動カス能ハサルナリ  
 確定判決不可動ノ原則ハ民法證據編第七十六條及ヒ第七十八條ニ記  
 スルカ如ク民事ニ於テハ總テノ場合ニ適用スルヲ得可ク又刑事ニ於  
 テモ被告人若シ同一事件ニ付キ再ヒ訴ヲ受ケタル片ハ第一審ハ勿論

確定判決  
ヲ動シ得  
可キ例  
ノ場合  
外

縦令ヒ第二審又ハ上告審査中ニ於テモ此事件ニ付テハ既ニ確定判決  
アリシトテ申立テ以テ其訴ヲ却下セシムルヲ得ルナリ而シテ凡ソ抗辨  
ノ方法ハ場合ニヨリ第一審ニ於テ申立ツルニ非サレハ能ハサルモノ  
アリ然レモ確定判決ノ申立ニ係ル抗辯ハ何時ニテモ之ヲ申立ツルヲ  
得ル者トス故ニ第一審ニ於テ同一事件ニ付キ既ニ判決アリタル時ハ  
控訴シテ確定判決アリシモノナルトテ申立ツルヲ得可ク又控訴ニ於  
テ申立ヲ得サリシ時ハ上告ニ於テ始メテ之ヲ申立ツルトテモ得可  
シ又判事ニ於テモ既ニ確定判決アリタルトテ知リタル片ハ之ヲ理由  
ト爲シ職權ヲ以テ其訴訟ヲ却下スルコトヲ得ルナリ

確定判決不可動ノ規則ハ民事上ニ於テハ總テノ場合ニ之ヲ適用シ刑  
事上ニ於テモ亦被告人ノ利益ノ爲メニ之ヲ適用ス然レモ或ル  
場合ニ於テ法律上ノ錯誤若クハ事實上ノ錯誤又ハ其他法式ニ違背シ  
タル判決アリタル時ハ被告人ノ利益ノ爲メニ此原則ニ變例ヲ用ユル

確定判決  
アリトテ  
申立テ再  
審トシテ  
立テ却却  
シテ却却  
シテ却却  
付テルニ  
係ル

トアリ是レ刑事ノ民事ト其適用ヲ異ニスル所ニシテ即チ非常上告第  
二百九十二條再審ノ訴第三百一條以下是レナリ而シテ此等ノ訴ハ皆確  
定判決ヲ動かスモノニシテ其非常上告ハ前判決ニ法律上ノ錯誤アリ  
タル場合ニ於テシ再審ノ訴ハ前判決ニ事實上ノ錯誤アリタル場合ニ  
於テ爲スヘキ者トス而シテ此等ノ錯誤カ若シ社會ノ損害ト爲ル時ハ敢  
テ確定判決ヲ動かスヲ得スト雖モ其被告人ノ損害ト爲ル時ニ於テ尙  
ホ之ヲ動かスヲ得ストモハ被告人ノ不幸ヲ來シ公平ノ道理ニ背戻ス  
ルヲ以テ乃チ法律上前掲ノ變例ヲ設ケタルナリ

特赦モ亦確定判決ノ効力ヲ動かスモノナレモ少シク異ナル所アリ  
夫レ確定判決ノ動かス可ラサルト此ノ如キヲ以テ若シ同一事件ニ付  
キ再ヒ訴ヲ受ケタル時之ヲ棄却セシムルニハ其第一審タルト第二審  
タルト將タ上告ノ場合タルトヲ問ハス之ヲ申立ツルヲ得ヘク裁判所  
モ亦前ニ確定判決アリト認ムル時ハ職權ヲ以テ之ヲ棄却スルヲ得可



キハ以上述ヘタル所ノ如シ然ルニ此確定判決ヲ申立テ再訴ヲ棄却セシムルニハ左ノ三條件ノ具備スルヲ要ス此事タル本法ニ明文ナシト雖モ民法証據編第八十一條ニ規定スル所ニシテ眞ニ條理ニ適スルモノナレハ本法ニ於テモ亦確定判決タルニハ必ス此三條件ヲ要スルヤ毫モ疑ナキナリ

第一 前ノ訴件ト後ノ訴件トハ其目的ノ同一ナルヲ要ス

第二 前ノ訴件ト後ノ訴件トハ其原因ノ同一ナルヲ要ス

第三 前ノ訴件ト後ノ訴件トハ其原告人被告人ノ同一ナルヲ要ス

民法ニハ尙ホ第四ノ條件ヲ加ヘ原告人被告人ノ權利上ノ資格同一ナルヲ必要トセリ刑法ニハ之ヲ要セス

第一條件 目的ノ同一ナル事

目的トハ訴ヲ起シテ要求スル所ノ物ヲ云フ即チ公訴ニ於ケル刑ノ適用私訴ニ於ケル損害ノ賠償是ナリ故ニ確定判決アリタルヲ申立ツ

第一條件  
目的ノ同一ナル事

ルニハ既ニ確定シタル判決ノ目的モ新ニ起リタル訴訟ノ目的モ共ニ刑ノ適用ニ在ルヲ要スルナリ其私訴ニ於ケルモ亦然リトス而シテ民事ニ於テハ其目的ノ異同ヲ認ムルヲ甚タ困難ナリト雖モ刑事ニ於テハ事容易ナリ蓋檢察事ハ同一事件ニ付キ再ヒ被告人ヲ罰スルノ意慾アリトハ認メ難ク又前ニ判決シタル刑ヨリモ更ニ重キ刑ヲ言渡サシメントノ意慾アリトモ認メ難シ若シ之レアレハ則チ判決上訴期限内ニ上訴ス可キヲ以テナリ故ニ公訴ニ於テ前段目的ノ異同ヲ確定スルハ敢テ困難ニアラサル可シ然レモ若シ判事辯護士等ニ於テ職務上ノ犯罪アル時ハ職務上懲戒ヲ被ムル可ク又刑法上ノ刑罰ヲ受クルヲアル可シ此場合ニ於テハ其事件ハ則チ同一ナリト雖モ其目的ハ全ク相異ナレリ蓋一ハ純然タル刑法上ノ刑罰ニシテ一ハ職務上ノ懲戒ナルヲ以テナリ故ニ刑ノ判決確定後ニ至リ懲戒言渡ニ關スル手續ヲ爲シ又ハ懲戒ノ言渡確定シタル後公訴ヲ起スモ更ニ差支アルヲナシ

第二條件  
原因ノ同一ナル事

第二條件 原因ノ同一ナル事  
公訴私訴ノ原因トハ何ソヤ其被告人ニ歸ス可キ所爲即チ犯罪是レナ  
リ確定判決ヲ申立ツルニハ前後ノ訴其原因ヲ同一ニスルヲ必要トス  
之ヲ換言スレハ同一ノ所爲ニ對シ再ヒ公訴又ハ私訴ヲ起スヲ得スト  
謂フニ在リ故ニ假令ヒ多少ノ關係アルモ其所爲ノ前後各別ナル時ハ  
更ニ公訴又ハ私訴ヲ起スヲ妨ケス此原因ノ異同ヲ認ムルハ其目的ノ  
異同ヲ認ムルヨリモ一層困難ナリ就中附帶犯繼續犯慣行犯等ニ付テ  
ハ更ニ困難ナシトセス

附帶犯ニ  
付キ原因  
ノ異同

先ツ附帶犯ニ付テ之ヲ說カンニ凡ソ數箇ノ所爲各々全ク分離セルモ  
ノナル時ハ其各所爲ハ皆公訴ノ原因ヲ爲スモノニシテ其一所爲ニ付  
テ公訴起リ已ニ判決確定スルモ以テ他ノ所爲ニ對スル公訴權ヲ消滅  
セシムルモノニアラス今試ニ附帶ノ犯罪ニ付キ此原則ヲ適用センニ  
例ヘハ政府ヲ顛覆スルノ目的ヲ以テ内乱ヲ爲シ他人ノ金穀ヲ奪掠シ

タル時ノ如キ是レ國事犯ト強盜トヲ併犯シタル者ニシテ其所爲ノ全  
ク各別ナルヤ知ル可キナリ故ニ此場合ハ各所爲ニ對シ公訴ヲ起スヲ  
得可キナリ然レモ附帶ノ犯罪中其各所爲密接シテ殆ント分離ス可ラ  
サル者亦少カラス此等ノ場合ニ在テハ其所爲ニ付テノ無罪ノ判決  
確定後他ノ所爲ニ對シテ公訴ノ起ル時ハ被告人ハ前ノ確定判決ヲ申  
立テ之ヲ棄却セシムルヲ得可キナリ是レ佛國裁判例ニ於テ往々見ル  
所ナリ今一例ヲ舉クレハ甲アリ内亂ヲ起スノ目的ヲ以テ軍用ノ物品  
ヲ劫掠シタリトテ國事犯ノ被告人ト爲リタルモ審理ノ未證憑充分ナ  
ラストテ無罪ノ言渡ヲ受ケ其判決確定セリ然ルニ檢事ハ内亂ヲ爲ス  
ノ目的ヲ以テ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造所有シタリトシテ更ニ甲ニ對シ  
テ公訴ヲ起シタリトセン此場合ニ於テハ甲ハ前ノ確定判決ヲ申立テ  
其公訴ヲ棄却セシムルヲ得ヘシ何トナレハ軍用ノ物品ヲ劫掠スル  
ノ所爲及ヒ軍用ノ銃砲彈藥ヲ製造所有シタルノ所爲ハ目的上密接シ

テ殆ント分離スヘカラサルノ附帯犯ナレハナリ  
 又例ヘハ甲乙ニ對シ遺恨アルカ爲メ之ヲ毆打シテ終ニ死ニ致シ且ツ  
 其衣類ヲ剝取シタリトセンカ其毆打致死ノ所爲ト衣類剝取ノ所爲ト  
 ハ素ト附帯犯ナリト雖モ其目的上ニ就テ之ヲ觀レハ二者劃然分離シ  
 得ヘキモノナルヲ以テ前ニ毆打致死ノ公訴ニ對シ證據充分ナラスト  
 テ無罪ノ言渡ヲ爲シ其判決確定シタル場合ニ於テモ檢事カ更ニ甲ニ  
 對スル盜罪ノ公訴ヲ爲スカ爲メ毫モ支障アルコトナシ故ニ此場合ニ於  
 テハ甲ハ前ノ確定判決ヲ申立テ其公訴ヲ棄却セシムルコトヲ得サルモ  
 ノトス

繼續犯ニ付  
 概原因ノ  
 異同

次ニ繼續犯連續犯ニ付テ説明センニ例ヘハ人ヲ私家ニ監禁スル如キ  
 内外國ノ勳章ヲ借用スル如キ貨幣ヲ偽造スル如キハ皆繼續犯若クハ  
 連續犯ナリ而シテ一月間ノ監禁數次ノ借用千圓ノ偽造ヲ爲スモ其中一  
 日ノ監禁一回ノ借用一圓ノ偽造ニ付テハ一々別箇ノ所爲ヲ成スニ非

スシテ皆其一部分ヲ成スモノト看做ス可キナリ故ニ今監禁罪ノ公訴  
 起リ裁判所ハ一月間監禁シタル者トシテ判決ヲ言渡シ其判決確定セ  
 ル後實ハ二月間監禁シタリトノ事實發覺シテ更ニ公訴起ルト雖モ被  
 告人ハ前ノ確定判決ヲ申立テ之ヲ棄却セシムルヲ得可シ何トナレハ  
 此第二ノ訴ノ原因タル所爲ハ全ク前判決ヲ以テ刑ヲ科シタル犯罪ノ  
 一部ヲ爲スモノナレハナリ然レモ例ヘハ同一ノ被告人ニシテ甲ヲ監  
 禁シタルコトニ付キ判決ヲ受ケ其判決確定ノ後又甲ヲ監禁シタルコト  
 リテ其所爲發覺スル片ハ全ク別個ノ所爲ナルヲ以テ此監禁ノ所爲ニ  
 對スル公訴權ハ決シテ消滅セサルヤ言ヲ俟タサルナリ  
 又甲(男子)乙(女子)ヲ私家ニ監禁シ百方之ヲ挑ムモ乙肯ンセス甲忿怨遂  
 ニ暴行ヲ以テ之ヲ犯シタリ然レモ後乙ノ告訴センコトヲ恐レ再ヒ之レ  
 ヲ監禁シタリトセン此場合ニ於テ前ノ監禁罪ノ確定判決ヲ申立テ後  
 ノ監禁罪ノ公訴ヲ棄却セシムルヲ得サルヘシ何トナレハ前後ノ監禁

ハ全ク其目的ヲ異ニシ割然分離シタル殊別ノ犯罪ヲ構造シタレハナ  
リ

慣行犯ニ  
付キ原因  
ノ異同

次ニ慣行犯ニ付テ一言セシニ慣行犯ハ一ニ集合犯ト稱スコレ余カ刑  
法講義ニ於テ既ニ其定義ヲ示タル所ナリ然レモ今尙ホ試ミニ佛法ニ  
依テ之ヲ例センニ被告人ハ二回高利貸ヲ爲シタリトノ公爲起リ其判  
決確定シタル後實ハ四回若クハ五回爲シタリトノ事實發覺スルモ檢  
事ハ最早公訴ヲ起ス可能ハサルナリ何トナレハ此場合モ亦繼續犯ノ  
場合ニ等シク若シ更ニ公訴ヲ起シ得ルモノトセハ其公訴ニ係ル所爲  
ハ全ク前判決ヲ以テ處斷シタル犯罪ノ一部ヲ再理スルモノナレハナ  
リ然レモ慣行犯ヲ成スニ足ルヘキ數回ノ所爲ニシテ前判決確定後更  
ニ犯シタルモノニ係ル片ハ之カ公訴ヲ爲スヲ得ヘキコト勿論ナリ  
茲ニ又一所爲ニシテ數箇ノ犯罪ヲ包含シ一面ヨリ觀レハ甲罪トナリ  
他面ヨリ觀レハ乙罪ト爲ル者アリ例ヘハ甲乙ノ家ニ放火シ遂ニ乙ヲ

一所爲ニ  
シテ數多  
ノ罪名ヲ  
包含スヘ  
キ場合ニ  
付キ原因

燒殺セリ是レ其所爲ハ單一ナレモ互ニ獨立シタル殺人罪アリ放火罪  
アリ又殺人罪中ニ在テモ謀殺故殺過失殺ノ區別アルヲ以テ之ヲ觀察  
スルノ如何ニ因リ數箇ノ罪名ヲ擬シ得可キナリ今前例ニ於テ放火罪  
及ヒ過失殺罪アリトシテ判決アリ甚判決確定シタル時ハ其所爲ノ全  
體ニ付テ確定判決アリシモノトセン乎將タ判決ニ於テ指稱シタル罪  
名ノミニ付キ確定判決アリシモノトセン乎若シ其確定判決ニシテ所  
爲ノ全體ニ關スルモノト爲ス時ハ縱令ヒ其罪名ヲ變更スルモ更ニ公  
訴ヲ起スヲ得ス又若シ其確定判決ニシテ唯其判決ニ指稱シタル罪名  
ノミニ關スルモノト爲ス時ハ其罪名ヲ變更スルニ於テハ後更ニ同一  
ノ所爲ニ付キ公訴ヲ爲スヲ得可キナリ之ヲ約言スレハ既決事件ノ抗  
辨ハ所爲ノ同一ナルコトニ基キテ存スルモノナルカ將タ罪名ノ同一ナ  
ルコトニ基キテ存スルモノナルカ  
先ツ豫審ノ決定ニ付テ之ヲ論センニ豫審判事ノ爲シタル免訴ノ決定

スル時ハ縱令ヒ罪名ヲ變更スルモ新ナル證據ノ現出スルニ非サレハ同一ノ事件ニ付キ更ニ公訴ヲ起ス可能ハス(第七十五條)故ニ前例ニ依レハ過失殺ノ公訴ニ付キ免訴ノ決定アリテ確定シタル後其事件ニ謀殺ノ罪名ヲ付シテ再ヒ公訴ノ提起アルモ新ナル證據ノ現出セサル限リハ被告人ハ確定シタル免訴ノ決定ヲ申立テ之ヲ棄却セシムルヲ得ルナリ

又公判ノ判決ニ付テハ其無罪若クハ免訴ノ判決ヲ爲ス時ト刑ノ判決ヲ爲ス時トヲ問ハス總テ其事件ノ全體ニ付キ判決スルモノニシテ彼ノ公訴事件録又ハ判決書ニ記載シタル罪名ノミニ照シ判決スルモノニ非ス蓋シ公判ニ於テハ其公訴ヲ受理シタル方法ノ如何ヲ問ハス即チ檢事ノ起訴タルト豫審判事ノ決定ニ因リ其事件ヲ移サレタルトニ拘ハラズ一旦之ヲ受理シタル以上ハ之ヲ法律全體ニ照シ其事件ニ涉ル百般ノ關係ヲ審査ス可キモノナレハ之ニ對シテ言渡シタル判決ハ即

チ其事件全體ニ對スル判決ナリ故ニ其判決確定シタル以上ハ縱令ヒ罪名ヲ變更スルモ再ヒ公訴ヲ起ス能ハサルナリ例ヘハ甲者過失殺ノ被告人トシテ輕罪公判ニ付セラレ審理ノ末刑ノ言渡ヲ受ケ其判決確定セリト爲サン乎縱令ヒ後日ニ至リ其判決ノ當時未タ發覺セザリシ一個ノ情狀現出シ甲ノ所爲ハ過失殺ニ非スシテ故殺或ハ謀殺ナリシトノ事實判然タルニ至ルモ最早再ヒ其事件ニ付キ公訴ヲ起ス能ハサルナリ又甲ハ最初ノ判決ニテ無罪若クハ免訴ノ言渡ヲ受ケサル時ト雖モ亦同一ナリトス蓋裁判所ニ於テ一旦其事件ヲ受理シタル以上ハ其事件全體ニ付キ所爲情狀罪科ノ性質ヲ審査セサル可ラス而メ其審査ヲ遂ゲタル後果シテ過失殺ト認ムル時ハ直チニ之カ判決ヲ爲ス可ク又謀殺若クハ故殺ト認ムル時ハ法律ニ從ヒ相當ノ判決ヲ爲ス可キナリ然ルニ反覆審査ノ上一旦過失殺ナリト判決シ之カ言渡ヲ爲シタル以上ハ如何ナル證據ノ現出スルモ最早再ヒ公訴スルヲ得ス然ラ

サレハ是レ確定判決ノ効力ヲ破ルモノニシテ其極訴訟事件ヲシテ底止スル所ナカラシムルノ最モ恐ルヘキ弊害ヲ生スベキナリ

第三條件 原被告人ノ同一ナル事

確定判決ノ効力即チ所謂ル既判効ヲ主張シテ新訴ヲ棄却セシメンニハ刑事ニ於ケルモ亦民事ニ等シク新舊兩訴ノ原被告人ノ同一ナルヲ必要トス然レモ刑事ノ原告人ト爲ル者ハ常ニ社會ニシテ何レノ訴ト雖モ終始變更セサルモノナリ而シテ其訴ヲ實行スル所ノ檢事ハ時々其人ヲ變更スルモ是レ均シク社會ノ代人トシテ事ヲ司トル者ナルカ故ニ檢事ノ變更ハ以テ代人ノ變更ト謂フ可キモ本人ノ資格ヲ有スル社會ニ變更アリト謂フヲ得ス然レモ被告人ニ至テハ新舊其人ヲ異ニスルコト少カラス若シ夫レ前後其被告人ヲ異ニシタル時ハ縱令ヒ同一ノ事件ト雖モ決シテ既判ノ効力ヲ及ホス可キモノニアラス  
例ヘハ爰ニ甲者ヲ故殺シタル者アリ其事件ニ付テハ乙者ヲ以テ加害

第三條件  
原被告人ノ  
同一ナル

者ト爲シタル判決アリテ其判決確定シタリ然ルニ爾後其加害者ハ乙者ニ非スシテ丙者ナリシトノ事實發覺シタリト假想センカ此場合ニ於テハ此故殺事件ニ付キ既ニ確定判決アリ且其公訴ノ目的理由ニ至テモ亦同一ナリト雖モ新舊其被告人ヲ異ニスルヲ以テ更ニ丙者ニ對シテ公訴ヲ起スヲ妨ケサルナリ又例ヘハ甲者或ル犯罪ニ付キ被告人ト爲リタルモ裁判所ニ於テハ之ニ對シテ犯罪ノ證據充分ナラスト爲シ無罪ノ言渡ヲ爲シタリト假想センニ此場合ニ於テモ亦同一ノ事件ニ付キ更ニ乙者ニ對シテ公訴ヲ起スヲ得可キナリ是レ亦新舊其被告人ヲ異ニスルヲ以テナリ  
此既判効ノ生スルカ爲メニハ被告人ノ同一ナルヲ要スルコトニ付キ共犯ノ場合ニ付テ少ク説明スル所アラン凡ソ共犯ノ場合ニ於テハ檢事ハ務メテ其共犯者一般ニ對シテ同時ニ公訴ヲ起シ同一ノ判決ヲ以テ各々言渡ヲ受クルコトニ注意ス可キナリ然レモ實際ニ於テハ其共犯者

原被告人ノ  
同一ナル  
同一ナル  
共犯ノ場  
合

中或ハ發覺セサル者アルカ爲メ同時ニ共犯者一般ニ對シテ公訴ヲ爲ス能ハサルコト亦之レナキニアラス

第一 檢事ニ於テ同時ニ總テノ共犯者ニ對シ同一ノ裁判所へ公訴ヲ起シタル時○此場合ニ在テ若シ裁判所ニ於テ其共犯者中ノ一人ニ對シ公訴ノ原由タル犯罪ノ成立ニ付キ證憑充分ナラス又ハ其所爲ハ法律上罰ス可キモノニアラストノ理由ヲ以テ無罪ノ判決ヲ爲シタル時ハ他ノ共犯者ニ對シテモ亦同一ノ判決ヲ爲サル可ラス

第二 檢事前ニ共犯者中ノ一人ニ對シテ公訴ヲ起シタル時○此場合ニ在テ若シ裁判所ニ於テ犯罪ノ成立ニ付キ證憑充分ナラス又ハ其所爲法律上罰スヘキモノニ非サルヲ理由トシ無罪ノ判決ヲ爲シ其判決確定シタル後他ノ共犯者ニ對シテ公訴ノ起ル時ハ此共犯者ハ前ノ共犯者ニ對スル判決ヲ申立テ以テ其公訴ヲ棄却セシムルヲ得ヘシ何トナレハ此場合ニ在テ裁判所ハ社會ノ代人タル檢事立會ノ上之ヲ審理シ

其犯罪ノ成立ニ付キ證憑充分ナラス又ハ其所爲法律上罰ス可キモノニアラスト認め而シテ無罪ノ判決ヲ爲シ其判決確定シタルモノナレハ法律上之ヲ以テ適正ノ判決ナリト看做ササル可ラス既ニ之ヲ適正ナリトスルハ他ノ共犯者ニ對シテモ亦等シク其犯罪ノ成立ニ付キ證憑充分ナラス又ハ其所爲法律上罰ス可キモノニ非スト判決ス可キコト固ヨリ論ヲ竣タス否ナ到底同一ノ所爲ニシテ甲ニ對シテハ罪ト爲ラスト云ヒ乙ニ對シテハ罪ト爲ルト云フノ理ハ萬々之レ有ラサルヲ以テナリ  
要スルニ凡ソ同一事件ニ付キ共犯者ニ對シ公訴ノ前後相繼テ起リタルニ方リ其辯護ノ方法同一ナルニ於テハ後ノ被告人ハ設ヒ自カラ前ノ言渡ヲ受ケスト雖モ其確定判決ノ効力ヲ申立テ以テ後ノ公訴ヲ棄却セシムルヲ得ヘキモノトス  
但此場合ハ固ヨリ確定判決ノ効力ヲ假ル者ナリト雖モ之ヲ以テ第三

條件ノ具備スルモノナリト云フヘガラス何トナレハ後ノ被告人ハ自  
 カラ被告人ト爲リタル公訴ニ關シ曩ニ前被告人ニ對シテ爲サレタル  
 確定判決ヲ援用シテ以テ己レカ抗辯ノ原由ト爲スモノナレハナリ  
 此說ハ佛國ノ學者及ヒ裁判例ニ於テ認メラレタル所ナリ獨リオルト  
 ランハ之ヲ總テノ場合ニ適用セス而シテ重婚及ヒ姦通罪ニ付テ左ノ說  
 ヲ爲セリ

曰ク重婚罪姦通罪等ニ付テハ縱令ヒ婦人ニ對シ犯罪ノ證據充分ナラ  
 ストノ理由ヲ以テ無罪ノ判決ヲ爲シタルキト雖モ若シ後日共犯者タ  
 ル新配偶者又ハ姦夫ニ對シテ其公訴ノ起リタルハ此新配偶者又ハ  
 姦夫ハ曩ニ婦人ニ對シテ爲サレタル確定判決ヲ申立テ以テ其公訴ヲ  
 棄却セシムルコトヲ得スト

今婦人ニ對シテ無罪ノ言渡ヲ爲ス時ハ重婚罪又ハ姦通罪ハ成立セサ  
 ルモノ、如ク隨テ新配偶者又ハ姦夫トシテ被告人ト爲リタル者モ亦

宜シク無罪ノ言渡ヲ受クヘキモノニ似タリ而シテオルトランハ左ノ事  
 例ヲ想像シテ其說ヲ爲セリ曰ク例ヘハ婦人ノ本夫失踪シテ已ニ久シ  
 ク其生死ヲ知ルコト能ハサル時ニ方リ新配偶者又ハ姦夫ニ於テ婦人ヲ  
 欺クニ本夫ノ實ニ死シタルコトヲ以テシ由テ以テ重婚又ハ姦通ヲ教唆  
 シタル時ノ如キハ婦人ハ既ニ本夫ノ死ヲ信シタルモノニシテ自カラ  
 進テ故ヲニ重婚又ハ姦通ヲ爲スノ意思ヲ懷キタルニ非サレハ良シヤ  
 實否ヲ推究セサリシノ過失ナキニアラストスルモ法律上之ヲ重婚又  
 ハ姦通ノ罪人トシテ罰スヘキニアラス然レモ其說クニ詐術ヲ以テシ  
 遂ニ婦人ヲシテ重婚又ハ姦通ヲ爲サシメタル者ハ即チ對手人タル新  
 配偶者又ハ姦夫ニ在ルヲ以テ新配偶者又ハ姦夫ハ其婦人ニ對シ前ニ  
 言渡サレタル無罪ノ確定判決ヲ申立テ以テ己レノ抗辯ト爲スコトヲ得  
 サルヘシト

然レモ余ヲ以テ之ヲ視レハ此ノ如キ場合ニ於テハ固ヨリ婦人タル者ノ



所爲ハ多少憫諒スヘキ情狀ヲ呈スルヤ明ナリト雖モ爲メニ刑法上無罪ト爲スヘカラサルモノト思惟スルナリ

右叙述シタル三條件ノ具備スル時ハ前ノ判決確定セル旨ヲ申立テ以テ後ニ起リタル公訴ヲ棄却セシムルヲ得ヘシ

以上論究シタル所ハ公判ニ於テ言渡シタル判決確定ノ効力ナリシカ余ハ尙ホ豫審ノ決定ニ付テハ如何ナル効力ヲ有スル乎之ヲ茲ニ論セントス

豫審ノ決定ニ種々アリト雖モ其重モナルモノ即チ免訴ノ決定及ヒ其事件ヲ管轄裁判所ニ移スノ決定是レナリ而シテ其他尙ホ管轄違等ノ決定アリト雖モ別ニ之ヲ詳述スルノ必要ナシト思料スルヲ以テ姑ク其主要ナルモノノミヲ釋義スルニ止マン

豫審ノ決定ノ効果

第一 免訴ノ決定○此決定アリタル時ハ縱令ヒ新ナル罪名ヲ付スルト雖モ此罪名ノ變更ノミヲ以テ同一事件ニ付キ再ヒ公訴ヲ起スヲ得

豫審免訴ノ決定時ノ効果

ス何トナレハ單ニ罪名ヲ變更スルカ如キハ毫モ事實ニ變更ヲ來サレハナリ故ニ再ヒ公訴ヲ起サンカ爲メニハ必ス新ナル證據ノ現出スルヲ要ス蓋免訴ノ決定アリタルハ其決定ヲ受ケタル者ノ所爲ハ之ヲ犯罪ト看做スヲ得サルヲ以テ原則トス何トナレハ豫審ニ於テモ一事件ヲ受理スル時ハ其事件ノ全體ニ付キ刑法上ノ關係如何ヲ審査スヘキモノナレハナリ然レモ其審査ヲ爲スヤ唯其事件ニ關シテ當時現出シタル證據ノミニ據リ之ヲ爲スモノナレハ後ニ新ナル證據ノ現出スル時ハ大ニ其事實ノ狀況ヲ變シ以前ノ證據ニ依テ無罪ト爲スヘキモノ或ハ新ニ現出シタル證據ニ照セハ有罪ト爲サル可ラサルヲアル可シ故ニ此新ナル證據ノ現出シタル場合ニ於テハ先ツ第七十五條第二項ノ規定ニ循ヒ檢事ヨリ新證據ヲ其裁判所ニ呈出シ起訴ヲ許スノ決定ヲ得テ始テ再度ノ公訴ヲ起スヲ得ヘキモノトス例ヘハ豫審ニ於テ免訴ノ決定後ニ曾テ訊問ヲ經サル證人現出シテ某ノ犯罪ヲ實

見シタルコトヲ確言スル時ハ則チ免訴決定ノ當時ニ於ケル事實ノ狀況ヲ變スルモノニシテ若シ前ニ此證人ノ陳述アリタルニ於テハ豫審終結ノ決定ハ免訴ニアラスシテ公判ニ移スノ決定ナリシヤモ亦知ルヘカラサレハナリ

之ヲ要スルニ豫審ニ於ケル免訴ノ決定ハ僅ニ假ノ効力ヲ有スルモノニシテ後ニ新ナル證憑ノ現出セサルニ於テ始メテ完全ノ効力ヲ生シ若シ新ナル證憑ノ現出スル時ハ即チ全ク其効力ヲ失フモノナリ故ニ豫審ニ於ケル免訴ノ決定ニシテ縱令ヒ確定スルニ至ルモ其効力ハ未必條件ヲ帶ヒタルモノト謂フテ不可ナキナリ故ニ今豫審判事甲者ニ對スル殺人罪ノ公訴ヲ受理シ之ヲ審査シタルニ其證憑充分ナラサルヲ以テ終ニ免訴ノ決定ヲ爲シタリト假想セヨ是レ決シテ無罪ノ判決ノ如キ効果ヲ生スルモノニアラス元來豫審判事ハ無罪ノ判決ヲ爲スヲ得サルモノナレハ其事件ニ付キ犯罪ノ證憑充分ナラサル等ノ場合

ニ於テハ自カラ受理シタル公訴ヲ免スルノミ決シテ其事件ニ付キ將來起ルコトアル可キ公訴權ヲ消滅セシムルノ權アルモノニ非ス此故ニ檢事司法警察官等ニ於テ新ナル證憑ノ現出スヘキ胸算アル片ハ之ヲ搜查シ之ヲ發見シテ更ニ公訴ヲ起スノ手續ヲ爲スヘキノミ然レモ未タ新ナル證憑ノ現出セサル間ハ前述免訴ノ決定ハ假ニ既決事件ノ効力ヲ有スルヲ以テ檢事ハ直チニ公訴ヲ起スノ手續ヲ爲スヲ得ス故ニ檢事ニ新ナル證憑ヲ呈出シ裁判所ノ許可ヲ得テ而シテ公訴シタルモノニアラサレハ被告人ハ豫審判事ニ對シ拘留審問家宅搜索等ノ處分ヲ拒ムヲ得可キナリ

豫審ニ於ケル免訴ノ決定ハ事實上ノ理由ニ基クテ通常トス證憑充分ナラストノ理由是ナリ然レモ又法律上ノ理由ニ基クテナキニ非ス例ヘハ法律上罰スヘキ所爲ニ非ストノ理由ノ如キ是ナリ而シテ原則上ニ於テハ此法律上ノ理由ニ基ク場合ト雖モ其決定ノ効力ハ事實上ノ理

豫審免訴  
決定法  
律上ノ理  
由ニ基キ  
タル場合  
ノ効果

由ニ基ク場合ト等シク假ノ効力ヲ有スルニ過キササルヲ以テ若シ後ニ新ナル證憑ノ現出スル時ハ其事件ノ狀況ヲ變シ隨テ法律上ノ理由ニ變更ヲ生シ爲メニ再ヒ公訴ヲ起スヲ得ルナリ例ヘハ始メ豫審判事ノ觀ル所ニ從ヘハ法律ノ罰スヘキ所爲ニ非サルヲ以テ之ヲ理由トシテ免訴ノ決定ヲ爲シタルモ後ニ新ナル證憑ノ現出シタルカ爲メニ其事件ノ狀況ハ一變シテ或ハ重罪ト爲リ輕罪ト爲リ違警罪ト爲ルコトアルヘケレハナリ然レモ其免訴ノ決定ニシテ若シ證憑ニ關セサル理由ニ基ク時ハ其決定ハ假ノ効力ヲ有スルニ非スシテ即チ完全ナル確定力ヲ有スルモノトス何トナレハ此場合ニ於テハ前ニ免訴ノ決定ハ證憑ノ如何ニ關セサルヲ以テ縱令ヒ新ナル證憑ノ現出スルモ毫モ其事件ニ係ル免訴ノ理由ニ變更ヲ來ササルヲ以テナリ例ヘハ豫審判事其受理シタル事件ニ付テハ確定判決又ハ大赦ニ因リ己ニ公訴權ノ消滅シタル者ト爲シ免訴ノ決定ヲ爲シタルニ其後ニ至リ大赦又ハ確定判決アリシハ

他ノ事件ニシテ其決定ニ係ル事件ニ非サリシコトヲ發見シタル時ノ如キ是ナリ此等ノ場合ニ於テハ其事件ニ付テ新ナル證憑ノ現出シ爲メニ其情況ヲ一變シタルニ非スシテ豫審判事ノ誤謬ヲ發見シタルニ過キス然ルニ豫審判事ノ誤謬ハ確定シタル決定ノ効力ヲ破リ得ルモノニ非サルヲ以テ之ヲ理由トシテ再ヒ公訴ヲ起スヲ得サルナリ故ニ此場合ニ於テハ被告人ハ其前ノ決定ヲ以テ抗辯ヲ爲シ得ルモノトス然レモ茲ニ一ノ注意ヲ要スル場合アリ例ヘハ豫審判事カ免訴ノ決定ヲ爲シタルハ犯罪ノ成立セサルモノト做シタルニ非スシテ即チ犯罪ノ時ヨリ已ニ三年ヲ經過シタル輕罪ニ係ルヲ以テ其公訴ハ既ニ時効ニヨリ消滅シタルモノナリト認メ免訴ノ決定ヲ爲シタルニ其後新ナル證憑ノ現出シテ爲メニ其事件ノ重罪ナリシコトヲ發見シタル時ハ未タ重罪ノ時効ノ期間ヲ經過セサルニ依リ檢事ハ新ニ公訴ヲ起スヲ得可シ此例ハ前述ノ例ト異ニシテ新ナル證憑ノ現出シテ爲メニ所爲ノ

性質上ニ關スル狀況ヲ一變スルカ故ニ更ニ公訴ヲ起スノ妨礙ト爲ラサルナリ

豫審ニ於テ事件ヲ管轄裁判所ニ移シタルノ決定ヲ爲シタルノ効果

第二 管轄裁判所へ其事件ヲ移スノ決定○此決定ハ裁判所ヲシテ其事件ヲ受理セシムルノ効力ヲ生ス然レモ此決定ノ効力ハ其後公判ニ於テ爲ス可キ判決ニ毫モ勢力ヲ及ホス可キモノニ非ス故ニ裁判所ハ其事件ヲ送致シタル豫審判事ノ意見如何ニ拘ハラス自カラ認ムル所ニ依リテ其判決ヲ爲ス可シ例へハ豫審判事ハ其事件ヲ以テ輕罪ト爲シ之ヲ輕罪ノ公判ニ移シタルモ裁判所ニ於テ之ヲ重罪ト認ムル時ハ乃チ重罪公判ニ要スル手續ヲ爲ス可キナリ元來判事ノ職務タル其事件ヲ公判ニ移ス可キモノナルヤ否ヤヲ審査スルニ在ルヲ以テ其決定ハ唯裁判所ヲシテ之ヲ受理セシムルノ効力ヲ生スルノミ去レハ決定ガ一旦確定シタル時ハ檢事ハ其事件ヲ送致スル裁判所ヲシテ之ヲ受理セシメサラントスルモ得ヘカラス又他ノ裁判所ヲシテ之ヲ受理セ

シメントスルモ亦得ヘカラスト雖モ苟クモ裁判所ニ於テ之ヲ受理シタル以上ハ縱令ヒ如何ナル理由ニ因リ如何ナル判決ヲ爲スモ總テ其裁判所ノ權内ニ在リトス豫審ノ決定カ公判ノ判決ニ勢力ヲ及ボサルノ理由ハ素ト豫審ト公判トハ被告人保護ノ點ニ付テ差別有ルヲ以テナリ蓋豫審ニ於テハ書類審査及ヒ祕密ノ審査ヲ用ユルノミナラス對審ナキノ審査辯護士ナキノ審査ヲ用ヒ證據若クハ推測ニ因テ決定ヲ爲スモノナリ然ルニ公判ニ於テハ口頭ノ辯論ヲ以テスルノミナラス又辯護士ヲ付シ公衆ノ傍聽ヲ許ス等被告人ヲ保護シ苟クモ枉屈ノ弊ナカラシムルノ手續至ラサルハ莫シ然ルニ若シ此等ノ手續ヲ履行セサル豫審ノ決定ニシテ其勢力ヲ公判ノ判決ニ及ホスモノトセハ此等手續ヲ鄭重ナラシメタルノ目的ハ蓋徒空ニ歸スヘキヲ以テナリ

新ナル證據トハ何ソヤ佛國治罪法第二百四十七條ニ於テハ其例ヲ示

セリ云ク未タ重罪取調局ノ調査ニ付セラレサルモノニシテ其微弱ナ  
 リト認メタル所ノ證據ヲ確然ナラシメ又ハ所爲ニ關スル事實ヲ發見  
 スルニ有益ノ新ナル敷演ヲ與フヘキ性質ヲ有スル證人ノ陳述證據物  
 調書ハ新ナル證據ト看做ス可シト是レ唯例示ニシテ制限シタルモノ  
 ニアラス故ニ該條ハ單ニ重罪取調局ニ係ル規定ヲ爲スノミナリト雖  
 凡之ヲ他ノ場合ニモ援引スルコトヲ得ヘキナリ

確定判決ノ効力ハ以上述ヘタル所ニ依リ大略之ヲ悉了セリ以下此効  
 力ハ民刑互ニ如何ナル勢力ヲ及ホスヤノ問題ヲ討究セン  
 爰ニ先ツ私訴ノ確定判決ハ公訴ノ判決ニ如何ナル勢力ヲ及ホス乎ノ  
 論題ヨリ研究センニ凡ソ一個ノ犯罪アルルハ之ニ因テ二個ノ訴權ヲ  
 發生ス即チ公私ノ兩訴ヲ生スルコトアルハ余ノ已ニ論述シタル所ナリ  
 而シテ茲ニハ先ツ民事裁判所ニ於テ私訴ノ判決ヲ爲シ後チ刑事裁判  
 所ニ公訴ノ起リタル場合ヲ豫想ス可キハ勿論ナリ蓋此場合ニ於テ私

私訴ノ確定判決  
 及ホス力ヲ及  
 ニ如何ナル  
 訴ノ判決ニ  
 及ホス力ヲ

訴ノ確定判決ハ其効力ヲ公訴ノ判決ニ及ホスモノニアラス是レ公訴  
 私訴ノ間ニハ其目的原因及ヒ原告人ヲ異ニスルヲ以テナリ

第一目的 公訴ノ目的トスル所ハ刑ノ適用ニシテ私訴ノ目的トスル  
 所ハ損害ノ賠償ニ在リ

第二原因 公訴ノ原因ハ犯罪ト看做ス可キ所爲ニ在テ私訴ノ原因ハ  
 民事上ノ犯罪准犯罪ト看做ス可キ所爲ニ在リ

此點ニ付テハ其事實上ヨリ觀ルルハ同一ナルカ如キモ法律上ヨリ觀  
 ルルハ同一ナリト云フヘカラス蓋所爲ノ犯罪ト爲ル可キ者ニシテ損  
 害賠償ノ原因ト爲ラサル者有リ又損害賠償ノ原因ト爲ル可キ所爲ニ  
 シテ犯罪ト爲ラサル者アリ公訴ハ其所爲ノ犯罪ト爲ルヤ否ヤヲ判決  
 シ私訴ハ其所爲ノ賠償ノ原因ト爲ルヤ否ヤヲ判決スルモノナレハナ  
 リ

第三原告人 公訴ノ原告人ハ檢事ニシテ私訴ノ原告人ハ被害者ナリ

公訴私訴ノ間ニハ此ノ如ク差別アリ然ルニ確定判決ノ効力ハ同一事  
 件即チ其訴訟ノ目的原因原被告ノ同一ナル時ニ非サレハ之ヲ及ホサ  
 ルノ原則ナルニ因リ乃チ公訴ニ付テノ判事ハ私訴ノ判決ニ依ラス  
 シテ自由ニ其心證ヲ得テ以テ既ニ確定ニ至リタル私訴ノ判決ニ反對  
 セル判決ヲ爲スヲ得可シ

然レモ例外トシテ民事裁判所ノ判決ノ効力ヲ刑事ノ判決ニ及ホス  
 有リ即チ判決ス可キ事件ニシテ民事裁判所ニ於テ豫メ審理セサレハ  
 犯罪ノ成否ヲ判別スルヲ能ハサル事件ニ付テノ判決是ナリ例ヘハ乙  
 者甲者ト結婚シタル後重テ丙者ト結婚シタルヲ以テ甲者ヨリ乙者ニ  
 對シ民事裁判所へ出訴シ身分釐正若クハ損害賠償ヲ求メタルニ民事  
 裁判所ハ審理ノ上彼レ甲乙間ノ結婚ハ會テ成立セサリシヲ以テ乙者  
 ニ何等ノ義務アルヲナシト判決シタルニ其後重婚罪ノ公訴刑事裁判  
 所ニ起リタリトセハ此場合ニ於テハ必ス民事裁判所ノ判決ニ基キ重

公訴ノ確  
 定判決ハ  
 私訴ノ判  
 決ニ如何  
 ナル勢カ  
 チ及ホス

婚罪ハ成立セサル者ナリト判定セサル可ラス何トナレハ甲乙間ノ婚  
 姻ノ成否ハ元來民事裁判所ニ於テ判決ス可キ事件ニシテ且其判決ハ  
 刑事判決ニ決シテ欠ク可ラサルモノナルヲ以テナリ  
 余ハ是ヨリ公訴ニ付テノ判決ハ私訴ノ判決ニ如何ナル勢力ヲ及ホス  
 乎ノ問題ヲ討究スヘシ  
 此問題ハ刑事裁判所及ヒ民事裁判所ニ公訴私訴ノ並起リテ先ニ公訴  
 ノ判決アリタル場合ヲ豫想ス可キハ勿論ナリ佛國ニ於テハ此問題ニ  
 付キ第十八世紀ノ初ニ方リ有名ナル學者メルレントツリーエートノ  
 間ニ一大議論ヲ生シツリーエートハ公訴判決ノ勢力ハ決シテ私訴ノ判  
 決ニ及ホス可キモノニ非スト主張シメルレンハ公訴ノ判決ハ其勢力  
 チ私訴ノ判決ニ及ホスモノナリト主張セリ然リ而シテ此兩學者ノ根  
 據トスル所ハ共ニ民法第千三百五十一條ナリキ  
 ツリーエート曰ク公訴ト私訴トハ其目的原因原被告人ヲ同グスルモノ

ニ非ス故ニ公訴ノ判決ハ其勢力ヲ私訴ノ判決ニ及ホス可キモノニ非スト

メルレン曰ク公訴ノ目的ハ營ニ刑ノ適用ノミナラス又人ヲ懲戒スルニ在リ而シテ私訴ノ目的ナル損害賠償モ亦人ヲ懲戒スルノ手段ナレハ公訴私訴ノ目的ハ同一ナラスト謂フヲ得ス又其原因ハ公訴ニ於ケルモ私訴ニ於ケルモ共ニ同一ノ所爲ヨリ出ツルモノナレハ是レ亦同一ナリト謂ハサルヲ得ス而シテ公訴ノ原告人ナル檢事ハ社會ヲ代理スル者ナレハ即チ社會ノ一人ナル被害者ヲモ併セテ代理スル者ナルヲ以テ公訴私訴ノ被告人ノ同一ナルハ勿論其原告人モ亦同一ト謂フヘキナリ既ニ目的原因原被告人ヲ同クスル以上ハ公訴ノ判決ハ其勢力ヲ私訴ノ判決ニ及ホス可キト當然ナリト

今專ラ民法第千三百五十一條ニ據テ立論スル時ハツォーリエノ説ニ左袒セサル可ラスト雖モ現時ノ刑律家及ヒ裁判例ハ概ネメルレンノ

論決ヲ採用セリ然レモ其理由ニ至テハ全ク他ニ依據スル所アリテ敢テメルレンノ附シタルカ如キニアラサルナリ

夫レ公訴ノ原告人タル檢事ハ社會ヲ代理スル者ナルヲ以テ又隨テ社會ヲ組織スル所ノ人民ヲ代理スル者ナリ故ニ犯罪ノ成否被告人ノ有罪無罪ニ關スル判決ニシテ檢事カ其手續ヲ履行シ言渡ヲ爲サシメタルモノハ即チ公衆一般ノ爲メ又公衆一般ニ對スル判決ナリ且檢事ノ公訴ヲ實行スルヤ種々ノ手段權限ヲ有スルト彼ノ一個人タル被害者カ民事裁判所ニ私訴ヲ起シ被告人ノ曲ヲ證シ自己ノ權利ヲ主張スルカ爲メニ有スル手段方法ノ能ク及フ所ニアラス然レハ其手段權限ニ依リ緻密ナル搜查ヲ遂ケ確實ナル證據ヲ得テ以テ犯罪ノ成否ヲ判決セシメタル以上ハ其後同一事件ニ付キ又何ノ必要アリテ再ヒ被害者ヨリ民事裁判所ニ出訴シ之カ覆審ヲ爲スヲ須ンヤ加之若シ公訴ノ判決ニシテ其効力ヲ私訴ノ判決ニ及ホサシメサラン乎是レ殆ント刑

事裁判所ノ訴訟手續ノ不完全ナルコトヲ公衆ニ示スニ異ナラサルナ  
リ  
又社會カ犯罪人ヲ罰スルハ既往ヲ懲ラシ將來ヲ戒ムルニ在リ然ルニ  
既ニ刑事裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲シタル後被害者ハ民事裁判所ニ  
出テ、被告人ノ所爲ハ刑事裁判所ノ言渡シタル所ヨリ尙ホ重キ者ナ  
リト主張シ被告人若クハ其親戚ハ被告人ノ所爲ハ刑事裁判所ノ判決  
シタル所ヨリ更ニ輕キ者ナリト抗辯スルカ如キコアラハ是レ即チ刑  
事裁判所ノ判決ヲ蔑如スル者ニシテ既往將來ヲ懲戒スル所ノ刑罰ノ  
効力ヲ減殺スル者ト謂ハサル可ラス又例ヘハ刑事裁判所ニ於テ死刑  
ヲ言渡シ其執行後相續人ニ對シテ私訴ヲ起スニ方リ民事裁判所ニ於  
テ被告人ノ所爲ハ毫モ賠償ノ原因ト爲ル可キ者ナシト言渡スカ如キ  
コアラハ社會公衆ハ常ニ危懼ノ念ヲ懷キ刑事裁判所ノ判決ヲシテ適  
實ナラサルノ感覺ヲ惹起サシムルニ至ル可シ素ヨリ其被刑者ニシテ

眞ニ無罪ナル證アルニ於テハ其親屬等ヨリ再審ノ訴ヲ爲シ得ヘキヤ  
論ヲ竣タスト雖モ然レモ其手續ヲ履マス同一事件ニ關シ民事裁判所  
ニ於テ刑事裁判所ノ有罪ノ判決ニ牴觸シタル判決ヲ爲スカ如キコアラハ蓋公安ヲ害スルコト大ナリト云ハサルヘカラス  
此等ノ理由アルヲ以テ公訴判決ノ効力ヲ私訴ノ判決ニ及ホストノ説  
ハ學者間ニ異論ヲ唱フル者アルニ拘ハラヌ佛國當今ノ裁判慣例ヲ成  
スニ至リシナリ

今若シ立法官ニ於テ民事裁判所カ私訴ノ判決ヲ爲スニハ必ラス公訴  
ニ付テノ判決アリタル後ニ於テスヘシ孰レノ場合ト雖モ公訴ノ判決  
ニ先チ私訴ノ判決ヲ爲ストヲ得スト規定セハ其レ或ハ可ナラン歟然  
リト雖モ是レ亦他ニ止ム可ラサル理由アリテ斯ノ如キ規定ヲ爲シ得  
サリシナリ何ヲカ止ム可ラサル理由ト云フカ曰ク他ナシ今若シ斯ノ  
如キ規定ヲ爲サン乎被害者ハ元來告訴ヲ爲スノ權アルカ故ニ犯罪事



件ヲ檢事ニ告訴スヘシト雖モ而カモ檢事ハ其情狀ニ因リ公訴ヲ起スト否トノ全權ヲ掌握スル者ナレハ或ハ直チニ公訴ヲ起サ、ルヲアル可シ夫レ如斯場合ニ於テ被害者ハ民事裁判所ニ出訴シテ私訴ノ判決ヲ受ケントスルモ未タ公訴ノ判決ナキヲ如何セン又公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ訴ヘ其判決ヲ仰カントスルモ未タ檢事ノ起訴ナキヲ如何セン到底手ヲ束ネテ檢事ノ起訴ヲ待タサルヲ得ス然レモ是レ恰カモ河清ヲ待ツト一般或ハ其期ナクシテ爲メニ私訴ノ時効ヲ來タシ遂ニ私訴ヲ起スト能ハサルニ至ルモ未タ知ルヘカラス又縱令ヒ檢事カ公訴ヲ起シタリトスルモ豫審判事ニ於テ免訴ノ決定ヲ爲ス時ハ復タ刑事公判ノ判決アルヲ得サルヲ以テ亦私訴ノ判決ヲ得ルニ由ナシ果シテ斯ノ如クンハ被害者ハ何ニ依テ其權利ヲ行ヒ得可キ乎實ニ不幸ノ極ト謂フ可シ此故ニ公訴ノ未タ起ラサル前ト雖モ民事裁判所ニ私訴ノ判決ヲ爲ストヲ許サ、ルヲ得ルナリ

之ヲ要スルニ公訴ノ判決ニシテ其勢力ヲ私訴ノ判決ニ及ホサ、ルヘカラサルヲハ公安ニ關スル理由アルニ由ル但其勢力ヲ及ホスヘキハ公判ノ判決ノミニシテ豫審ノ決定ハ決シテ然ラス蓋豫審ニ於ケル審査ノ性質タル公判ノ審査トハ全ク其趣ヲ異ニシ十分ニ被告人ヲ保護スルノ方法ヲ與ヘス其決定ト雖モ新證據ノ現出スルマテ假リニ効力ヲ有スルニ過キス故ニ豫審ニ於テ免訴ノ決定ヲ爲シタル後私訴ノ民事裁判所ニ起リタル時ハ民事裁判所ハ豫審ノ決定ニ反對セル判決ヲ爲スヲ得可シ何トナレハ民事裁判所ハ刑事公判ノ審査ト同ク對質辯論等共ニ公然タル方法ニ依リ精密ニ事件ヲ審査シタル後判決ヲ下ス者ナレハナリ然レモ豫審ノ決定ノ効力ニシテ民事裁判所ニ及フ者全ク之ナシト謂フヲ得ス例ヘハ公訴私訴ノ刑事裁判所及ヒ民事裁判所ニ并起シタル時ニ際シ豫審ニ於テ免訴ノ決定ヲ爲シタル時ハ民事裁判所ハ從テ損害賠償ヲ言渡スニ至ル可ケレハナリ

公訴ノ判決ニ其効力ヲ及ホスヘキモノトスルニ付テハ  
自ツカラ制限アリ即チ左ノ三箇ノ事項ニ限ルモノトス  
第一 公訴私訴ノ原因ニ普通ナル所爲ノ成立若クハ不成立  
刑事裁判所ニ於テ公訴ノ原因タル所爲成立スト判決シタルキハ民事  
裁判所ニ於テモ其所爲成立スルモノト決定セサル可ラス其不成立ト  
判決シタルキ亦此例ニ從フ  
第二 所爲ノ名稱  
例ヘハ刑事裁判所ニ於テ詐欺取財若クハ竊盜ノ名稱ヲ言渡シタル時  
ハ民事裁判所ハ之ニ異ナリタル名稱ヲ以テ判決ヲ爲スコトヲ得ス  
第三 被告人ノ有罪若クハ無罪  
刑事裁判所ニ於テ被告人ハ有罪ナリト判決スル時ハ民事裁判所ニ於  
テ被告人ハ罪人ニ非スト判決スルコトヲ得サルナリ  
右三箇ノ事項ニ付テハ民事裁判所ヨリ看ル時ハ刑事裁判所ノ判決ハ

全ク事實ニ適スル者ト爲スヲ以テ別ニ之レカ審査ヲ爲スニ及ハサル  
ナリ但此場合ニ於テ其賠償額ヲ定ムル等凡ソ刑事裁判所ノ判決ヨリ  
生スヘキ民事上ノ結果ヲ推定スルハ即チ特リ民事裁判所ノ職掌ナリ  
トス

刑事裁判所ノ判決中其所爲ノ成立不成立若クハ有罪無罪ノ點ニ付テ  
ハ事實及ヒ法律ニ依リ其理由ヲ付スルヲ以テ民事裁判所ハ容易ニ其  
事ノ民事ノ判決上ニ關係スル所ヲ了知スルヲ得可シ故ニ被告人若シ  
犯人ナリト認メラレタル時ハ其理由ノ如何ヲ問ハス民事裁判所ハ之  
ヲ以テ適實ノモノト爲シ其罪視セラレタル所爲ヨリ生シタル損害ニ  
付キ之レカ賠償ノ言渡ヲ爲サル可ラス又刑事裁判所ニ於テ所爲ノ  
成立セサルコト若クハ被告人ノ人違ナルコトヲ言渡シタル時ハ民事裁判  
所ハ之ヲ適實ノ者ト爲シ私訴ヲ却下セサル可ラス然レモ刑事裁判所  
ニ於テ單ニ故意ノ條件ヲ欠クヲ以テ其罪ノ成立セサルコト或ハ其所爲

ノ法律ニ於テ罰セサルコト又ハ犯罪ノ證據充分ナラサル等ノ理由ヲ以テ無罪ノ判決ヲ爲シタル時ハ民事裁判所ハ現ニ生シタル損害ノ賠償ヲ言渡スヲ得ヘキナリ故ニ例ヘハ刑事裁判所ニ於テ詐僞取財トシテ受理シタル事件ニ付其所爲ハ詐僞取財ニ必要ナル條件ヲ具備セストノ理由ヲ以テ無罪ノ言渡ヲ爲シタリトセンニ民事原告人ハ其後民事裁判所ニ於テ其所爲ノ自己ニ損害ヲ與ヘタルコトヲ證明シ其賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘク又民事裁判所ニ於テ其請求ヲ至當ナリトスル時ハ被告人ニ對シテ其賠償ヲ言渡スコトヲ得可シ

以上論スル所ヲ以テ確定判決ノ公訴權私訴權ヲ消滅セシムル所以ニ、公訴ノ確定判決ノ勢力ヲ私訴ノ判決ニ及ホス所以ニ及ヒ私訴ノ確定判決ノ勢力ヲ公訴ノ判決ニ及ホサル所以ニ詳悉シタリ之ヲ要スルニ公訴私訴ノ別ナク一旦判決ノ確定シタル以上ハ縱使ヒ爾後其事件ト同一ナル事件(原因目的原被告人ノ同一ナル事件)ニ付キ訴ノ起ル

コアルモ被告人若クハ其關係人ヨリ前ノ確定判決ヲ申立テ新ニ起リタル訴ヲ棄却セシムルコトヲ得可キノミナラス裁判所モ亦前ニ確定判決アリシコトヲ認ムル時ハ必ス職權ヲ以テ之ヲ棄却セサル可ラス而シテ其申立ハ第一審第二審及ヒ上告ノ場合ニ論ナク之ヲ爲スヲ得ヘク又豫審ニ於テモ之ヲ申立ルヲ得ルヤ言テ竣タス若シ被告人若クハ其關係人ニ於テ之カ申立ヲ爲スコトナク又判事檢事モ之ヲ認知セスシテ終ニ第二ノ確定判決アルニ至リ同一事件ニ付キ齟齬シタル二個ノ判決ヲ來タスコト實際或ハ之レ無キニ非ス然レモ此場合ニ於テハ其之ヲ取消スニ付テノ利益ヲ有スル者ハ何時タリモ之カ取消ヲ訴フルコトヲ得可シ其然ル所以ノモノハ他ナシ蓋第二ノ判決ハ爲ス可ラサルニ之ヲ爲シタル者ナレハ其刑ノ言渡ヲ爲シタルト無罪若クハ免訴ノ言渡ヲ爲シタルトニ別ナク法律上固ヨリ其効力ヲ有スヘカラサルモノタルニ由ル故ニ良シヤ第一ノ判決ハ被告人ニ不利ニシテ第二ノ判決ハ

被告ノ利益ナル場合ト雖モ其論決ニ至テハ固ヨリ同一ナルカ故ニ被告人ハ第二ノ判決ノ執行ヲ請求シテ第一ノ判決ノ取消ヲ請求スルヲ得ス必ス第一ノ判決ノ執行ヲ受ケサル可ラス但第一ノ判決ニ付キ再審ノ訴ヲ爲ス可キ原因アリテ之レカ取消ヲ請求スル場合ノ如キハ固ヨリ右ニ論スル限リニ在ラサルナリ

又豫審ニ於ケル免訴ノ決定確定シタル時ハ新ナル證憑ノ現出スルニ非サレハ再ヒ同一事件ニ付キ公訴ヲ起スヲ得サル者トス然レモ元來豫審ノ決定ハ新ナル證憑ノ現出スルヲ以テ一箇未必ノ條件トナシ假ニ効力ヲ有スルモノナレハ其條件到來シテ新ナル證憑ノ現出スル時ハ再ヒ公訴ヲ起スヲ得ヘキヲ勿論ナリ但例外トシテ眞ノ効力ヲ有スル場合アリ即チ證憑ノ有無ヲ理由トセスシテ免訴ノ決定ヲ爲シタル時例ヘハ其事件ニ付前既ニ確定判決アルノ理由ヲ付シテ免訴ノ決定ヲ爲シタル時ノ如キ是ナリ其他豫審ニ於テ被告事件ヲ公判ニ移スノ

決定ノ如キハ縱令ヒ確定スルト雖モ公訴消滅ノ問題ニ毫モ關係スル所ナシ何トナレハ其決定ハ元來勢力ヲ公判ノ判決ニ及ホス可キモノニ非ス即チ公判ニ於テハ有罪ノ言渡ヲ爲サスシテ無罪ノ言渡ヲ爲スヲ得ルヤ固ヨリ其自由ナレハナリ

又民事裁判所ニ於テ爲シタル私訴ノ確定判決ハ毫モ其勢力ヲ公訴ノ判決ニ及ホサス故ニ公訴ノ判事ハ前ニ爲シタル私訴ノ判決ニ反對セラル判決ヲ爲スヲ得可シ(但民事裁判所ニ於テ豫決ス可キ事件ニ付テハ例外アリ)之ニ反シテ公訴ノ確定判決ハ其勢力ヲ私訴ノ判決ニ及ホスモノナルヲ余カ既ニ説示シタル所ノ如シ(但其勢力ヲ及ホス事項ニ付テハ自ツカラ制限アリ)又公訴ノ判決ト雖モ豫審ノ決定ハ毫モ其勢力ヲ私訴ノ判決ニ及ホサ、ルモノナルカ故ニ非除ヤ豫審ニ於テ免訴ノ決定ヲ爲シタル場合ト雖モ民事裁判所ハ固ヨリ損害賠償ノ言渡ヲ爲スヲ得可キモノトス

私訴消滅ノ第二ノ理由ハ時効ナリ而シテ時効ハ公訴消滅ノ理由トモナルコ余前ニ公訴消滅ノ事ヲ論スルニ方リ一言セリ當時其詳細ヲ盡サ、リシハ茲ニ之ヲ併論センカ爲メナリシナリ

刑ノ時効  
及ヒ公訴  
解ノ時効  
ノ時効

抑刑事上時効ニ二種アリ第一刑ノ時効第二公訴ノ時効是ナリ而シテ刑ノ時効即チ期滿免除ハ犯罪人刑ノ言渡ヲ受ケタル後若干ノ時間其刑ノ執行ヲ遁ル、ニ因リ生スルモノニシテ要スルニ刑ノ執行權ヲ消滅セシムルモノトス然ルニ公訴ノ時効ハ犯罪ノ所爲アル者ニ對シ若干ノ年間公訴ヲ起サ、ルニ因リ生スルモノニシテ要スルニ公訴ノ實行權ヲ消滅セシムルモノトス然リ而シテ刑ノ時効ニ付テハ刑法ノ論題ニ属スルヲ以テ此ニハ唯公訴ノ時効ニ付テノミ論究セントス抑公訴時効ノ法制タル犯罪ノ所爲アリタル時ヨリ若干ノ年間ヲ經過スルニ因リ之ニ對スル公訴ノ實行權ヲ消滅セシメ犯罪人ヲ罰スルヲ得サラシムルモノニシテ一見人ヲシテ奇怪ノ想ヲ生セシムルコトナ

公訴權時  
効ニ因リ  
消滅スル  
理由

シトヒス今乞フ其理由ヲ左ニ述ヘン

凡ソ法律ヲ犯ス者アルニ方リ經久ノ年間之ニ對シテ公訴ヲ起サス又ハ一タヒ公訴ヲ起スモ之ヲ繼續セシテ若干ノ月日ヲ經過スル時ハ社會公衆ハ漸次犯罪ヲ遺忘シ遂ニ念頭ニ記セサルニ至ルヘシ然ルヲ尙ホ其罪ヲ訴ヘ犯人ヲ罰スルカ如キハ是レ恰モ社會公權ノ無力ニシテ且不完全ナルコトヲ公示スルニ異ナラス加之ナラス其經久ノ年間其者ニ對シ他ノ公訴起ラサリシハ是レ即チ其犯罪者カ自己ノ惡所爲ヲ悔悟シ再ヒ罪ヲ犯サス能ク法律ヲ遵守シタルコトヲ證スルニ足ルモノナリ此等ノ理由アルニ拘ハラヌ故ラニ之ヲ罰スルカ如キハ有害無益ニシテ寧ロ苛酷ニ失スルモノト謂フ可シ是レ歐洲諸國ノ法律ニシテ公訴時効ノ制ヲ設ケサルモノナキ所以ナリ

公訴ノ時効ト民事ノ時効トハ全ク其理由ヲ異ニセリ民事ノ時効ハ主トシテ原告人ノ懈怠ヲ警シムルニ在リ即チ原告人ノ已ニ久ク訴ヲ可

キノ權利アルニ之ヲ等閑ニ付シ數年ノ後ニ至リ之ヲ訴フルカ如キアラハ原被互ニ證據ヲ亡失シ裁判上甚タ困難ヲ來スヲ以テ成ル可ク速ニ出訴セシメント欲スルニ出ツ然ルニ公訴ノ時効ハ決シテ檢事ノ懈怠ヲ警シメタルモノニ非スシテ唯公訴ヲ起スモ其目的タル刑罰ヲ科スルノ必要ナキノミナラス徒ラニ公權ノ無力ニシテ且不完全ナルヲ表示スルニ異ナラサルニ由ルナリ

犯罪ヲ原因トシテ損害ノ賠償ヲ求ムル所ノ私訴權モ亦公訴ノ時効ニ等シキ時日ノ經過ニ因リ消滅スルモノトス故ニ時効ニ付テハ私訴ハ公訴ト運命ヲ共ニスルモノト謂フ可シ尙ホ其理由ノ如キハ後ニ至テ詳説セシ

前段己ニ述ヘタルカ如ク抑公訴ノ時効ハ被告人ノ利益ノ爲メニ設ケタルニ非スシテ要社會公益ノ爲メニ設ケラレタルモノナレハ所謂公ケノ秩序ニ關スル規定ナリトス故ニ被告人ニ於テ曾テ公訴時効ノ發

生シタルヲ知ラサル時ト雖モ亦其利益ヲ享クルハ勿論又自カラ時効ノ利益ヲ享クルヲ欲セサル時ト雖モ尙ホ之ヲ享クヘキモノトス故ニ公訴ノ實行中被告人關係人ヨリ時効ノ申立ヲ爲サスト雖モ若シ其期間ヲ經過セシ者ナル時ハ裁判所ハ職權ヲ以テ公訴ヲ棄却セサル可ラス

時効ノ期間

公訴時効ノ期間ハ本法第八條ニ於テ犯罪ノ種類ニ依リ分テ三種トス即チ違警罪ハ六月輕罪ハ三年重罪ハ十年ナリ而シテ其私訴ニ於ケルヤ亦其原因タル犯罪ノ種類ニ照應シテ六月三年若クハ十年ナリトス

第九條 私訴時効ハ被害者無能力ナルトキ又ハ公訴ニ附帶セシシテ其訴ヲ爲シタルトキト雖モ公訴ノ時効ト其期間ヲ同クス  
公訴ニ付キ既ニ刑ノ言渡アリタルトキハ民法ニ定メタル時効ノ例ニ從フ

私訴ニ付キ第九條ニ於テ殊更ニ公訴ニ附帶セシテ其訴ヲ爲シタル

トキト雖凡云々ト記載シタルハ唯リ民事裁判所ニ私訴ヲ爲シタル場  
 合ニ於テ其時効ニ關スル疑ヲ生セサラシメンカ爲メノミナラス刑事  
 裁判所ニ私訴ヲ爲ス時ハ既ニ述ヘタルカ如ク時効ニ付キ私訴ハ公訴  
 ト運命ヲ共ニスルモノタルヲ暗ニ示スニ在ルナリ  
 公訴時効ノ法制ハ固ヨリ公益上ノ理由ニ基クモノナリト雖凡其期間  
 ノ長短ニ至テハ法理上一定ノ標準ナキヲ以テ立法者ハ適宜ニ之ヲ定  
 ムルヲ得ヘシ是故ニ各國其期間ノ長短ヲ同クセス佛國古昔ノ法律  
 ニ在テハ時効ヲ得可ラサルノ犯罪アリタリキ又奧國ノ法律ハ現今ト  
 雖凡死刑ニ該レル犯罪ニ付テハ尙ホ時効ヲ許サ、ルヲト爲シ而シテ  
 其無期刑ニ該レル犯罪ニ付テハ二十年ヲ以テ時効ノ期間トセリ又獨  
 逸ニ於テハ死刑ニ該レル重罪ニ付テハ二十年其他ノ重罪ニ付テハ十  
 五年伊太利ニ於テハ總テノ重罪ニ付キ二十年又米國ニ於テハ死刑ヲ  
 除クノ外總テノ重罪ハ皆三年ヲ以テ時効ノ期間ト爲スト云フ佛國ニ

犯罪ノ種類  
 種類ニ因リ  
 時効ノ長短期  
 時効ノ長短期  
 理由ニ由リ

於テハ重罪輕罪ニ付テハ本法ニ規定スル所ト同一ナルモ獨リ違警罪  
 ニ付テハ之ヲ一年ト爲セリ舊治罪法及ヒ本法ニ於テ違警罪ノ公訴時  
 効ヲ六月ト定メタリシハ蓋白耳義ノ法律ニ定メタル期間ヲ採リシモ  
 ノナラン歟  
 犯罪ノ種類ニ因リ公訴ノ時効ニ長短アルヲハ公訴時効ヲ設定シタル  
 理由ニ照シテ明カナリ蓋其罪重キ者ハ社會ヲ害スルヲ大ナルヲ以テ  
 從テ公衆ノ記念ニ存スルヲモ亦實際久シカラサルヲ得スト雖凡其罪  
 輕キ者ハ社會ヲ害スルヲ小ナルヲ以テ從テ公衆ノ記念ニ存スルヲモ  
 亦其罪重キモノニ比シテ短カ、ルヘキヲ勿論ナリ是レ重罪ノ公訴時  
 効ハ輕罪ヨリ期間長ク輕罪ノ公訴時効ハ違警罪ヨリ期間長キ所以ナ  
 リ又公訴ノ時効ハ刑ノ時効ニ比スレハ總テ其期間短シ是レ既ニ刑ノ  
 言渡ヲ受ケタル者ハ公衆ノ記念ニ存スルヲ永キヲ以テ理固ヨリ當ニ  
 然ルヘキ所ナリ

犯罪ノ種類ニ依リ公訴時効ノ期間ニ長短ノ差等アルヲ本法第八條ニ規定シタルカ如ク然リ然レモ此ニ所謂犯罪ノ種類即チ重罪輕罪違警罪トハ如何ナル罪ノ謂ナル乎蓋違警罪ニ付テハ刑法第四編ニ於テ一括ノ規定シアルカ故ニ之ヲ知ルノ容易ナリト雖モ重罪輕罪ニ至テハ刑法第二編及ヒ第三編ニ於テ各所ニ散在スルカ故ニ其所爲ノ重罪タルヤ將タ輕罪タルヤヲ知ラント欲セハ須ラク先ツ其所爲ヲ罰スル所ノ刑ヲ穿鑿セサル可ラス刑ヲ穿鑿セント欲セハ則チ結局刑法第二編及ヒ第三編ニ定ムル所ノ各本條ニ依ラサルヲ得ス而シテ其各本條ニ定ムル所ノ刑ノ種類ヲ見テ此ニ始メテ其重罪タリ輕罪タルヲ知了ス可キナリ然リト雖モ尙ホ茲ニ一ノ困難ヲ生スルヲナキニアラス凡ソ犯罪ハ加重減輕ノ情狀ヲ有スル者最モ多シトス宥恕減輕自首減輕再犯加重ノ類ノ如キ是ナリ故ニ始メ本條ニ定ムル所ニ依リ重罪ノ刑ニ該ル者ト雖モ減シテ輕罪ノ刑ト爲リ輕罪ノ刑ニ該ル者ト雖モ減シテ違警

罪ノ刑ト爲ルヲアリ夫レ本法第八條ニ於テ重罪輕罪違警罪ト稱スルモノハ則チ直チニ各本條ニ規定シタル所ノ刑ニ於テ之ヲ定ム可キ乎或ハ減輕シタル後チ實際本犯ニ科スヘキ所ノ刑ニ依テ之ヲ定ム可キ乎但違警罪ノ刑ヲ加ヘテ輕罪ノ刑ト爲シ輕罪ノ刑ヲ加ヘテ重罪ノ刑ト爲スヲハ刑法第七十條及第七十二條ニ於テ之ヲ許サ、ルカ故ニ其加重ノ場合ニ於テハ曾テ此等ノ疑問ヲ生スルヲナシト雖モ然カモ其減輕スヘキ場合ニ在テハ實際此等ノ問題ヲ惹起スルヲ固ヨリ之レアルヘキナリ

蓋此問題タル佛國ニ於テモ屢々生出スル所ニシテ學者間各其說ヲ同クセス

第一說

第一說ニ曰ク凡ソ罪ノ種類ヲ定ムルニハ實際本犯ニ科スル所ノ刑ニ依ル可キモノニシテ法律上ノ減輕ハ勿論縱令ヒ裁判上ノ減輕ニ係ル酌量減輕ト雖モ之ニ因テ重罪ノ刑ヲ輕罪ノ刑ト爲シ輕罪ノ刑ヲ違警



罪ノ刑ト爲シタル時ハ即チ其減輕シタル所ノ刑ニ依リ輕罪又ハ違警罪トシテ其公訴時効ノ期間ヲ定ムヘキナリト

第二說

第二說ニ曰ク宥恕減輕ノ如キ法律上ノ減輕ハ之ヲ減等シテ現ニ生スヘキ刑ニ依リ重罪輕罪違警罪ヲ定ム可キモノナレモ裁判上ノ減輕ニ於ケル酌量減輕ニ至テハ元來判事ノ隨意ニ一任シタルモノナレハ實際之ニ依テ罪ノ種類ヲ定ムルヲ得ス故ニ酌量減輕ノ情狀ノミ存スル場合ハ各本條ニ定ムル所ノ刑ニ依リ其罪ノ種類ヲ定メ以テ公訴時効ノ期間ヲ定ム可シト

第三說

第三說ニ曰ク如何ナル減輕タルヲ問ハス各本條ニ規定スル所ノ刑ニ依リ罪ノ種類ヲ定ム可シト

各說ノ理由

第一說ノ理由トスル所ハ凡ソ犯罪ハ種々ノ情狀ヲ併有スルモノニシテ一見其罪ノ種類ヲ定メ難シ故ニ種々ノ情狀ヲ穿鑿シ結局其科スヘキ所ノ刑ニ依リ始メテ罪ノ種類ヲ知ル可キモノナレハ今時効ノ期間

ヲ定ムルニ付テモ亦結局本犯ニ科ス可キ所ノ刑ニ依ラサルヲ得ス故ニ其刑ニシテ重罪ノ刑ナレハ則チ十年ニシテ時効ヲ得可ク又其刑ニシテ輕罪ノ刑ナレハ則チ三年ニシテ時効ヲ得可キモノナリト謂フニ在リ又第二說ノ理由トスル所ハ凡ソ法律上ノ減輕ヲ設ケタル所以ハ犯罪ノ性質元來輕キカ故ナリ例ヘハ幼者ノ犯罪ノ如シ故ニ法律上ノ減輕ヲ爲ス可キ場合ハ犯罪ノ本質ヲ變スルモノニシテ其減輕ヲ爲シタル後始メテ眞ノ性質ヲ知ル可キナリ然ルニ酌量減輕ノ如キハ元ト判事ノ隨意ニ取捨ス可キモノニシテ之レカ爲メ犯罪ノ性質ヲ變更スルモノニ非ス然レハ法律上ノ減輕ノ場合ト裁判上ノ減輕ノ場合トニ從ヒ時効ニ關スル犯罪ノ種類ヲ定ムルノ方法ヲ異ニセサルヘカラサルヲ勿論ナリト謂フニ在リ而シテ第三說ハ則チ余カ本法第八條ノ解釋ニ付キ有スル所ノ主說ト同一ナルヲ以テ之ヲ左ニ詳説スヘシ  
凡ソ法律上ノ減輕ト裁判上ノ減輕トニ拘ハラズ各本條ニ定ムル所ノ

刑ニ據リ罪ノ種類ヲ定メ以テ公訴時効ノ期間ヲ見ル可キ者トスルハ則チ第三説ノ採ル所ニシテ又余カ是認スル所ナリ但彼ノ刑法第九十九條ニ定メタルカ如ク從犯及ヒ未遂犯ノ減等其他各本條ニ記載スル特別ノ加重減輕ハ其加減シタルモノヲ以テ各本刑ト爲スカ故ニ是等ノ減輕ニ係ル時ハ其減輕ニ依テ生シタル刑ニ據リ罪ノ種類ヲ定ム可キハ勿論ナリトス故ニ例ヘハ從犯ノ減等ニ依リ重罪ヲ減輕シテ輕罪ト爲シタル時ハ其減輕シタル輕罪ヲ以テ本刑ト爲ス可キニ付キ即チ其公訴時効ノ期間ハ三年ナリトス然ルニ夫ノ宥恕減輕自首減輕酌量減輕ノ如キハ只タ縱カニ其情狀ヲ動カスニ足ルノミ之ヲ以テ犯罪ノ本質ヲ變スルモノニ非サレハ假令ヒ此等ノ減等ニ依リ生シタル所ノ刑ハ輕罪ナルモ其本刑ノ重罪ナル時ハ則チ其公訴時効ノ期間ハ十年ナリト決セサル可ラス

會テ刑法講義ニ於テ詳説シタルカ如ク宥恕減輕自首減輕酌量減輕等

ニ因リ生シタル刑ヲ以テ其犯罪ノ本刑ト爲サルハ抑此等減等ノ情狀タル犯罪ノ成立ニ付キ密接ノ關係ヲ有スルモノニ非サルヲ以テ從テ犯罪ノ本質ニ變更ヲ生セシメサルニ由ル例ヘハ二十歳未滿ノ甲者ニ於テ阿片烟ヲ吸食スル爲メ房屋ヲ給與シ利ヲ圖リタリトセンニ此犯罪ハ元來刑法第二百四十條ヲ適用シテ輕懲役ニ處スヘキ者ナルモ未丁年ノ故ヲ以テ更ニ刑法第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ重禁錮ニ處セサル可ラス其本刑ハ元ト重罪ナルモ減輕シテ生シタルモノハ即チ輕罪ナリ去レハ此場合ニ於テ甲者ノ犯罪ハ即チ輕罪ナリト謂フヲ得可キ乎其犯罪ノ所爲ハ元來重罪ノ所爲ナルモ未丁年者タルノ故ヲ以テ犯罪ノ本質ヲ變更シ更ニ輕罪トナリタリト謂フヲ得可キ乎犯法ノ所爲ヲ行ヒ社會ノ公益ヲ害シタル點ニ付テハ丁年者ノ犯シタル時ト固ヨリ異ナル所ナシ即チ犯罪成立ノ要件ヲ具備シタルモノナレハ之ヲ重罪犯ト謂ハスシテ可ナランヤ然リ而シテ法律上其刑ヲ

減輕スル所以ノモ、ハ他ナシ未丁年者ハ智識ノ發達未タ充分ナラサル者ト推測スルニ由ルノミ焉ソ之ヲ以テ罪ノ本質ヲ變シタリト謂フヲ得ンヤ況ンヤ自首減輕酌量減輕ニ於テチャ故ニ此等ノ減等ハ到底本刑ヲ動カスニ足ラサルモノト決定セサル可ラス

宥恕減輕、自首減輕、酌量減輕ノ情狀ハ犯罪ノ本質ニ影響ヲ及ホスモノニ非サル、前段既ニ論述シタル所ノ如シ故ニ此等ノ理由ハ以テ公訴時効ノ期間ヲ定ムル所ノ罪ノ種類ニ關係ヲ有セサル、コトヲ知ルニ足ル可シ奈何トナレハ其犯法ノ所爲ヲ行ヒ社會ヲ害シタル點ニ付テハ此等減輕ノ情狀ナキ者ト敢テ徑庭スル所ナキカ故ニ社會公衆ノ之ヲ念頭ニ記憶スルヤ亦其度ヲ同クス可キ、コト固ヨリ論ヲ竣タス即チ犯罪ノ遺忘ニ基ク所ノ公訴ノ時効モ亦其期間ヲ同一ニス可ク此等ノ減輕ニ因テ之レカ差異ヲ生ス可キノ道理ナケレハナリ之ヲ要スルニ公訴時効ノ期間ハ罪ノ本質ニ因テ定ム可ク其減輕シテ生スル所ノ刑ニ因リ

時効ノ期間起算法

罪ノ種類ヲ定ム可ラサルナリ

本法第九條ニ關シ尙ホ講説ス可キコトナキニアラサレモ姑ク之ヲ次段ニ譲リ以下公訴時効ノ期間起算ニ關スル事項ヲ論究ス可シト

夫レ公訴ト私訴トハ時効ノ期間ヲ同クスルノミナラス其期間起算ノ方法ニ至テモ亦全ク同一ナリトス

第十條 公訴私訴ノ時効ハ犯罪ノ日ヨリ其期間ヲ起算ス但繼續犯ニ付テハ其最終ノ日ヨリ起算ス

本條ノ規定ニ據レハ時効即チ十年三年六月ノ期間ハ總テ犯罪ノ日即チ犯罪終了ノ日ヨリ起算スルモノト爲セリ

此起算ノ方法ハ歐洲諸國ノ法律皆同一ナリ蓋此規定タル當ニ被告人ニ利アルノミナラス道理上宜シク然ラサルヲ得サルモノアリ何ソヤ犯罪ノアリタル日ニ於テ既ニ起訴ノ權ヲ生シ且實際其日ヨリ起訴スルヲ得ヘケレハナリ佛國ニ於テハ此明文ナキヲ以テ或ハ犯罪ノ翌日

ヨリ起算スヘシト論スル者アリ又千七百九十一年ニ頒布シタル刑法ニ於テハ時効ノ期間ハ犯罪ノ發覺シタル日ヨリ起算スル旨ヲ定メタリト雖モ而カモ是レ時効ヲ制定シタル本旨ニ背戾スルモノト謂フ可キナリ

繼續犯罪ニ付テハ本條但書ニ特定セルカ如ク最終ノ日ヨリ起算スルソ繼續犯ナルモノハ曾テ刑法講義ニ於テ詳論シタルカ如キ犯罪ノ所爲若干時間繼續スルモノニシテ例ヘハ一揆内亂ノ罪、度量衡偽造ノ罪、浮浪ノ罪、人ヲ監禁スル罪等ノ如シ蓋シ此等ノ犯罪ハ間斷ナク繼續スルモノナルカ故ニ其最終ノ日ト雖モ尙ホ犯罪ノ日ニ外ナラサルヲ以テ即チ最終ノ日ヨリ時効ノ期間ヲ起算スルハ固ヨリ至當ナル可シ

又所謂連續犯即チ犯罪ノ多少時間ヲ隔テ、累行セル者例ヘハ禁制物賣買ノ罪、乞丐ノ罪ノ如キハ前段論スル所ノモノトハ稍、其趣ヲ異ニセリ乃チ繼續犯ニ付テハ終始一所爲ト看做スト雖モ連續犯ハ則チ然ラ

ス同一ノ所爲ヲ累行セルモノニシテ終始一所爲ト謂フヲ得ス此ヲ以テ連續犯ハ一所爲毎ニ更ニ其時効ノ期間ヲ起算ス可キモノトス故ニ其犯罪ノ所爲中登初ノ二三ハ既ニ時効ヲ得タルニ拘ラス最終ニ近キ二三ノ所爲ハ未タ時効ヲ得サルカ如キ場合ヲ現出スルヲ固ヨリアル可キナリ

此犯罪ノ日ヨリ時効ノ期間ヲ起算スル法制ハ即チ普通ノ期間計算方ニ例外ヲ爲スモノナリ本法第十五條ハ即チ其普通ノ計算方ヲ示スモノニシテ總テ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セサルヲ原則ト爲セリ而シテ獨リ時効ノ期間起算方ニ付キ此例外ヲ設ケタル所以ハ前既ニ示シタルカ如ク犯罪ノ當日ヨリ起訴權ヲ生シ且實際其日ヨリ起訴スルヲ得ルニ由ルナリ

時効ノ中斷

時効ノ期間ハ犯罪ノ日ヨリ起算スルヲ及ヒ其理由ハ業已ニ之ヲ述ヘタリ而シテ又此ニ時効ニ關シテハ期間ノ經過ヲ中斷スル手續即チ既

ニ經過シタル期間ヲシテ空無ニ歸セシムルノ手續アリ若シ此中斷ノ手續アリタル時ハ則チ其手續ノ最終ノ日ヨリ更ニ期間ヲ起算スルモノトス例ヘハ重罪ヲ犯シタル者ニ對シ其犯罪ノ日ヨリ五年ヲ經過シタル後ヲ始メテ此中斷ノ手續アリタル時ハ已ニ經過シタル五年ノ期間ハ被告人ノ爲メ全ク無益ニ屬シ更ニ中斷手續ノ終リタル日ヨリ十年ヲ經過セサレハ以テ時効ノ利益ヲ受クルコト能ハサルモノトス蓋其中斷ノ手續トハ社會カ尙ホ未タ犯罪ヲ遺忘セサルコトヲ表示スル所ノ法律上ノ手續ニシテ則チ第十一條ニ規定シタルモノ是ナリ

第十一條 時効ハ起訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ス其未タ發覺セサル正犯從犯及ヒ民事擔當人ニ付テモ亦同シ

時効ノ經過ヲ中斷シタルトキハ起訴豫審又ハ公判ノ手續ヲ止メタル日ヨリ更ニ其期間ヲ起算ス

夫レ時効ノ中斷ハ本條第一項ニ掲ケタルカ如ク起訴ノ手續ヲ爲シタルニ因リ又ハ豫審若クハ公判ノ手續アリタルニ因テ行ハル、モノトス而シテ此中斷ニ付テモ亦公訴ト私訴トハ其運命ヲ共ニスルヲ以テ公訴ニ付キ時効ノ期間中斷セラレタル時ハ則チ私訴ニ付テモ又齊シク其期間ヲ中斷シ又私訴ニ付キ時効ノ期間中斷セラレタル時ハ則チ公訴時効ノ期間モ亦齊シク中斷セラレタル者トス然レモ被害者私訴ヲ民事裁判所ニ起シタル時ハ公訴時効ノ期間ヲ中斷スルコトナシ何トナレハ本條ニ所謂起訴云々トハ即チ刑事裁判所ニ起訴云々ノ趣旨ナルコト勿論ナレハナリ

又本條ニハ起訴云々手續アリタルニ因リ其期間ノ經過ヲ中斷ストアルヲ以テ之ヲ視レハ凡ソ時効ノ經過ヲ中斷スルニハ少クモ公訴ノ提起アルヲ必要トス故ニ檢事ヨリ公訴ヲ起シタル場合ニ於テハ時効ノ期間ヲ中斷スルコトヲ得可シト雖モ若シ檢事カ某々事件ニ付テハ他日

時効ノ期間中斷スルニハ公訴ノ提起アルヲ要ス

證憑ノ現出スルヲ待テ公訴ヲ起スヘシト裁判所ニ陳告シテ公訴權ヲ  
 貯存スルカ如キ又ハ被害者若クハ親屬ノ告訴アリタルカ又ハ他人ノ  
 告發アリタル場合ノ如キハ公訴ノ提起ニ非サルカ故ニ未タ以テ期間  
 經過ヲ中斷スル効ヲ生スルニ足ラサルナリ  
 豫審ニ於テ犯罪事件ノ事實發見ノ爲メ證人訊問、家宅搜索、物件差押等  
 ノ手續ヲ爲シタル時又ハ公判ニ於テ此等ノ手續ヲ爲シタル時ノ如キ  
 ハ則チ時効ノ期間ヲ中斷スルヤ言フ俟タスト雖モ而カモ此等ノ手續  
 ヲシテ能ク中斷ノ効ヲ生セシメンニハ必ス其手續ノ規則ニ適スルモ  
 ノタルヲ要ス若シ其手續ニシテ管轄違ナル官吏ノ爲シタル者ナル時  
 若クハ其手續ノ法式ニ背キタル時ノ如キハ固ヨリ中斷ノ効ヲ生スル  
 コナシ其之ヲ見定シタル正條ハ即チ左ノ如シ

時効中斷  
 ノ手續法  
 式ニ背キ  
 タルハト

第十二條 起訴豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルニ因リ無効  
 ニ属スルトキハ時効ノ經過ヲ中斷スル効ナカル可シ但裁判所ノ

裁判所ノ  
 管轄違ナ  
 ルハトニ  
 ハルハ上  
 差ハアリ  
 其理由

管轄違ナルニ因リ其手續ノ無効ニ属スルトキハ此限ニ在ラス  
 故ニ例ヘハ犯罪地ノ檢事若クハ被告人逮捕地ノ檢事ニ於テ起訴ノ手  
 續ヲ爲シタル時ハ皆管轄官吏ノ爲シタル手續ニ係ルヲ以テ時効ノ經  
 過ヲ中斷スル効ヲ生ス可シト雖モ然カモ被告人ノ犯罪地ニモ非ス又  
 逮捕地ニモ非サル地ノ檢事ヨリ起訴ノ手續ヲ爲シタル時(起訴ノ手續  
 不規則ナル例)又ハ檢事ニ於テ非現行犯罪ニ付キ豫審判事ノ爲ス可キ  
 手續例ヘハ家宅搜索ノ處分ヲ爲シタル時(豫審ノ手續不規則ナル例)又  
 ハ裁判所ニ於テ檢事ノ起訴ナキニ被告人ニ對シ呼出狀ヲ發シタル時  
 (公判ノ手續不規則ナル例)ノ如キ總テ其手續ハ無効ニ属ス可キモノナ  
 ルヲ以テ中斷ノ効ヲ生スルコト無シ其他召喚狀勾引狀勾留狀及ヒ檢証  
 調書訊問調書等ノ法律ニ規定シタル主要ノ法式ニ依準セサル時ノ如  
 キモ亦其規定ニ背キタルニ因リ無効ニ属ス可キ者ナルヲ以テ是レ亦  
 中斷ノ効ヲ生スルコト無シ

然レモ前述ノ手續其規定ニ適合スル以上ハ裁判所ノ管轄違ナルコトハ  
毫モ中斷ノ効力ヲ生スルニ妨ケナキモノトス  
此規定即チ適法ノ手續ヲ爲シタルルハ縦令ヒ裁判所ハ管轄違ナルル  
ト雖モ期間ヲ中斷スル効アリトスル規定ハ民事ノ時効ニ於テモ亦之  
アリ即チ民法證據編第百十一條ニ記載スル所タリ然レモ民法ニ於テ  
此規定ヲ設ケタルノ理由ハ全ク別個ニ属スルモノナリ即チ民事上ニ  
於テハ裁判所ノ管轄ヲ知ルコト極メテ困難ニシテ常ニ法律ニ従事スル  
者ト雖モ尙ホ且之ヲ誤ルコトナキヲ保セス況ンヤ法律ヲ熟知セザル訴  
訟人ニ在テハ之ヲ知ルコト最モ困難ナルニ今訴訟人カ其手續ヲ爲シ以  
テ時効ノ期間ヲ中斷セント爲スニ當リ偶其裁判所ノ管轄ヲ誤リタル  
カ爲メ中斷ノ効力ヲ生セスト爲シ其權利ヲ失ハシムルカ如キハ是レ  
至嚴ニシテ寧ロ刻ニ過クルノ嫌ナキト能ハス固ヨリ人ノ權利ヲ保護  
スル所以ニ非スト爲スニ在リ

本條ニ於テ起訴豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタルカ爲メ無効ニ  
属スルルハ中斷ノ効チ生スルコトナクシテ裁判所ノ管轄違ナルコト因リ  
手續ノ無効ト爲リタルルハ中斷ノ効ヲ生スルニ妨ケナシト爲シタル  
所以ハ如何余願フニ他無シ中斷ノ効ヲ生スヘキモノハ手續其者ニシ  
テ其手續ヲ受理シタル裁判所ニアラサレハナシ蓋規定ニ適シタル起  
訴豫審又ハ公判ノ手續アリタルルハ是レ社會カ犯罪ヲ遺忘セサルノ  
實證ナリト謂フヘシ何ソ又其手續ヲ受理シタル裁判所ノ管轄ナルト  
否トヲ問フヲ須タンヤ但其起訴豫審又ハ公判ノ手續其規定ニ背キタ  
ルニ因リ云々トアルニ依レハ其手續ヲ爲ス所ノ檢事豫審判事等ハ其  
事件ヲ管轄スル者ナラサルヘカラサルヤ蓋言ヲ竣タス故ニ其規定ニ  
背キタルニ因リ云々所謂規定トハ唯法式上ノ規定ナリト速了スヘラ  
サルコト勿論ナリ  
起訴豫審又ハ公判ノ手續ニ因リ一タヒ時効ノ期間ヲ中斷シタル時ハ

其中斷ノ手續ヲ爲シタル最終ノ日ヨリ更ニ其期間ヲ起算スヘキモノトス舊治罪法第十四條ニ於テハ中斷ノ手續ヲ行フニ付キ之レカ制限ヲ設ケ縱使ヒ數回中斷ノ手續ヲ行フモ到底前後ノ日數ヲ通算シテ通常期間ノ二倍ヲ超過ス可ラサルモノトセリ故ニ治罪法ノ規定ニ依レハ違警罪ハ一年輕罪ハ六年重罪ハ二十年ヲ經過スルキハ設ヒ幾回中斷ノ手續ヲ行フト雖モ公訴ハ時効ニ因リ消滅ニ歸ス可シ然ルニ本法ニ於テハ其等制限ナキヲ以テ其數中斷ノ手續ヲ爲スニ從ヒ訴權ヲ無窮ニ保維スルコトヲ得可キナリ

時効中斷  
手續ハ必  
スシモ本  
犯ヲ指名  
スルヲ要  
セス

時効ノ期間ヲ中斷スル爲メ行フ所ノ手續ハ必スシモ本犯ヲ指名スルヲ要セサルモノトス故ニ正犯從犯ノ何人タルヲ發覺セス又民事擔當ノ何人タルヤ分明ナラサル時ト雖モ其犯罪事件ニ關シテ證人ヲ訊問シ又ハ嫌疑ノ屬スル者アラハ之ヲ訊問スルカ如キ皆其事件全體ニ關スル手續ナルカ故ニ亦其事件全體ニ付キ公訴時効ノ期間ヲ中斷スル

コトヲ得可シ此故ニ犯人等ニ於テハ中斷ノ手續アリタルコトヲ知ラサル時ト雖モ亦其中斷ノ効ヲ生スルニ妨ケナシ唯檢事等ニ於テ必要ノ手續ヲ爲シ其犯罪事件ヲ忘却セサルコトヲ表示スルヲ以テ則チ足レリトス(獨逸ノ法律ニテハ本犯ヲ指名シテ爲シタル手續ニ非サレハ中斷ノ効ヲ生セサルモノトセリ)

公訴時効  
ノ中斷ハ  
民事時効  
ノ停止ト  
混同ス可  
ラス

爰ニ又民事ノ時効ニハ期間ノ停止ナルモノアリ民法證據編第二百二十五條以下ニ規定シタルモノ即チ是ナリ蓋此停止ナルモノハ專ハラ無能力者ノ權利ヲ保護スルカ爲メニ設ケタルモノニシテ即チ幼者禁治產者等ノ爲メ特ニ或ル期間時効ノ經過ヲ停止スルナリ  
停止ト中斷トハ決シテ混同ス可ラス夫レ停止ハ恰モ航行中碇泊シタルカ如ク其停止ノ間ハ進行ヲ停ムルニ拘ラス其停止前後ニ經過シタル期間ハ之ヲ通算ス可キモノトス例ヘハ或ル負債ニ付キ時効ノ期間既ニ四年ヲ經過シタルニ方リ債主死去シテ其相續人幼者ナリトセン



此相續人ノ丁年ニ滿ツル迄ノ期間ハ時効ノ經過ヲ停止シ其丁年ニ至  
 リタルヨリ再ヒ進行ヲ始メ五年六年ヲ計算スヘキモノトス要スルニ  
 停止ハ以テ其以前經過シタル期間ヲ除去スルモノニアラサルモ中斷  
 ハ其以前ニ經過シタル期間ヲ除去シ無効トスルモノニシテ即チ其經  
 過シタル前後ノ期間ヲ通算スルモノニアラサルナリ

刑事上ノ  
 時効ニ付  
 止ナルモ  
 ノアリヤ  
 否

刑事上ノ時効ニ付テハ此停止ナルモノアル乎第九條ニ曰ク「私訴ノ時  
 効ハ被害者無能力ナル時云々公訴ノ時効ト其期間ヲ同クス」ト是ニ依  
 テ之ヲ視レハ私訴ノ時効ハ設ヒ被害者即チ民事原告人カ無能力者タ  
 ルキト雖モ彼レ民法上ノ時効ニ於ケルカ如ク期間停止ノ特典ヲ受ク  
 ルヲナキ旨ヲ示シタルモノニシテ即チ又暗ニ公訴ノ時効ニ付キ期間  
 ヲ停止スルヲナキヲ知ラシメント爲シタルヤ明ナリ  
 然レモ檢事ハ法律上又ハ事實上ニ於テ障礙ヲ生シ爲メニ實際公訴ヲ  
 起シ得サル場合ナシトモ例ヘハ犯罪ノ久シク發覺セサリシカ爲メ

檢事カ時機ニ臨ミ公訴ヲ起スヲ得サル時又ハ犯罪已ニ發覺スルモ戰  
 争洪水等ノ爲メ公訴ヲ起スヲ能ハサル時ノ如キハ事實上ノ障礙アリ  
 トス此等ノ障礙アル場合ハ起訴ノ點ニ付テハ檢事ヲ無能力者ニ比ス  
 可キカ如クナリト雖モ決シテ然ラス是等ノ場合ト雖モ時効ノ期間ハ  
 常ニ進行シテ瞬時モ躊躇セサルナリ蓋時効ハ社會カ犯罪ヲ遺忘スル  
 ノ推測ニ職由スルモノナルヲ以テ縱令ヒ犯罪ノ發覺セサル時又ハ戰  
 争洪水ノ際ト雖モ期間經過ノ効ニ因リ社會ノ犯罪ヲ遺忘シ若クハ注  
 意セサルヲニ付テハ敢テ通常ノ場合ニ異ナルヲナケレハナリ又法律  
 上ノ障礙トハ例ヘハ被告人ノ精神錯乱中又ハ豫決ス可キ事件ニ付キ  
 民事裁判所ノ審査中豫審若クハ公判ノ手續ヲ繼續スルヲ能ハサルカ  
 如キ是ナリ此法律上ノ障礙アル場合ニ於テ時効ノ停止スルヤ否ニ付  
 テハ佛國ニ於テモ議論ナキニ非スト雖モ余ハ尙ホ停止セスト謂フヲ  
 以テ穩當ナリト思考ス但余ノ說ニ從ヒ停止セスト爲ス時ハ是等法律

時効ノ起  
算又ハ  
中斷ニ付  
キ公訴ト  
私訴トナ  
ル理由

上ノ障碍ノ場合ハ一方ニ於テハ法律自カラ公訴ノ實行ヲ停止セシメ  
又他ノ一方ニ於テハ其停止ニ因リ時効ノ進行ヲ停止セサルヲ以テ既  
ニ生シタル公訴權ヲ法律自カラ消滅セシムルカ如ク頗ル奇怪ノ外觀  
ヲ呈スルニ似タリ然レモ能ク時効ノ制アル理由ニ溯ホリ之ヲ攻究ス  
ル時ハ敢テ怪ムニ足ルモノナシ蓋法律上ノ障碍ニ因リ豫審公判ノ手  
續ヲ停止スル時ト雖モ其期間ノ經過ト共ニ社會ノ犯罪ヲ遺忘スルコ  
ト付テハ則チ一般ノ場合ニ異ナルコトナケレハナリ獨逸法白耳義法ニ  
於テハ反對ノ論決ヲ採リ豫決ス可キ事件ニ付キ民事裁判所ノ審査中  
ハ時効ノ期間ヲ停止スヘシト爲セリ

抑法律ハ時効ノ數多ノ點ニ於テ公訴ト私訴トノ運命ヲ共ニセシム即  
チ第九條ニ於テハ其期間ヲ同クシ第十條ニ於テハ其起算ノ點ヲ同ク  
シ又第十一條ニ記載スル所ヲ以テ之ヲ觀レハ公訴ニ付キ時効ヲ中斷  
スルノ手續ヲ爲スニ於テハ施テ私訴ニ付キテモ亦時効ヲ中斷シク

ト爲ス此等公私ノ兩訴ヲ同一ノ規定ニ從ハシムルハ能ク道理ニ適  
スルヤ否ヤ之ヲ瞥見スル時ハ私訴ニハ宜シク民法上規定ノ時効ヲ適  
用スヘク公訴ニハ宜シク別ニ公訴時効ノ規定ヲ適用スヘキニ似タリ  
且又公訴私訴ニ付テ同一ノ規定ヲ適用スル時ハ奇異ノ結果ヲ生スル  
ヲ見ル可シ何トナレハ一所爲ニシテ刑法ニ觸ル、ト同時ニ他人ニ損  
害ヲ加ヘタル時ハ本法ニ從ヒ十年三年六月ノ時効ニ因リ賠償ノ義務  
ヲ免ル、ヲ得ルト雖モ若シ他人ニ損害ヲ加フルノ所爲ニシテ而シテ  
其刑法ニ觸レサル時ハ即チ却テ民法ノ規定ニ從ヒ三十年(民法証據編  
第百五十條)ノ後ニ非サレハ時効ニ因リ賠償ノ義務ヲ免カル、能ハス  
刑法上罰スル所ノ所爲ニ因テ生シタル義務ハ之ヲ免カル、カ爲メニ  
久キヲ要セスシテ却テ單ニ民法上ノ責ヲ生スル所ノ所爲ニ因テ生シ  
タル義務ヲ免カル、カ爲メニ久キヲ要スルハ豈ニ事ノ大小輕重ヲ頗  
倒スルモノニ非スヤ

然ルニ法律ニ於テ此奇異ナル結果ノ生スルニ拘ラス公訴私訴ニ付キ  
 同一ノ規定ヲ適用シタルハ他ニ理由ノ存スルモノアルカ故ナリ  
 若シ私訴時効ノ期間ヲシテ公訴時効ノ期間ヨリモ長カラシメン乎檢  
 事ハ既ニ公訴權消滅シテ公訴ヲ起スヲ能ハサルノ時ニ至リ被害者ハ  
 尙ホ犯罪ヲ原由ト爲シ民事裁判所ニ私訴ヲ起シ賠償ノ言渡ヲ爲サシ  
 ムルヲ得ルニ至ル可シ苟クモ此ノ如クハ法律ノ實力ヲシテ鞏固  
 ナラシムル所以ニアラス且同一ノ犯罪ニ對シ社會ノ代理者タル檢事  
 ハ已ニ公訴ヲ起ス能ハサルニ被害者ハ尙ホ其犯罪ヲ申立テ損害賠償  
 ヲ訴求シ得可シトセハ是レ社會ノ既ニ犯罪ヲ忘却シテ犯人視セサル  
 者ヲ再ヒ犯人視スルノ理ナリ即チ社會ノ遺忘シタル犯罪ヲ再ヒ摘發  
 セシムルニ至ルヘキナリ  
 加之ナラス同一ノ所爲ニ付キ社會ニ對シ公訴權ノ消滅ヲ來タス時ハ  
 社會ノ一原素タル被害者ニ對シテモ亦齊シク其訴權ノ消滅ヲ來タス

香江其多  
 案ニイリ

一固ヨリ當然ナリ蓋法律ハ公訴私訴ノ間ニ時効ノ期間ヲ同一ニシ被  
 害者ニ向テ其懈怠ヲ警メ公訴權ノ存立スル間ニ非サレハ則チ私訴ヲ  
 起スヲ得スト規定シ以テ檢事ノ聲援ヲ爲シ事實ヲ明晰ナラシメン  
 一ヲ獎勵シタルナリ但時効ニ關シ私訴ト公訴ト運命ヲ共ニスヘキ規  
 定ハ獨逸及ヒ魯西亞ノ法律ニ見サル所ナリ  
 之ヲ要スルニ私訴ハ損害ノ原因全ク犯罪ニ在ルヲ以テ乃チ公訴ト其  
 時効ニ關スル規定ヲ同クスルモノナリ故ニ正犯從犯ニシテ私訴ノ被  
 告人ト爲ルヘキ時ハ勿論民事擔當人ニ對シテ私訴ヲ起ス場合ト雖モ  
 總テ公訴ト時効ノ期間ヲ同クスヘキナリ  
 然ルニ民事擔當人ニ對シ私訴ヲ起ス場合ニ付テハ或ハ異論ヲ唱フル  
 者ナキニアラス蓋其說ニ曰民事擔當人ノ損害ヲ負擔スルハ敢テ自カ  
 ラ犯罪ヲ爲シタルニ因ルニ非スシテ畢竟犯人ヲ監督スルヲ怠リタ  
 ルカ爲メ其責ニ任スル者ナレハ則チ其義務ノ原因犯罪ニ非スシテ全

民事擔當  
 人ニ對ス  
 ル私訴ノ  
 時効トモ  
 公訴トモ  
 命ヲ共ニ  
 スル事ニ

ク民事上ノ准犯罪ニ原因スルモノト謂フ可シ左レハ時効ノ規定モ亦民法ニ從フ可キヲ至當ト爲スト  
此説タル甚タ巧妙ナルニ似タリ然レモ若シ此説ニ從フ時ハ亦甚タ厭忌ス可キ結果ヲ生ス例ヘハ其犯者數人アリテ其中一人幼者ナル時ハ他ノ共犯者ニ對シテハ己ニ時効ニ因リ私訴ヲ起ス可キ能ハサルニ獨リ幼者ノ民事擔當人ニ對シテハ尙ホ私訴ヲ起スヲ得可ク又或ハ正犯ニ對シテハ己ニ私訴ヲ起ス可キ能ハサルニ從犯若シ幼者ナル時ハ其民事擔當人ニ對シテハ尙ホ私訴ヲ起スヲ得ルニ至ル可キナリ然リ而シテ民事擔當人ニ對シテ私訴ヲ起サントスルニ方テハ必スヤ其犯罪事件ヲ證明セサルヲ得サル可シ其レ此ノ如シハ他ノ犯人ニ對スル公訴ノ時効ニ因テ消滅シタル後ニ至リ再ヒ犯罪ヲ證明スルモノナリ否ナ第九條ノ精神ニ背反スルモノニアラスシテ何ソヤ故ニ此説ハ到底余ノ採用スルコトヲ肯テセサル所ナリ

凡ソ公訴ノ時効ニ因リ已ニ消滅シタル後ニ至リ更ニ私訴ヲ起シテ犯罪ノ成立ヲ證明スルカ如キハ法律ノ精神ニ背反スルヤ明ナリ前既ニ述ヘタルカ如ク私訴ノ時効ヲ公訴ト同一ニ規定シタルハ社會ノ已ニ遺忘シタル犯罪事件ヲ再ヒ摘發セシメサルニ在リ故ニ余ハ以爲ラク被害者縱使ヒ其名稱ヲ變更スルモ訴求ノ原因尙クモ犯罪ニ在リ而シテ其犯罪公訴ノ時効ニ因リ消滅シタルモノナランニハ翅ニ被告人カ其私訴ヲ拒ムノ權アルノミナラス裁判所モ亦職權ヲ以テ之ヲ棄却スルヲ得可キナリ例ヘハ詐欺取財ノ被害者ニ於テ既ニ公訴時効ノ期間ヲ經過シタル後故サト其受害ノ詐欺取財ニ原因スルコトヲ申立テス通常民事上ノ詐欺ニ罹リ損害ヲ被ムリタルコトヲ主張シテ要償ノ訴ヲ起シタル時ノ如シ其名稱ハ設ヒ民事上ノ損害賠償ナリト雖モ其實犯罪ニ原因スル私訴ナルヲ以テ裁判所ハ其事實ヲ審明スルニ於テハ必ス之ヲ却下セサル可ラス蓋公訴時効ノ規定ヲ私訴ノ時効ニ適用シタルハ前